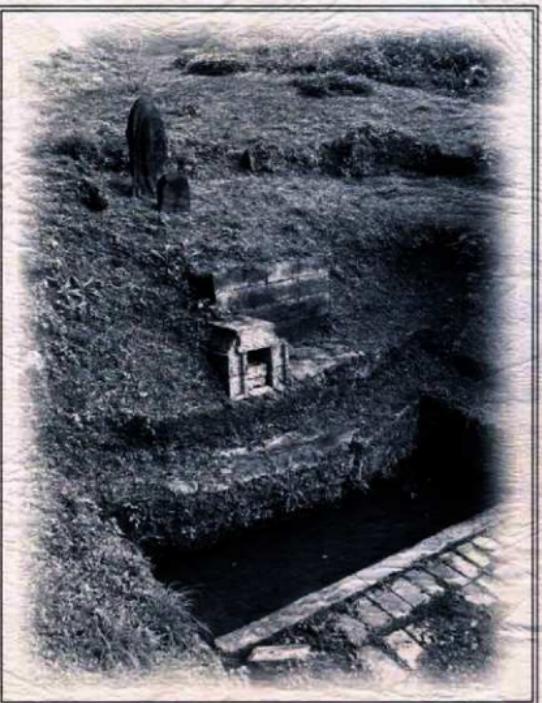


池原の伝承を たずねて

たずねて



一〇〇五年三月

池原

方言ではイチバルという。沖縄本島中部、カニカラ
ン川流域に位置。古老によれば、古くはトー（平
坦な場所の意）と称し、スクブ御嶽が集落発祥の
地と伝わる。

池原の伝承を

たずねて



あいさつ

このたび、沖縄市文化財調査報告書第三十一集「池原の伝承をたずねて」を発刊するにあたり、一言「あいさつ申しあげます。

昔話は、地域の風土の中で育まれ、時代をこえて語り継がれてきた先人の遺産といえるものです。しかし、めまぐるしく変化してゆく時代の流れにより、昔話を語り継いでゆくことも次第に困難な状況となっています。

こうしたことから、沖縄市教育委員会では、昔話の保存・継承を図るために、昭和五十五年度より沖縄国際大学口承文芸研究会の協力を仰ぎ、昔話調査を実施して参りました。

その中から、沖縄市池原のはじまりや、生活と結びついた様々な地名、池原で行われた祭祀・行事や伝説などを中心に構成したものが、本書の内容となっております。

本書が、家庭や学校のみならず、生涯学習の場で広く活用されることを期待いたし、末尾となりましたが、調査にご協力いただきました地域の皆様ならびに関係者に対しまして、深く感謝申し上げます。

二〇〇五（平成十七）年三月

沖縄市教育委員会

教育長 渡嘉敷直勝

凡例

一 池原伝説編の資料と構成

- ① 本書は、昭和五十五年度に沖縄市教育委員会が沖縄国際大学口承芸術研究会に民話調査を依頼し、字池原と登川の調査を行った。その調査成果をもとに、平成十六年度まで、わらべ歌調査・民俗調査・その他文化財調査等において聴取した民話・民俗の中から伝説に関するものを抽出し構成した。

- ② 本書の編集にあたっては、話者の住所に關係なく池原に關係する伝説を収録した。また、桜井清氏がまとめた「私が推察する池原村及び當村」の中より、池原の伝説に関するものも紹介した。

二 本書掲載話の選定基準

- ① 聽取した伝説を翻字対訳話として本文として掲載した。その場合、民俗的な話や世間話、体験談など重要な意味をもつものであるものと判断した話は掲載する様に努めた。
- ② 「沖縄市の民話」を課題とする、平成二年・平成三年度沖縄国際大学文学部国文学科の学生七名が沖縄市の民話を研究し、卒業論文として提出している。

平成二年度 旧美里地区 上門 博之・山城綾子・宜保 勝
平成二年度 旧コザ地区 香村 夏子・照屋京子・石川小百合

大川清子

その翻字話の中から、本文掲載話を選定した。これらの翻字話は、

掲載話本文の分量としては充分な分量でなかつたため、翻字されてない話の中から池原に関する話を事務局で追加翻字をした。

三 翻字話の整備

- ① 語りを忠実に発音のまま翻字することを原則とした。口癖や場つきの「あのう」「このう」などは出来る限り省略し、共通語と方言が著しく混在する話については、共通語の表現として整備した。

- ② 段落の設定及び、句読点の扱いは可能な限り話者の語りに即するよう心掛けたが、語りの区切りがない場合は、翻字の判断で適宜句読点を打ち、話の展開にそつて段落を設定した。

- ③ 語りの中の会話部分は、その始めの部分で改行し、会話を示す「――」を用いた。

- ④ 言葉の脱落や、内容の前後があつたりして、ストーリーが理解しにくい場合は（――）で言葉を補つたり、話の展開から考えて前後を入れ替えたりして適宜整備した。

- ⑤ 基本的には方言をそのまま標準語訳したが、直訳では意味を充分に把握できない、理解できないと思われるところについては、内容から読み取り、言葉を補つたところもある。

四 本文について

- ① 話のはじめに題名、話者及び生年月日を記し、池原以外の地域の話

者については話者名の後に字名を記した。調査員が様々な場所で突

発的に聞き取った話については調査年月日が不明なものもある。ま

た、桜井清氏、佐渡山安光氏による提供資料はテープ番号や調査年

月日を巻末の本文掲載一覧に記していない。

② 民俗語彙や人名、動物名、屋号など、漢字を当てたほうが良いものには漢字をあて、池原の人々が呼び親しんできた呼称でルビをふつた。

③ 対訳・共通語翻字において、方言をそのまま用いたほうが良いと判断した場合は方言を用い、() 内に訳を入れるか、注記にした。

五 方言表記について

① 方言は漢字仮名混じり文とし、初出の漢字、および同じ漢字でも音声の違うところにはふり仮名をつけた。また、漢字のあてられる箇所にはできるだけ漢字を用いたが、無理にこじつけた当て字は避けた。

② 方言の引き音はすべてーで表した。ただし、引き音に助詞(ーは、ーが、ーの、ーを、ーに等)が含まれている場合には、助詞にあた

る部分を小文字で表し、引き音に送りかなが含まれる場合は、送り仮名の部分をーで表した。

例1 片足あうたびてーん(片足をくださった)
例2 連ていちえーぐどう(連れてきたので)

③ 方言翻字において、() は調査者の質問で、質問によつて話が展開していく場合に限り翻字した。

六 注記について

① 人名、民俗語彙についてはできるだけ注記した。なお、文献などを参考にした場合には() で文献名などを記した。

② 難解語句、意味の取りにくい部分については注記で説明するようにした。

③ 不明語句については佐渡山安光氏に御教示いただいた。

七 本文掲載順序

① 池原の成り立ちがわかるように配列した。

八 掲載写真とイラスト

① 写真については主に沖縄市立郷土博物館所蔵写真を使用したが、他に池原自治会(島崎雅之氏)と石川在の佐次田幸栄氏から提供していただいた。

② イラストは長浜益美氏に描いていただいた。

九 調査にあたつて池原の自治会長に調査への便宜を図つていただきました。記して感謝の意を表します。

十 本文に関わる地図を掲載しました。史跡を訪ねる際には個人の家などがありますので、ご迷惑のかからないように充分ご配慮をお願いいたします。

目 次

あいさつ	3
凡例	4
民俗地図	8
I 集落の始まり	
[1] 池原の始まり	10
[2] 池原と登川の始まり	11
[3] 池原の名の由来	15
II 集落のようす	
[1] 原名について	18
原名一覧表及び地図	26
[2] 池原の屋号	33
[3] 池原の建造物	41
[4] 蓼らしを支えた水	47
戦前の池原のカ一(地図)	52
[5] 民俗知識	53

III 集落に伝わる祭祀・行事

[1] 生まれる命と消えゆく命	68
[2] 年中行事	84
年中行事一覧表	92
[3] 芸能・娛樂	97

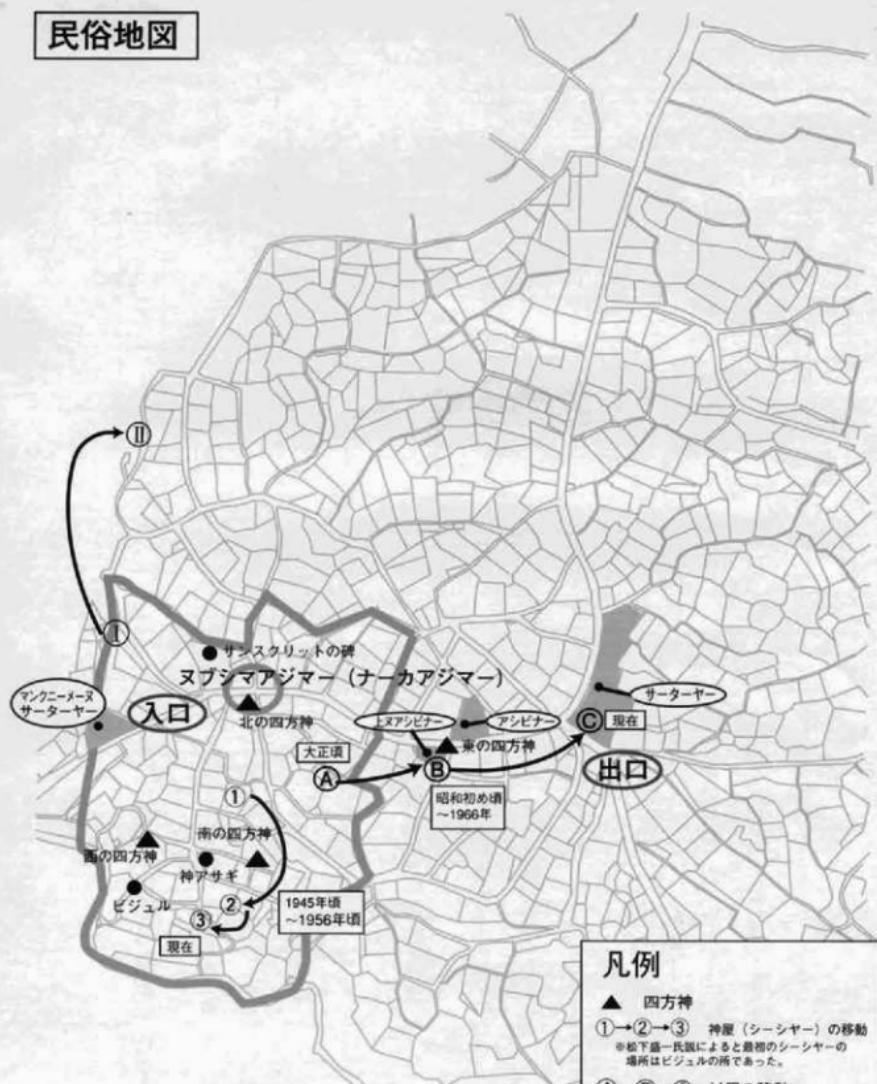
IV 集落に伝わる人物

[1] 美人と武士が生まれないわけ	110
[2] スクブ御嶽にまつわる伝説	110
[3] 池原祝女	127

【資料一覧】

本文掲載話一覧	130
調査日誌と調査協力者	135
参考文献	136

民俗地図



凡例

- ▲ 四方神
- ①→②→③ 神屋（シーシャー）の移動
※松下盛一氏說によると最初のシーシャーの場所はビジュルの所であった。
- Ⓐ→Ⓑ→Ⓒ 村屋の移動
- ①→② 神代（ガンヤー）の移動
- 入口** 村の入口 > シマカンカーセを行った場所
- 出口** 村の出口 > シマカンカーセを行った場所
- 昔の池原集落の範囲

I

集落の始まり



I 集落の始まり

〔1〕池原の始まり

① 池原の始まり

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原は沖縄市の一帯北に位置し石川市と具志川市に境を接する地域です。この地は以前越米間切に属していましたが、寛文六年（一六六六年）美里間切新設の時に移管されました。開発の進む市内にあって数少ない農業地域となっているため、緑が多く、静かなたたずまいの集落です。古い集落形態が残つており、戦前の屋敷構えやフールヤー、井戸のようすなどをみることができます。

池原の始まりについては、根人や根屋にも歴史的な変遷があり、池原の集落の成立を見えていくま

す。文献ではほとんど確認することのできない池原の歴史は、親から子へと口承によって伝えられてきました。古老一人一人から聞き取った伝説は口承伝説なので、伝承する人によって細部に異同があり、一人の話者がすべてを話せるというわけではありません。しかし、断片的な話を繋げてゆくと、池原の辿ってきた歴史の道が見えてきます。

また、池原には、伝説を証明するような風景があちらこちらに残っており、その昔池原で何があつたか想像したり、歴史をしのぶことが出来ます。

池原の始まりについて、古老は池原の部落はかつてスクブ御嶽のところで居を構えてたという伝承を次のように語っています。

池原と知花は兄弟である。今から八百（一〇〇〇年前、瑞慶山にいた）先祖は、片一方は知花に行き、もう片一方はスクブ御嶽に行つた。スクブから今の池原に移動してきている。

② 池原の始まり

与那嶺松栄（明治三十七年八月二十五日生）

はつきりしたことは知らないですがね、池原部落の伝説になりますけどね。

ずっと大昔の方は、越米から転籍になりました。池原の部落を築いて、それから又、池原の部落から登川の方に、また、次男、三男の分家になつたわけですよ。だが、それが約、今、池原から登川の分離なつたものは、約五百年ぐらいなんですかねえ。登川の方でも、ずっと前に四百年記念の何かはでておりますがね。越米から池原に転籍なつたものは、約五百年、六百年ぐらゐになるんじゃないですかねえ。

*1 瑞慶山 沖縄市最北端にある貯水ダムのある場所を瑞慶山といつてた。

*2 スクブ御嶽 スクブとは沖縄の方言でもみがること。御嶽とは聖地の総称で祝女が祈願や祭りを行う場所であり、村の信仰の核となつている。

行政区は豊川だが、池原の御嶽である。昔はこの一帯に池原村があつたといわれてゐる。旧暦十一月十一日「御嶽御靈」に「トの御靈」とともに拝む。

③ 池原の始まり

東静江（明治四十年六月二十五日生）

あのね、始めは首里^{ナリ}の御殿^{ノミコト}ぬ子達がよー、昔、士

同士で喧嘩やつてよー、首里から越米の方に逃げていでになつて、越來から知花の方に移転やつて。むこうから、また、たつていてるその子供達の女の子がこの池原の部落の方を作つてき。女の子が部落をつくつたので、祝女^{ヒサシナ}の神様が今信じられてお宮で祀られるそうや。昔の話は祝女がこの池原の部落を作ったなんの話があつたんです。今も昔と変わらずに皆で信じて拝んでる。

〔2〕 池原と登川の始まり

③ トースムラ

桜井清（大正八年十一月二十日生）

トーとは北美小学校敷地内にある地名です。かつて、そこにはトーの村があつたといわれ、池原と登川の集落発生に関わる話が様々に伝えられています。

① ムトウジマとトースムラ

柴野比トヨ（大正六年十月十日生 知花

今の北美小学校の反対側の所に「シマを作ろうねえ」と、知花からはチバナヤーが行き、登川はイキニーグワー一門、池原からは三世帯が行つた。そこはムトウジマともいう。

北美小学校の所にあるウガンジユは「トースムラ」という。

② トースムラ

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

〔昔の〕トースムラは今の北美小学校の所にあつた。そこはフェーレー所（追い剥ぎの出る所）で悪人がたくさんいたのでそこには住めないと、今の登川くさんいたのでそこには住めないと、今の登川の本部落の所へ移ってきた。

登川が池原から分かれてきてから今年で大概二百二十年位たつ。トースムラの所をムトウジマともいっている。そこにはムトウガ（飲み水に使つた）などがあつた。

*3 稲田 王府が各村に任命して配置し、村落の祭祀を司る任務を負つた神女。

*4 ムトウジマ 主として近世に集落が移動したのちの旧村落跡。古島ともいう。

*5 トースムラ・池原と知花の間には人家が多く、度々フェーレー（追いはぎ）が出没して、通行人を悩ましていたため、王府が池原から七世帯を命じてここに移住させた。

三九年、現在の登川に移動するとき、再び池原村から七世帯を合併させたといわれている。

*6 兼蔵城 具志川市字兼蔵段北側にあるグシク。居城というよりも御城の性格が強い。

駐屯地ではなかつたか。

ト一と言う意味は、支配するという意味があるのではないかと思う。池原の原名にもト一とつくのが多い。

メードーウカイ・シマトーカイ・イズミントー・タカニドー・イケントー・ウーバチドー等。

④ トース御嶽

松下栄吉 明治三十五年二月十五日生

(方言原話)

早く登川やしそーやー。登川んち、登るんりる字やしゃやー。あぬー、今ぬ橋よー、うまーたつちゅー坂やたんよー。

あんさくどう、くまから今ぬ学校ぬ門ぬ碑文ぬ建つちょーぬ所よー、うまー今言いどうんしょー強盜て、へーライりるばーよー。うりが立ちゆる所なやーに、道ん人歩つちーるんしょー、邪魔しち、くん取いてーるばーよー。とーあんしそーならんち、くまから七人頑丈者、あまんじ家あ分かちさくどう、登川行じぬ川んり、川登て行じるうまんかい。あんさーあまーん登川。登川やしそー、川ありから来、くりから登ぶて行ちゅぐどう登川りるばー。今あ道え、一回、二回、三回通いんよー、二回。元ぬ道えかんそーたんよー、登川んかい行ち所、あんしました元や、軍道んち作て、軍道から県道、今あまた国道などーるばー。あんさー今あなーゆんだかー

ない。昔ぬくとーむる分からんばーなどーん。あんさーに登川んりしそーやー、くま、あまる、川やありからちゅーくどうや、川やありからちゅーくどう、くまらかい登いぐどう、登川んりるばー。

(共通語訳)

登川というのは、登るという字を当てているでしょう。今、橋が架かっている所があるが、そこは以前は勾配のきつい坂であった。

ここから、今学校の門の碑文が建てられている所にね、今で言えば強盗だね、ヘーライ（おいはぎ）がいたんだよ。それが立つ所になつて、その近くを歩く人を邪魔してなにかと奪い取つてた。もうこんなことはいけないといつて、ここから七人の頑丈者が選ばれ、あそこで家を建てた。だから登つていく川。川を登つていくからね、そこには、だから登川。ここから登つていくから登川と付けられた。

登川といつて道も三回程作り直されている。以前は勾配の急な坂で、軍道を作り、軍道から県道、今はもう国道になつてているでしょう。もう今では急勾配の坂ではなく、同じ高さになつてている。昔の面影もないね。だから、登川というのは川は向こうから流れきていてその川を登つて行くというので、登川というんだよ。



トース御嶽

*7 たつちゅー坂 急な坂。荷物を持って登るのはかなりの重労働であったという。

(5) トースヤマ

仲里マスイ (明治二十五年三月十日生)

(方言原話)

昔ぬ話や、トース山んでい言つとうくろー、^{にょん}登川や、くまからぬ家たちやー登川あ、家たちやー。^{んか}昔えトース山あへーライぬ居てーきさんでいいちぬ話や聞ちゃんよ。「フエーライぬうてーちんどーやー」でいる話や聞ちやしがてー。「登川あ、くまから家たちやーやてーちさー」でい言ち。あんし、トース山あ、ヘーライぬうでーんでいがやらー、あまなでー、うつびなーそーる石^{イシ}三^ミちかんしなばーいたなんよー。あたしが、ヘーライぬうでいがうぬ石え神様で、いちあがみとーたらー、うぬ、^う石え神様んで、いちよー、御願所やたん。うぬ話や聞ちやてー。字ぬ人ぬ拌^{ハタハタ}が行じえーしーしーすたんよー。あんすたしが、なーくぬアメリカ世なたくどうメチャクチヤなどーるばーてー。

(共通語訳)

昔の話はトース山と言うところは、登川が池原から分かれて部落をつくったところ。昔はトース山に追ははぎがいたらしいという話を聞いた。「フエーライがいたらしいよ」という話は聞いたんだが。また、「登川はここからの分家である」というそういう話があった。トース山に追ははぎがいたからなのか、それを除けるという意味だったかわからないが、そこには両手で抱える程の大きな石が三個祀られており

神様として崇めていた。御願所として字の人たちが

拝みに行っていた。戦後にになってメチャクチヤになつた。

*8ムトウジマ 主として近世に集落が移動したのちの旧村落跡。吉島ともいう。

*9トーンチユ 中国のことを唐といい、唐の人のことをトーンチユといつた。

*10根人 集落の村建てをした家を根家といい、その家主を根人といつた。

(6) トースヤマ

池原安輝 (明治二十八年七月二日生) 知花

池原からトースヤマに移つてきて、それから、登川に移つたのでそこをムトウジマともいふ。そこでトーンチユがお金を作つた。

(7) トースヤマ

松下盛一 (明治四十五年五月十日生)

北美小学校の門付近トースヤマがある。トーンチユがそこでお金を作った。トーンチユが住んでいた屋敷はミーヤシチと呼んでおり、現在、私の子供が養子として住んでいる。

(8) トースヤマ

佐渡山安光 (昭和二十二年六月二十八日生)

池原は昔トーと呼ばれていた。トースヤマから根人が出たと思われる。ムラヤーと倉を管理していたのではないか。

⑨ トース御嶽とスクブ御嶽

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

スクブ御嶽は池原の御嶽になつてゐる。軍が使用している場合に賃料は池原がもらつてゐた。今は開放になつてゐるので賃料もないはずだが、あれは、一二千坪あるはずよ。登川は池原から分家した部落だから、あつちは池原のものになつてゐるし、また、北美のところにトーメヤマつていつてあるんだが、

あつちも御嶽所になつてゐるさあ。北美学校に入る門のところにウガンジユがあるさあね。あれはまた登川のものになつてゐるはず。戦前、微兵検査するときや、出征のときは最初にスクブ御嶽を拝んでから行かせた。スクブ御嶽はお正月と、十一月始めのころであつたか、タキマードイと称して、縄を紡ぐ御嶽の周りを三回囲んでから拝んだ。

⑩ スクブ御嶽（池原の嶽）

仲里マスイ（明治二十五年三月十日生）

（方言原語）

登川ぬ前んけー、アメリカーが半分が壞ちえーらやー。いひぐわーや残くとーたひが。今んあいがすらなー、そーらーこーわからんしが。あまぬ嶽え、池原ぬ嶽どうやんどー。池原ぬ嶽。

わつたーん村から歩ち、村ぬうえすわよー、うにばー、あまんじ、御嶽所あたんよー。あまん嶽あ

* 12 ウガンジユ 村人が祈願する聖域のこと。拜所。

い、また、トース山んあい。登川ぬ前ぬ嶽え、あれー、池原ぬ嶽どうやたる。たた、池原ぬ嶽んどう言ちよーるばーよー。あれー、登川ぬむのーあらんどー。また、トース山どう。村内んけーんあしがてー、ぬーただ、御嶽所でいる言ちよーるよ。うまなけーあんよー。道ぬ端でー。うまー、ぬ嶽でーが言ちよーらー。たた、御嶽所や、つちさんでー。登川ぬ後なけーん御嶽所ぬあつちさでいちぬ話や聞かりーしが。なまぬ世なたくとう、メチャクチャないむるわからん。

（共通語訳）

登川の前にある御嶽は、アメリカーが半分壊したのか。少しは残つてゐたが今もあるのかはつきりしたことはわからないが。あそこの御嶽は池原の御嶽だよ、池原の御嶽。

私たちも村から歩いて拝みに行つたが、村の役人の人たちも村で拝んでいた。そのときにはあそこに御嶽所があつたから。あそこにも御嶽があり、トース山にふつうに池原の御嶽と言つてゐたんだよ。あの御嶽は登川のものではないよ。それにトース山も。集落の中にもあるけど、御嶽所と言ふ言い方をしているんだよ。そこにあるんだけどね。道の傍に。そこも御嶽名をなんと言つてゐるのか。ただ、御嶽所など。登川の後に御嶽所があるという話は聞いてゐるんだが。今の世の中になつたからメチャクチャになつてわからなくなつてしまつた。



スクブ御嶽

[3] 池原の名の由来

① 池原の名の由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

方言原話

ある人の話や、くぬ五穀物で、米、粟、政府に
出すのは仲泊という所に納めよつたって。あんさ
れ一池原あちやー一番初め持つら行ちゅしえーなや
ーに、あんしどう「池原」でいちきてーんでいちぬ
話聞かりーしが。

また、うりから、くまートースムラやしがてー
「池原」でいどう人ぬめんそーやーに「池原」名前
たていたんでい、ちちよーんでいちぬ伝説やあるば
ーてー。はつきりわからーんあんーーなー。上納物
おちやー一番早さんでいてー池原るー。あんさーに
「池原」んち、ちちちきてーんでいぬ話んあい。一
番つていう意味の「池原」になつたわけですね。で、
「池原」と言う人がきてその名前がついたって」とい
うふうにたーちあんよ。

「もつとありますかねえ。「池」とは関係ないです
か。」「池」とは関係無い。だからね、「池」にはあの
後原というときに、大きな池があつたということも
聞くおるんだがね。それと「原」と「池」と「原」
とくつづけて「池原」んかいなちえーんでいしんうし
が、なー、うれーわからん。(大きな池があつたとい
う話も聞いているわけですか)あ、聞いています。(で、
その池は埋めたとかん、埋めた。(で、いつ頃って

その池は埋めたとかん、埋めた。(で、いつ頃って
いうように聞いていますか)さあ、もう、こっちのね
え道通らんまーるだから、長なんとーるばーんあんや
ー。二百年びかーんならんがやー。話え聞かつとーし
が、わからん。

共通語訳

ある人の話によると、この穀物の五穀さあ、米、粟
など政府への上納物は仲泊という所に納めよつたつ
て。その場合に池原はいつも持つて行くのが一番だつ
たらしく、それで「池原」と名をつけたという話を聞
いたこともあるんだが。

またそれから、ここはトーの村とも呼ばれていたん
だが、「池原」という名前の人がいらしゃつて「池原」
という名前を付けたという伝え話もあるわけ。はつき
りしたことはわからないんだがね。上納物はいつも一
番早かつたからさ池原は。それで「池原」とついたと
いう話もあるし。「一番つていう意味の「池原」にな
つたわけですね。で、「池原」という人がきてその名
前がついたって」という二つあるんだけど。(もつと
ありますかねえ。「池」とは関係無いですか)「池」と
は関係無い。そうだね、「池」には「後原」と呼ばれ
ていた時に大きな池があつたということを聞いておる
んだがね。それと「原」と「池」と「原」とあわせて
「池原」という名前にしたという人もいるが、だけど、
本当のことはわからぬ。(大きい池があつたとい
う話も聞いているわけですね)ええ、聞いています。(で、
その池は埋めたとかん、埋めた。(で、いつ頃って

*13仲泊 恩納村仲泊のこと。
*14トーネムラ 「池原は昔トーと称してい
た」という古老的言い伝えがある。北美小
学校前の陸橋の下に「トー」の御嶽の碑が
建立されている。御嶽は聖地として人々が
心より所とし、信仰の対象として祈りを

捧げる特別な場所である。

また、越前城からスクブ御嶽(現登川に
ある)までの距離が一厘あり「イチリント
ー」と言う地名が残されている。それに由
來して「トー村」とよばれたのかもしれない
といと佐渡山氏は推測。トーとは平坦と言
う意味があるが、トーの御嶽のある場所は
平坦地とはいがたい場所になつてている。
トー村は単独の村として古文書に登場する
ことはない。

*15「池原」でいどう人 王府時代に村の創
建に当たつて派遣された役人の名前にちな
んで付けたということ。

*16後原 治原における屋敷集落。池原の一
番北に位置する。

いうように聞いていますか？さあ、もう、こっちにね、道がなかつた時代だから、長いこと経つてゐるかもしないね。二百年ほど経つてゐるのでないかねえ。そのようなことは聞いてはいるがわからない。

② 池原の名の由来

島袋三郎（大正九年二月一日生）

自然の池が多くあつたので「池原」という名がついた

③ 池原の名の由来

仲宗根盛雄（明治四二年九月十五日生）登川

池原という部落の前は弁当境界から栄野比まで池原だつた。そこには、自然の池がたくさんあつたといふんだね。^{イシクブニ}一池があるしね、^{イシクブバ}ルに。私達の家の後ろにガラシクブと言うとても大きな池があつたんだつて、大きい池が。とにかく地形からいっても池が多かつたので、全部でイキバルもあわせて「池原」という話もあるけどね。

イキントークボーも元は、水溜りであったという話があつた

*17弁当 知花の小字。松並木道の有名な馬場があつた。

*18栄野比 具志川市栄野比のこと。

*19イシクブニ 登川の原名イシクブ原の中にある池のこと。

*20イシクブル 登川にある原名。

*21ガラシクブ スクブ御坂の東側にある小地名。

*22イキントークボー 池原の原名。池武当原にある窪地。現在ボウリング場になつてゐる。

II 集落のようす



II 集落のようす

原名

農村では、畑に名前をつけていました。原名の「原」は主として畑のことをさしますが、広義には農村の小地名を構成し、字（大字）の基礎単位となります。原には固有の名称がつけられ、原名がそのまま小字名になつた所も多くあります。

原名は自然の地形から名づけられたものが多く、人々はその地形や土質を上手に生かし、知恵を働かして利用していました。ところが、開発による地形の変化や、人々の暮らしの変化に伴い、その地名も今ではほとんど使われることがありません。お年寄りでさえもやつと思い出すほどで、人々の記憶から忘れられようとしています。

民話調査で得た地名、由来、伝承等を紹介いたします。

昔の池原村の区域

方言原話

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

【1】原名について

原名について

桜井清（大正八年十一月二十日生）

蔵根のおじいさんによると、池原の昔の区域は、前の泉から松尾の屋敷の下の道路を通り、前乗り佐久

のアジマーに出で、そこから斜左に細い石道を上り、増半田小と次男又吉小の間の小道に出てそこから、東

*1 土地分き 王府時代、成人に達した者に土地の割り替えを行う制度。地割制度。
*2 謝花昇（一八六五—一九〇八）島尻郡東風平の出身。行政官、社会運動家。平民出身で沖縄最初の学士。農民層の立場に立つて県政革新をめざして活動した人物。

那、新屋敷、松下小、仲宗根下藏ン當の砂糖小屋、豆久根、それから、下川道の屋敷の所に坂を下り、池原川につき出て、それから川に沿って下り、前の泉にいたるこの線が旧池原村の区域ということである。

※「民俗地図」（8ページ）参照。

『私が推察する池原村及び當村』

くとう、うれーなー、個人ぬむんけーさーねーなら

始まとーるばーどうやんびー

原名うれーなー、また、小字分けしちからどうま

た、個人、個人ぬんかい土地分けーないくどうんちやるちむえーやしる、まーぬ字じあ、まーまーんかい分きーる、小字字じあ、また、まーまーし分きーんち、うぬ

番所ぬばーねー、また、今ぬ市長どうか、村長どうか、地頭代やてーるばーてー。うぬばーに、各番所んかい取納庫んちあてーるばーよー。うれー、作くるむじゅくいさーに、税金のー納みとてーるばーやすくとう、うぬむじゅくい納さみーる倉庫、各番所んかいあてーるばーよー。

「まー原んでい、仕事おすが

「ヒサガワーラグワーンでいすん」

ぬーんでい言くとう、うぬ話聞ちよーんでいちゃる
ちむえーぬばーどうやる。場所おまーがやらーわった
ーがーわからんでいちやるばーどうやんどー。イリーリー

農民の負担ぬ課税やくどう、うれい、壞ちどうらしんでいち願がたぐどう。あんさーに、うにーからー、なー、税金の一金さーに負担するぐどうし、あんさーに、耕作持ちえー負担の一はんぐどうなたぐどう、東シナ海番所また、倒ちえんでいちやるちむえー。明治三十一年まれー地頭代やーるばーー。あんし、三十年のーなー半分の一地頭代ぬ世半分の一、また、間切なたる、間切長ぬ世。また、明治四十一年の一市町村制敷からーに、あんさーに間切長から、また村長んかいなとーるばー。うぬまーろー、那覇んで一首里区、那覇区内でいいやつとーたしが、市町村制敷かつたくどう那覇市、首里市んでいち、市ちゅくらつとーせー明治

イジュンゲチ、あれー、後原ぬん人ぬ、ゆーさんあ

* 3 土地整理　一八九九年—一九〇三年に行われた土地整理のこと。「沖縄県土地整理法」(一八九九年)より、保有権者や小作人の土地所有権などは法認されるなど、封建的な旧慣制度・税制の抜本的改革が行われた。

れー、あまんじ家造くていしおーくとう、うまから、井戸、湧水ぬあえーぬ。ちょーどうぬふーじーし、よー、なー、自分ぬ使かーる所、またちやーしんちち名けーちきとーるちむえーぬーばーなーやるはじどー。あれー、田ぐわー、田ぐわーどうやたしが、あんすぐどう、うぬ原名やイジユングチんち田ぬ名や言ちよーたるばー。あぬしーどうむでいやまた、シルバルんでい。だから、シルバル。田んば、戦前田んばやたるばーでー。シルバルんでい言ちよーてーるばー。シルバルんくぬ原字んけ入ちねーんしが、うれー、むる、うぬ田や、そーる、しんかんちやーしよー、作くていが言ちよーら、うんなむのー、なー、昔からぬある原名どうやくとー、わったーがむるわからんばーどうやんでー。

(共通語訳)

池原には「十二」の小字があつて、その中にまた小字がある。土地、畠の何年ごと、田の何年ごと、山林の何十年ごと、土地分けがあつたと言うことなんだが。謝花昇さんが、内地留学し卒業し、県庁に入つて農務課長を勤めているときに、「毎年土地分けをしていたら、農民は生活してゆけないから、これは、個人のものとしなければいけない」と言う意味いで、二十九年に土地分けをして、土地整理をして、明治三十六年に所有権を認めて三十七年から国税負担になつた。その当時は、番所と言うのが沖縄にあつたので、番所のときにはね、今で言う市長とか、村長とか、地頭代だつたわけだね。その当時に各番所に取納庫というの

があつたわけね。そこには、作物で税金を納めていたので、それらの作物を納める倉庫が各番所あつたわけだよ。

例えば美里村ならば、美里にあれば、また、東恩納もその当時までは美里だが、東恩納番所というのがあつたんだが、何年か知らないけど、それは農民の負担の課税だから、その制度をなくして欲しいとお願いした。すると、そのときから税金は金で負担するようになり、それで耕作持ちは負担しなくなつたので、東恩納番所も意味がなくなつたということになった。明治三十年までは地頭代と言うのがあつたわけさ。それで三十年の半分は地頭代の世、半分はまた間切になつた、間切長の世。そして、明治四十一年は市町村制が敷かれてから間切長から村長なつて認可になつたわけ。その間は那覇は首里区、那覇区といつてゐたんだが、市町村制敷かれたので那覇市、首里市といつて、市がつくられるようになつたのは明治四十一年から。明治四十二年に県会議員は始まつたんだよ。

原名それは、また、小字分けしてから個人、個人の土地分けが出来るという意味で、どの字は、どこに分ける。小字は、また、どこそこで分けるとうふうに、畠の名前を覚ぼえないと、自分の土地も探がせないということで、小字というのが作られたんだと思うよ。そういうことであるからヒサワレーワーラーぐわーとかいう名前をつけられても、それがどのあたりにあるのか私達にはわからないもの。

「どこ」の畠で仕事をするんだ

それからすると、「ヌブシヌアジマ」ではなくて、「ヌヌブシヌアジマ」ではないかと思う。それが、いつのまにか「ヌブシヌアジマ」になつたのではないと思う。

③ トウングワーメー

桜井清（天正八年十一月二十日生）

「トゥングワーメー」。ほんとは「天願メー」ではなかつたかと思う。勝連城はここに今まで支配している。安慶名、兼商段城と、池原がどれだけ重要であつたかということがいえる。

2 東佐久原（アガリザク・アガリサク）

① 東佐久の名の由来

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

昔、ワンマンな人がいた。メアガリサク（屋号）といつて有名な人で誰もその人に勝つ人がいなかつた。土地分けの時にここからは私のものだと言つたところから東佐久原という名がついた。

② メー東佐久の由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原語）

メー東佐久（あじゆ）で、いじな有名な人がうたんだいしがて、がーじゅー者ぬ。あんさーに、うまぬはたーむるメアガリザクんで、いちきてーんよー原名や。

（共通語訳）

メー東佐久とて大そう強情者で有名な人がいた。

彼の家の周りの烟にはみんなメアガリサクという原名をつけていた。

*4トーンチューサチ ウテー原の脚り。東佐久に入っている。

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

足の関節が痛いとき、池原のおばあさん九十一歳は「トーンチユーサチで足を換えてこようかねえ」と言うそうだ。そのことが、日常的にいわれているということは、池原でも、墓が作られない頃は、崖ぶちや崖下、山底に亡くなつた人を葬つていたのではないかと思われる。その場所には人骨がたくさんあり、人々の目にふれていたのであろう想像することができる。

一九六〇年頃までグリーンアパートのところでもよく見受けられた。

④ トーンチューサチ

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

昔の関節が痛いとき、池原のおばあさん九十一歳は「トーンチユーサチで足を換えてこようかねえ」と言うそうだ。そのことが、日常的にいわれているということは、池原でも、墓が作られない頃は、崖ぶちや崖下、山底に亡くなつた人を葬つていたのではないかと思われる。その場所には人骨がたくさんあり、人々の目にふれていたのであろう想像することができる。

一九六〇年頃までグリーンアパートのところでもよく見受けられた。

3 御宿原（ウフヤードウ・ウシユク）

た。そのドライブインの所の松をミートウマーチといつてゐた。

*5並木

① クガリマーチ由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原話）

くれーてー、石川ん人ぬてー、染屋からスミ染て
い戻やーやよ、池原ぬある人ぬ、くぬ女裸なちょー、
いかーぎやしが、あんさーに、着物むる引つちちと
うらちやぐどう、くぬ、松ぬ下うとーてい、魚がりて
死じやるばー。思み焦がりするばーてー、この女は。
な、家んかい裸なー一行からんしー、着物引つち
とうらちどうあぐどう。あんし、その原の名前を「ク
ガリマーチ」。

（共通語訳）

この話はね、石川の人がね染屋で染め物をしての帰
り、池原のある人が、この女を裸にしてしまった。と
ても美人でね。それに、着ている着物までもみんな引
き裂いてしまったもんだから、家に帰ることもできず、
この松の下で焦がれ死んでしまった。それで、そこの
原の名前を「クガリマーチ」という。

4 泉ン當原（イズミントー）

チユムトウマーチ

榮野比川崎（大正六年十月十日生）知花

（方言原話）

榮野比川崎うまとうぬ境なやーに、今ぬレストラン
の側に植てーしなやーに、チユムトウマーチでい言ち
えーたんで。今んんどー、うぬ、松え。

（共通語訳）

榮野比川崎と池原の村の境に今のレストランの側に
植えられた松でチユムトウマーチという。その松は今
でもある。

5 後原（クシバル）

イチントー

松下栄吉（明治二十五年二月十五日生）

（方言原話）

むとー、トーンでい。昔えトーンでい。トー村。池
原ぬ後ぬ屋取ぐわー。むこうは、なまー後原んでいし

宜野湾並松と同じ位有名な池原並松があつた。ア
シビナーから現オーケドライブインの所まで続いてい
シビナーから現オーケドライブインの所まで続いてい

② ミートウマーチ

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

原ぬ後ぬ屋取ぐわー。むこうは、なまー後原んでいし
が、あまーイチントーでーいち、後原。あぬ榮野比よ、
栄野比は、かんし下がとーくどうや、うまぬ池やるえ

「かー全部イジュンないんよー。あんし、ありんか

い池びかーんしまーならんち、あい、池ぬ原でいるば

1. 池原。

(共通語訳)

元はトー。昔はトーといっていた。トー村。池原の

後ろの屋取があつたところね。むこうは、今は後原

といっているが、あそこは池武当といつて、後原。ほ

ら栄野比ね、栄野比はこう下がつてあるからね、そこ

が、池であつた頃は全部泉になつたのでね、それで、

池ばかりではいけないといつて、(池が埋められるに

つれて原が出来て) 池の原と呼ばれるようになつた。

池原。

6 赤小堀原(アカグムイ・アカゴホリ)

イジュングチのイノガキ

桜井清(大正八年十一月二十日生)

8 上田原(カミタ)

池原は、昔ヤマシシが出てどうにもならなかつた。

イモを作つても食べられてしまふし、イジュングチの中にイノガキが作られていた。池原のイノガキは両方から入れないようになるけど、奥は、我々と反対にしていた。なぜなら、ワナにかかつたイノシシをタンパク源として食用としていたためである。

シェーキ原名由来

松下盛一(明治四十五年五月十日生)

(方言原話)

御殿ぬでーげーうりやんやー、

「いつたーくるしーよー。うまーいやーむんどー」

でいち、しゃーきぬ。

美池自練からずつと山の中。コンボストの近く。

(共通語訳)

御殿に勤めている人で偉い人だつたんだろうねえ。

その人が、「自分たちで耕したら、そこはあなたの土地ですよ」という仕明地があつた。美池自練からずつと山の中。

コンボストの近く。

*6 屋取 士族の帰農によって沖縄本島の各地で形成された小村落。

*7 イノガキ 作物をイノシシから守る為の侵入を伏せぐ追根。

*8 奥 国語村最北端の字。

*9 しゃーき 間葉地のこと。山野を耕して田畠を作ること。私有地として自由に売買できた。

*10 コンボスト ごみ焼却場のこと。

① 子供の仕事

島袋マサエ（明治四十四年一月十日生）

現在、彈薬庫倉庫になっている楚南前^{スンノマサヘン}、楚南西^{スンノウシ}クー

ルー山、上田部落（戦後、池原、登川、知花に分散）

の山に行つてワラビヌファー（シダ植物）を取りに行く。子供の仕事であつた。

② 上田と具志川の境界

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

上田原の所にある。道がロータリーみたいになつている真ん中に高さ四尺くらいのモーがあつた。そこは、薪やワラビヌファーを取つてきて中休みする所で、必ず、そこで休んでから家に帰つた。

9 西ン地原（イリンチ・ニシンジー）

① フニハラサ一由来

佐渡山安光（昭和二十三年六月一十八日生）

池原の原名西ン地、現、沖縄職業能力開発大学校（沖縄ボリテクカレッジ）のワーラに「フニハラサ一」という地名がある。その地名の由来は、ニシンジガ一に面している山から船を造る大木松の木を切り倒し、ニシンジガ一の湿地にしばらくつけておいて船を造つていたことに由来する。出来上がった船はどうやって

運び出すかと言うと、人工的に堰を作りながら水を溜めて移動し、具志川市の宇堅まで運んだという。新地さん真一さんが、おじいさんから聞いたという。新地さん

*11クールー山 沖縄市北端にある丘陵地。駒の形をしていたことからクールー山といわれた。

の先祖が「山の番」をしていたことをうかがわせる。

フニハラサ一の「フニ」は船のこと、「ハラサ一」は潜らすという意味を持つ。

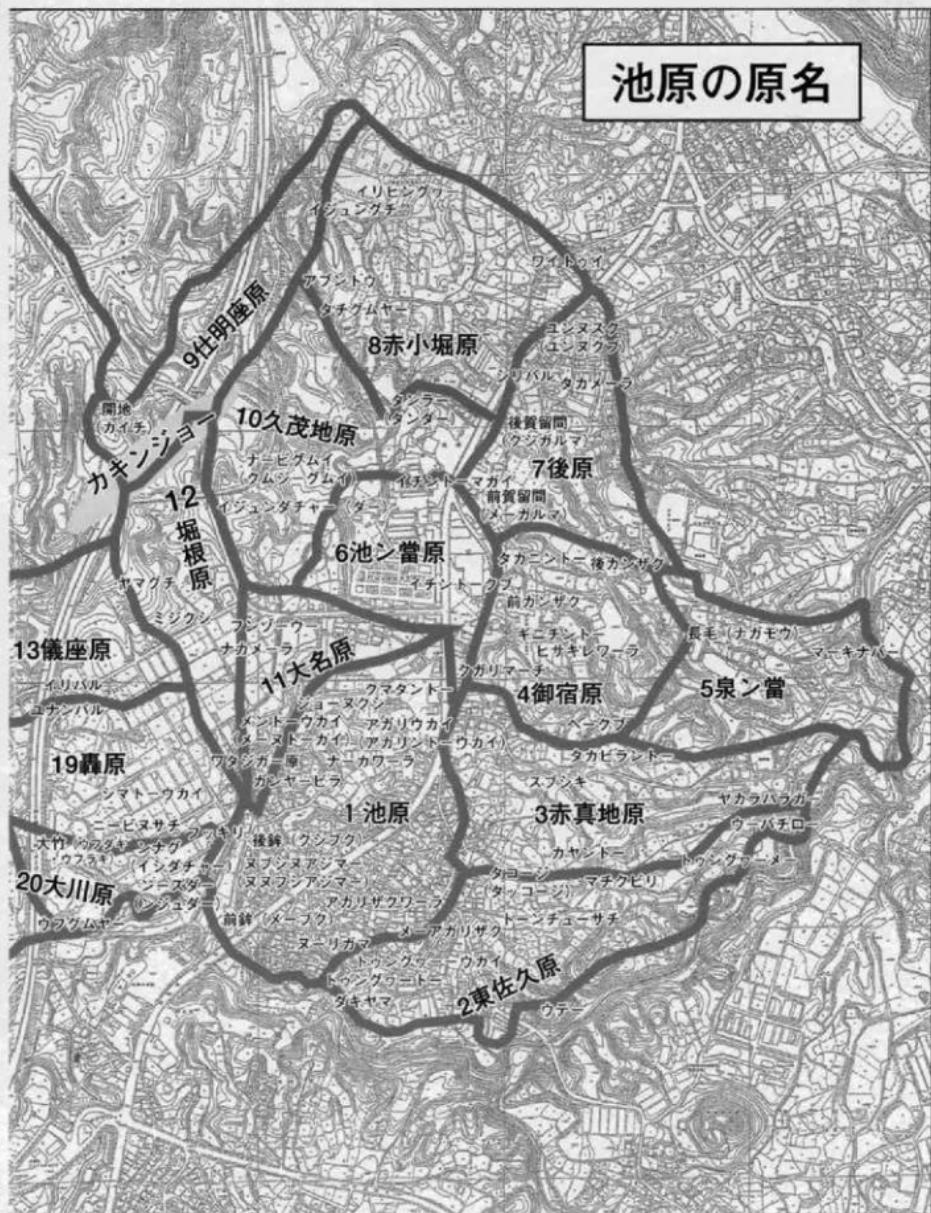
胸までかかるくらいの田んぼがあつて、小船を作りそれに乗つて、稻を植えたという大昔の話もある。深さが一丈（約三メートル）位深い田んぼもあつたという。

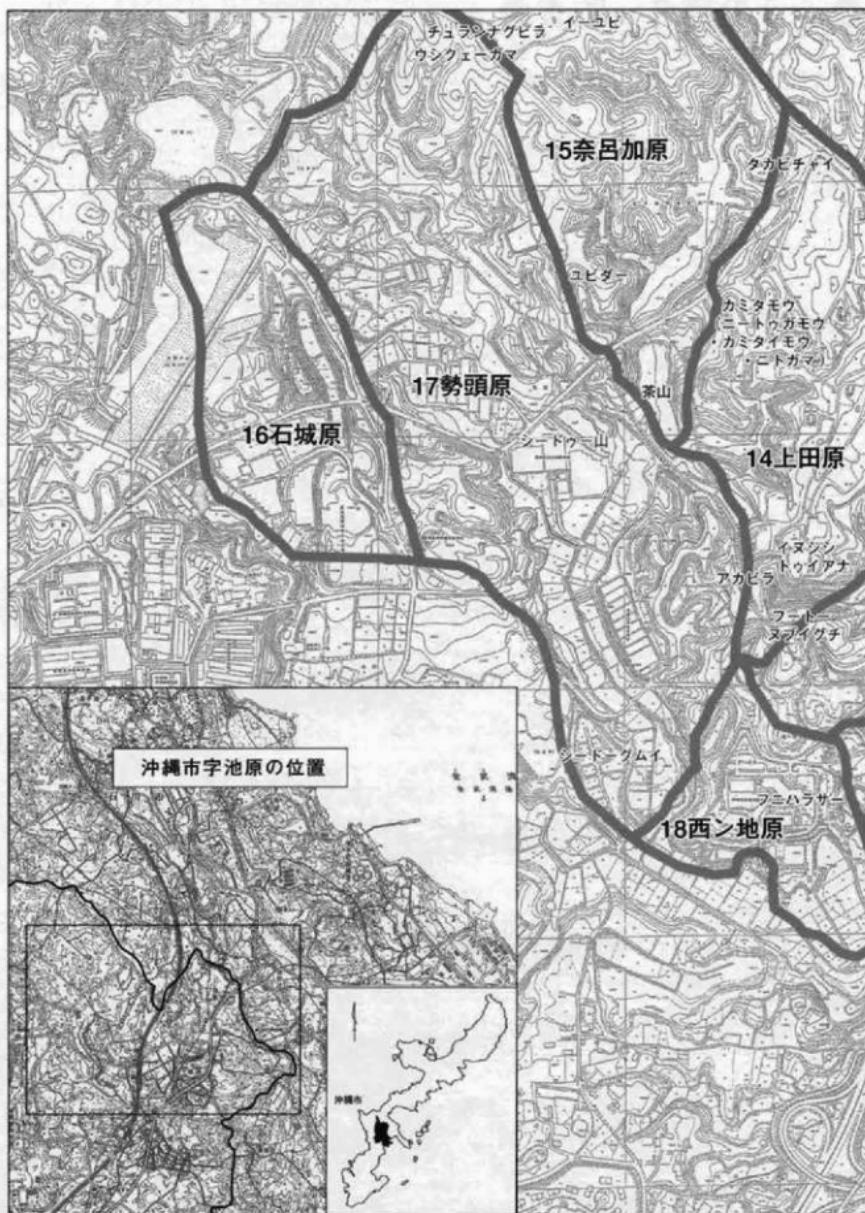
② フニハラサ一由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

胸までかかる深い田んぼがあつて、船を作つてそれに乗り稻を植えたことからその名がついた。約三メートルくらいの深い田んぼもあつたという。

池原の原名





●池原の原名一覧表●

※この表は佐渡山安光氏が作成した資料をもとに、桜井清氏、松下盛一氏、島崎新栄氏から聴取した話や調査時に得た話を補い作成しました。

★現在米軍基地の中に所在する地域
○伝承有り

	呼 称	概 况	備考
1 池原			○
小字名	メープク（前鉢） クシブク（後鉢） アガリウカイ（アガリントーウカイ） クマタントー ^ト ナーカワーラ ジョーヌクシ ヌーリガマ アガリザクワーラ ヌブシヌアジマー	ヌブシマアジマーからメーンカーに行くところを境にして南北側をメープク（前鉢）北側をクシブク（後鉢）といっていた。 徳山からの産地。部落の後方にあった。今は池原の字内に入っている。「ワーラ」とは谷間のこと。 ナーカワーラの中にあり、現在の建て売り住宅付近。 ガソリンスタンドの下のほう。サク（谷間）なっているところをワーラという。	
2 東佐久原			○
小字名	メーガガザク トゥングワーカイ トゥングワートー ダキヤマ ヤカラハラガ タコージ（タッコージ） マチクビリ トゥングワーメー ^ト トーンチューサチ	ダキヤマの上。（ウカイ：土地が上がっている所、丘） 谷底になっている。 ヌールガーの側。バーキの材料になるシマダキが沢山あった。 牛を放牧していたところ。トゥングワーメーの川の傍。タッコージの近くにあり、牛が8頭落ちたことからその名がついた。ヤカラは「8頭」、ハラガーは「絶壁」の意味がある。 馬鹿と呼ばれる墓の付近。 トーンチューウサチ側の谷間（上門工業資材置き場より下）。タッコージワーラといって谷底みたいにワーラ（川・谷間）があった。墓場で一番怖いところであった。 タコージとトゥングワーメーの間の丘陵。男女が恋をしていて、待ちかねて死んだという話があったといわれている。（クビリ：曲がりくねっている道のこと・細道） マチクビリからの谷間。悪い病氣で死んだ人をそこに葬っていた。死体は、山の下、がけ下に散らしてあったという。ミーヤーの墓の前になっている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
3 赤真地原（アカマチク・アカマージ）		赤土（赤マチク）。	
小字名	スブシキ (シブスキ・スブイシキ・シブイスキ) ウーバチロー	偉い人がスブイ（冬瓜）を植えたところなのでその名がついた。そこは平たくてあんまり大きくなかった。スブイ（シブイ）が豊作だった。	

3		カヤントー	東側の窪地。	
		タカビラントー	スブシキとヘーグブの間にある急な坂。坂を下りるとすぐにまた登り坂になっている。その坂をよく利用する人は、「何百回も歩いているうちにその坂も低くなるんだよねー」といっていたという。	
4	御宿原			
	小字名	ヘーグブ	タカビラントーの東にあって平坦。	
		クガリマーチ	石川のイナグが騒わぬ、着ている着物も引き裂かれ、帰ろうにも帰れずこの松の下で焦がれ死した。	○
		ギニチントー	県営団地側面の窪地。	
		ヒサキレワーラ	小石がいっぱいあり、足が切れたりすることが多くその名が付いた。	
		前カンザク	県営団地から下の谷間。 ザク：深い谷間という意味。カヤントーの下側。その後方にある。	
		タカニントー	高嶺接司がいらっしゃったところ。墓があり池原で拝んでいる。安慶名城と何らかの関わりがあると言われている。高嶺（タカニン）接司墓がある。（ジョーミーチャー部落が拝む）	
5	泉ン當原（イズミントー）		タカニントー（タカニロー）の下側。その前方にある。	
	小字名	長毛（ナガモー）	ガマの名前ではないか。	
		マーキナバー	マーキナバーの東側。	
6	池ン當（イチントー・イケントー）		クシガンジャクの東側。	
	小字名	イチントーマガイ	ナーシルダー（メーダニ：米の種子）があった。その側に坂があり、その坂のことをタントウイビラと呼んでいた。「イニ、トーリクルビカユカティ、ナンドウルーカチク（稻の穂がたれる位の豊作でありますように）」と豊作を祈った。	
		イチントークブ	美池自動車教習所の向かい。池ン當クブといって有名などころがあった。	
			池原の後方に位置することから、その名がついた。	○
7	後原			
	小字名	トームラ		○着用不可
		前賀留間（メーガルマ）	屋我板金工場から下の谷間。	
		後賀留間（クシガルマ）	ユンヌスクの南の谷間。	
		タカメーラ	栄野比・高嶺原との境界にある小高い尾根。栄野比の坂の山。	
		ユンヌスク（ユンヌクブ）	後原にある。地形がユイ（盆地みたい）になっている。ユイとは民具でバーキの一種）に似ていたところからユンヌクブと言う。旧県道とタカメーラとの間の低地帯（集落地）。そこには大きな池があつたらしい。	
		シリバル	後原の北、イジュングチの下の田んば。池原の尻にあたるのをそう呼んだ。	
	夫婦坂（ミートゥビラ）		川崎と池原の畠境は男と女が会う場所であった。そこは、怖い場所であったが、そこで出会う男女が夫婦になることが多かったことから、夫婦坂（みーとぅびらー）と呼ばれるようになった。	場所不明

8	赤小堀原		
9	小字名	アブントウ	後原の西のほうにあるイジュミのところか。
		ワイトゥイ	旧県道を栄野比に造ったときの掘削、栄野比との境界。
		イリヒングワー	変電所の近くの集落。
		イジュングチ	クシバルメーヌカーに行く所。その水を飲むと子供が産まれるといわれている。
		タチグムヤー	段差のある下の田んぼに水溜（クムイ）があった。
10	仕明座原（シアケザ）		山野を耕して田畠を作ること。開墾地のこと。私有地として、自由に売買できた。そこには、シェーキザーグムイがあり、「ターグムヤー」とも呼んでいた。
	小字名	間地	仕明地と同じ意味をもち、仕明座あたりのことをいう。
11	久茂地原（クムジ）		米のよく出来る所であった。
12	小字名	タンダー（タンラー）	イチントークシの側、後原の前。池ン当クシと並んでいる（今市の市営住宅の近辺）。メヌクラントーの人が、ミキを作りクムギーに拂げてから稻を刈った。現在でも排水溝があり、幅が約1m20cmのところもある。昭和初めではかなりの水が流れていたとのこと。
		ナービグムイ（クムジーグムイ）	クムジーにあるクムイをクムジーグムイとも言い、鍋のような形をしていましたことから、ナービグイとも呼ばれていた。4日ジールー（ユッカジールー）のときに、魚やウナギを捕ったところ。クムジー（クムジーグムイ）周辺にナーシルダーがあった。板があり、そこには、タントウイビラ言い、ドゥルップチャイ（泥んこ）になって「イニ・トーリクルビカユカティ（稻が重たいほど豊作であるように）」と豊作を願った。その時に「ナンドゥルカチクーー」と言葉をかわした。
		イジュンダチャー（ダー）	ナービグムイの近く。
13	大名原（ウフナー・オオナ）		
14	小字名	ナーカメーラ	土地改良との境界の傾斜地の畑。
		フンゾウ	ナーカメーラの北側。
		メントーウカイ（メーストーカイ）	ガンヤーの上。
		ガンヤービラ	ワタジガーバシよりメントーウカイへの登り道。
15	堤根原（フイニー・ホリネ）		
16	小字名	ワタジガーベ	ワタジガーベの側にワタジという屋号の大金持ちが住んでいた。その屋号からつけられた名。そこにワタジガーベがあり舊が浴びる所であった。夜になると若い男女が裸になって浴びていた。そこで恋をした。
		ミジクシ	土地改良・クシユヌビの畑所。
		ヤマグチ	上田への上り口。楚南・山城への入り口になっている。
17	義座原（ギサン・ギーザ）		
18	小字名	フートースブイグチ	フートーギが生い茂りティーチバシの上の方。現在は墓地の中にある。
		ユナンバル	イージ、ミージ屋敷跡の所。現在の「太陽の花」近辺にある原名である。

13		西原	フートヌブイグチからユナンバル付近。	場所不明
		ウフガタ		
14	上田原（カミタ）		上田原は上田、山城、倉敷に行く道になっていた。ニートゥガモーとか、カミタイモーとか呼ばれていた。ニートゥガモーの「二一」は荷物のことか。また、カミタイモーのカミは荷物を頭にのせることの意味でそう呼ばれたのか。アカミチモーと似ている。	★ ○
		小字名	カミタモー (ニートゥガモウ・ニトガマ)	
			お楕を伏せた形で、芝生が生え、それに、琉球松や、イジュ木の木が駒茂してきれいだった。頭に乗せている荷物が程よくおろせる高さで、人々は、そこを休む場所にしていた。現在の具志川市と沖縄市の境界近く県道1号線沿いに公園として残っている赤道モーグワーに地形がにており、豊川や、美里や赤道や知花に行く道の真ん中にあり、交通の要所として、また、毛遊びの場所として有名であったと具志川の民話に紹介されている。(カミタイモウとも呼ばれている。楚南の人々の話)	
			ニートゥガマアジャー	場所不明
			毛アシビーをする所。楚南山城、池原、兼箇段から集まり毛アシビーをした。今は弾薬庫の中になっている。 ※楚南山城・・隣り合わせの二つの字を称しての呼称。	
			アカビラ	
			ヘーレー（フェーレー）がいた。	
			タカヤマ	
			イリムトウグワーヤマ	
			屋取の人で上田にすんでいた、屋号天願上江洲（ティングワニージー）という方が1950年頃臼を作っていた。材料となる松の木は戦前は上田で戦後はガルマで取っていた。一本の木を斧を使い作っていた。当時は大きな松の木がたくさんあったことがうかがえる。	
15	奈呂川原（ナルカーラ・ナロカーラ）		イヌシシトウイアナ	
			猪を捕る罠が穴2ヶ所ある。	
			タカビチャイ（タカヤマ）	
			ナルカーラの山。高く禿げているからそう呼ばれたのではないかと思う。楚南との境になっている。（奈呂加と上間の境）。また山が高いのでタカヤマとも呼ばれていた。下には田んぼがあった。	
			カキンジョー	○
			区域が分かれている境のこと。具志川との土地の境には小さな竹が植えられていた。猪ノ塀、側溝を掘り側に竹を植えた。	
16	石城原（イシグシク）			★
17	勢領原（シードウ）			★
	小字名	シードーヴムイ	川を堰き止め田んぼに農業用水を引いた。	

17		シードゥー山	現在、池根農園になっている。	
		ウシクエーガマ		
18	西ン地摩（イリンチ・ニシンジー）			
	小字名	フニハラサー	フニハラサーの「フニ」は船のこと、「ハラサー」は滑らすという意味を持つ。胸までかかるくらいの田んぼがあつて、小船を作りそれに乗って、稻を植えたという大昔の話である。深さが一丈（約3m）位深い田んぼもあったという。また船を造る大木を切り出したワーラでもあった。	◎
19	轟原（トウドウルキ・トドロキ）			
	小字名	ニービヌサチ	北美小学校の後ろ側。	
		シマトーウカイ	稻の種おろしをする所。ナーシルダニ。鉄塔の建っている所。	
20	大川原（ウフンガーラ・オオカワ）		ウフンガーラともいう。ウフンガーラ上流シード→ナルガー→ワタジガ→（ガシヤーの側を流れている川→ワタジガ→機）	
	小字名	フッキリ	ニービヌサチとシーズダーの間。	
		ウフグムヤー	川を堰き止め田んぼに農業用水を引いた。	
		シーズダー（ンジュダー）	小さい田んぼのことを言う。ウフグムヤーからシズ（排水路）を引いて造った田んぼ。ムトゥガーの川のほとりにあり排水を使って田んぼがあった。ンナグとイシダチャヤーに行かない手前。ウフダキのすぐ側。ウフダキ、シズダー、ンナグ、イシダチャヤーはひとまとまりになっている。面積はあまり大きくない。	
		ンナグ（イシダチャヤー）	シーズダーハの上付近の田んぼ。畑の両方に山原石有り。畑の土はクーチャンブーニー（クチャ十石）で小石が混ざってキビも芋カズラもよく実らなかった。	
		大竹（ウフダキ・ウフラキ）	シーズダーハの上。ムトゥガーの近辺。	

かつての集落の一般的な成り立ちは、丘陵地を後ろ盾に（クサティ・腰当）、その前に集落や家屋が形成されていました。池原における家屋配置もこのような沖縄の村落の特徴を現しています。集落の様子を屋号とともに辿ってみます。

〔2〕 池原の屋号

池原の屋号は親元とその分家の二男、三男との関係がみてとれます。

1 池原のムラヤー跡からの推察

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

一番最初にあつたムラヤー後から見渡すと東にアガリジョウ（東門・島袋）・カドウ（現在登川の平田）、ムラヤー前の下にクラニー（蔵根・島田）、ハント（伴田・幸島）、があり、窪地を隔てて西方の丘陵にシリヤー（カミヤー）・ヤマニト（山根・島袋）、シリリ（志利）、メヌシーリー（前志利・クシントー）、イーストウンチ（上之殿内・赤道）近くに下川堂（中村、その側に前志利、神アンヤギ、松佐、松下）、ムラヤーから神アシャギに行く途中（大屋と比井謝の近く）に神屋（獅子加那志を祭祀）が在つたらしい。北方には屋号池原屋（現在池田）、北西の下側に當屋（現在屋敷跡は大屋所有）等の古い屋敷が点在するが、上

* 殿内・屋号赤道（現在島田）は現在のカニムトウの屋敷である。

山根が古いのは、以前故島袋仙造氏がウマチーの二ープ取りを、前志利祖母が御神酒をつくっていたとの話ですし、又、松佐もウマチー・十五夜のシーシガナシの祭祀をする神人が出ており、多分池原立ち口の七姓に入るではと推測される。ウマチーの神人の白衣装は現在は三カ所（松佐・上ヌ殿内伊利）にある。

2 屋号の由来及び伝承

（1） クラントー（上ヌ藏ン當）

① 蔵ン当について

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原に屋号藏ン当と云う家がある。この家の祖母の話によりますと、藏ン当と云う屋号は池原村から登川村が分離独立した際この屋敷に住んで居られた方達「登川藏武當」が登川村に移住されこの屋敷に知花屋から分家した藏ン当の祖先達が入居したために先住者の屋号がそのまま「藏ン当」と言う屋号になったと言ふことである。藏ン当の祖母に何代目になるか聞いてみましたが、「一九七〇年」まで、十四代目と言うことである。又、一方、登川藏ン当代数を自治会長仲村勇清氏に調べて貰った結果、この御家は十五代目になると言ふことであったので、この両家の代数からして伝

* 12 ニープ取り ニープとは「ひしゃく」のことで、ウマチーの時に神酒を注ぐ役割をする男性の神職者ことを意味する。

説を否定するような材料は見当たらない。唯、私はこ

の蔵ン当と云う屋号はこの屋敷の構造域は角々に建てられている碑、蔵ン当と言う文字からして屋号ではなく、何かの蔵がこの屋敷に在ったためにこの蔵に対する公的呼称が変化して屋号になったのではないかと推察するとともに何時が明確に出来ないかと思つております。

前にも述べてありますように宇登川屋号蔵ン当が先住者で知花屋から分家した蔵ン当の先祖が、登川村が池原村から分村し移住していくた登川蔵武當の屋敷跡に

入居したためこの場合は入居というよりは「蔵當人ぐらあたい」として入居と言つた方が正しいかと思う。登川蔵武當屋敷跡に現蔵ン當の先祖が入居云々は蔵ン當の祖母も話して居られたし、又、池原村の先輩方々なら良く存じて居られることがある。私はこの屋敷は大昔の蔵の跡ではないかと思うのであります。戦後の蔵ン當の屋敷はそんなに感じないが戦前の蔵ン當の屋敷は東北南は十米くらいの急斜面になつていて大人でさえ外部に出ることは不可能であった。西の方の加那藏ン當との境は木や竹が生えて居るが、昔は土堤があつたものと考えられる。理由は、この屋敷の北西の角に土堤が一寸残っている。私はこの蔵ン當の屋敷は始めから人が住む屋敷ではなく、蔵として作爲的に掘り下げられて造成されたものだと思いますし、東西南北高い壁に囲まれた状態の地形の屋敷ならとも人間の住めるような場所ではなかつたのではないかと考える。

「私が推察する池原村及び當村」

② 倉

桜井清（大正八年十一月二十日生）

ジン倉があつたというが、私はそうではなかつたと思ふ。湿度の高いところで、土間なんかいつも湿つていたので、そこにお金を保管できないと思う。おそらく、木炭が保管されていたであろう。和歌山の木炭作つているところに電話で聞いたら、「木炭を貯蔵するには風通しの良いところは適さない。貯蔵するときに木炭に水を霧吹きをした。そうじゃないと、木炭がカラカラになつてバラバラになる」という話を聞いたので、そこは木炭貯蔵に最適な場所ではなかつたかと思う。

お金を持つときには、宇久田、大工廻に行く大きさの道の農道があつた。ワタジガ一通つてその入り口にはクラントーがある。木炭を積んで、首里とかに運ぶときには、陸路ではなく、楚南、山城を通つて、石川まで運び、船から那覇まで運んだ。池原でも炭を焼いていた。アガリジヤクワーラ、タッコージ、カニムトウヌワーラよ、まん丸で焼けた跡があつた。

＊13 宇久田・大工廻 沖縄本島中部比謝川流域にあり、宇久田と大工廻は隣接していることから、「ウクダ・ダクジャク」と併称される。戦後全島が米軍基地に接収されている。

＊14 首里 琉球王府のある首里。現在の那覇市首里。

＊15 楚南・山城 石川市の字。楚南は沖縄市との境界に位置する。

＊16 石川 石川市字石川のこと

＊17 那覇 沖縄県第一の都市。県庁所在地。旧那霸は琉球王府時代の王府首里の港町として栄えた。

＊18 芳文碑文 池原公民館の南西側に位置する。島袋家の敷地内の三ヶ所に点在しており、毎年旧暦九月九日に島袋家の族徒達は子孫の繁栄を祈願し、この碑を拝む。

③ クラントー屋敷のサンスクリット碑

この屋敷には四つの梵字（サンスクリット）碑文があったが、井戸のところはなくなっている。入り口も今のところではなかつた。



クラントー屋敷のサンスクリット碑

④ ムヌメーとカーメーの時

私が小学校三年生の時に、知花池武当のガマにムヌメーといつて、子供が産まれるとおにぎりを作つてお参りをした。そのムヌメーとカーメーのときにイーグラントーに皆集まつた。

⑤ シジ高い屋敷

島袋盛八（昭和十年五月一日生）

屋敷がシジ高いため、この屋敷にある木など勝手に折つたりすると大変な目に遭う。

（2）シチャヤグラントー屋敷にあつた鍛治屋

松下栄吉（明治二十五年一月十五日生）

方言原語

うま一昔え、今ぬイシガントーぬ屋敷よ。錢作や一がめんしえーたらりよー。だーうりんなー話る聞ちよーる。自分なーがーわからん。
これくらい錢ぐわー、てんほ一錢というか、あれ昔の金があるでしょ。あれよりもっと小さい金ね、そういう作つた所があるらしいよー。池原の今カニモト屋敷どうやん。んーんー今まぬシチャヤグラントー屋敷。鍛治屋ぬあるとうくま。

（共通語訳）
昔は、今のイシガントーの屋敷はお金を作る人がい

らしたそだよ。そんな話を聞いたことがあるが、自分はわからない。

これくらいのお金、鳩目錢と言う昔のお金があるでしょう。あれよりもっと小さいお金。それを作つた所があるそだよ。池原のカニモト屋敷で、いや、

*19 イーグラントー 凡字牌の建つている屋敷
*20 大変な目に遭う バチがあたること。手を触れてはいけないと伝えられていた。
*21 ターブックワ 田んぼ。
*22 ハルミー 捕の見回りのこと。

今のシチャヤグラントー屋敷、そう、鍛治屋のあつた所は。

（3）倉のあつた家

（シーリー・クラントー・イーリー・トースヤー）

島村善幸（昭和七年十一月二十日生）

1 シーリー

2 クラントー

現在家が建つてゐるところに倉があつた。

3 イーリー

4 トースヤー

上納物を集めたり納めたりする場所であつた。戦争當時まで倉が一つ残っていた。（倉は二つあつた）石川のターブックワもトーのものであつた。ハルミーは馬で行つた。トースヤーの屋号は、そこの家の人がトーに行つたことからその屋号がついた。

(4) カニムトウ

① カニムトウの屋敷

桜井清（大正八年十一月二十日生）

屋号カニムトウの屋敷にはケッキツの木が植えられていることから、特別な家ではないかと思われる。また、カニムトウの東側には家を造つてはいけないといわれているので、今でもそれが守られている。

② 屋敷林

農業をしているところの屋敷林は田んぼや畑で肥料となるものを植えていた。ところが、カニムトウの屋敷の木は大昔からゲッキツの木で囲われていた。池原ではそこだけである。また、カニムトウの屋敷は神アシャギと同じ高さにあるので、特別の人が住んでいただろうと思う。お金を作っていた当間（加治工賃を作った人）が住んでいたのではないかと思う。ウヤフアーフジは神アシャギと同じ高さにある土地には家を作つたらいけないとわっていたので、今でもそれを守つている「木火土金水」の碑文のところから上つてきたら、カニムトウの屋敷になる。

(5) ヤマニー

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原で古い家はヤマニーであろう。昔のもの家の

メーチューダのガジュマルのあった家である。渡口セイイチさん宅。これは、イナダの方の家である。夫の家はメーチューダの前。そこがヤマニーの家。ヤマニーの家は山の根っこにあるので、ヤマニーと言う屋号になったという。池原で一番古い家ではないかと思われる。

スクリ墓にヤマニーの石ジーシ甕が十七、八ぐら一緒に入っている。

(6) イーストウンチ（アカミチー）

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

イーストウンチ（アカミチー）そこは、村の神屋だつたのか、おじいさん一人住んでいらっしゃつた。祈願祭とか、兵隊に行くときにはね、必ず、イーストウンチでお祈りをしてから、そこから、グワーン、グワーン、グワーンと氣勢をあげて出かけていた。そこは池原の平田から来た人たちである。

現在屋号アカミチーと呼ばれているところはイーストウンチの分家で、その一門にはアカミチーケワー、カナーラカミチーグワー・セイゼンアカミチーグワー、チヤクシアカミチーグワーなどがある。

* 23 ウヤファーフジ ご先祖

* 24 スクリ 告の墓場のことをいう。高塚按司の墓の左側向かいの山ほど地になつてゐるところ。身寄りのない人や行き倒れで亡くなつた人をジョーリーミーチャーの向かいのところで風葬して、骨になつたときに、このスクリ墓に葬つたのではないかと思う。骨がたくさんあつた。ウヤードウヌガマともいいう。

* 25 神屋 住居とは別にして、一門の先祖を祀つてゐる建物。

(7) カマー楚南小の屋号由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

方言原話

私たーや嘉手筋んかいムヌメーしーが行ちゅるば
ーーー。ムヌメーしーが行ちゅる道中あうていてー、
東松下ぬしんかぬでー、

くまーまーやがー

でいち言ちやぐどう、

「楚南」

あまーまーやがー

でいちやぐどう

「伊波」

んちよーるちゅばーーー。あんさぐどう、屋号
「楚南」でいん言れー、「伊波」んでいんよー、う
まー。ただ、うりが、屋号や「カマー楚南」やしが、
本當や、「カマー松下」やんよー。くぬ

たぐどうよー、東松下あ直とーしが、うぬ枝んぢやー、
直ちえーねーんどうあんでーやー。「くまー、楚南あ
まー伊波」

んちやぐどう、よー、ひつちー、あん言ち
えーるちむえーんてー。楚南ぬ東松下ぬおじーが、
ふあーふじぬが言ちやらーわからんしが。あんしえ
ー、くぬ、笑い語んかい、あじやなーちぢやるばー
るやる。

（共通語訳）

私たちには嘉手筋に参拝しに行く。参拝しに行く途
中で東松下の人がね、

「ここはどこだ」と聞くと、

「楚南」

「あそこはどうだ」

と聞くと

と答えた。それから屋号「楚南」ともい「伊波」と

もいうんだよ。そこは屋号は「カマー楚南小」と言う

が、本来の屋号は「カマー松下」と言う。この「楚南」という屋号になつたからね、東松下とは言わなくなつたが、その家から枝分かれした人たちはそのまま東松下と言う。「ここは楚南であそこは伊波」と何度も同じことを繰り返し聞いたのは楚南の東松下のおじいさんだつたのかそれはわからないけども。それで、そのことが笑い話みたいに伝わり、カマースナングワードとあだ名されるようになつた。

(8) 屋号の報告

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

アガローは母親の方の屋号であった。そこで住んでいたが、男の兄弟が屋号をつけることになり、クラントーの子孫だからと云うこと、トヨさんのところは四男なので、カマーケシクラントーと屋号をつけた。そして、村に「升瓶」（ヤーンナーザキ）を持って報告した。だが、人々の記憶がアガローなので、

新しい屋号では呼ばれたことがない。

* 26 嘉手羽 石川市の字。迫（さく）と呼ばれること多い。

觀音堂には近隣の字からの参拝者も多い。

* 27 ムヌメー 参拝

テ行く酒なのでそう呼称したものと思われる。

蔵島フミ（明治四十四年六月十日生）

アカミチ一門
アカミチ一門には「アカミチ」「アカミチグワ」がある。

*29 蔵島フミ 島田門中の人である。

戦前ウシシチャクラントーと言う屋号だったのが、現在はイキニーグワーになつてゐる。

現在と昔の入り口とは異なるが、家の入り口右手のほうに蔵があつた。昔の門の前に道があり、その道は佐渡山安孔さんの家のそばを通る。家から見晴らしはよく、ノロが手を洗い休んだところである。池原の集落はその家を中心南側に広がつていていたという。

4 池原の一門

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

① イーリー一門

イーリー一門は諏訪波平から來たといわれている。池原から諏谷の方角は西になつてゐるので「イーリー」という屋号になつたかも知れない。イーリーの分家には「アガリ」と「イーリー」がある。現在の姓は「島袋」である。

② マチサ一門

マチサ一門には「マチサ」と「スナングワー」がある。伊波ナカジョー系統。現在「スナングワー」と呼ばれている屋号の姓は「島袋」。松佐（マチサ）は松下で「ジナンマチサ」「サンナンマチサ」「マチサグワー」がある。

④ カードー一門

カードー一門は島尻から來た人たちであるといふ。現在の姓は「中村（以前は仲宗根姓であつた）」「仲村」「島袋」。

カードーのおばあさんは、ウマチーのときに駕籠に乗つていたといふ孫の話から、池原最後のノロであつただろうと思われる。

⑤ チバナヤー一門

チバナヤー一門には「ミーヤー」がある。チバナヤーは知花からの立ち口なので、チバナヤーと屋号がついた中元（チカムートウ）。シマチクドウンからの分かれ。現在の姓は「島袋」。

桜井清さんは、「チバナヤー一門」のお墓を開けた時にみた骨壺の感想を次のように語った。

桜井清（大正八年十一月二十日生）

「知花ヤー」の墓にあるジーシ號の上に、知花按司を説いたオモロのように月と太陽の絵が書かれていることから、やはり、知花から来たんだなあと言うことが判る」

クラントー・シーリー・チバナヤー・ナーカム）

トウは知花のシマチクドゥンからの分家

⑥ ユナンミ一門

与那嶺一門は西原、幸地から来た人たちであるといふ。ウフユナンミ・アガリユナンミがある。

⑦ チューダー一門

チューダー一門は中城から来た人たちであったといふ。現在の姓は「島田」「玉元」である。

⑧ ハンタ一門

ハンタ一門はハンタ・イースハンタ・ハンタ小・マシーハンタがある。

⑨ クラントー一門

クラントー一門には伊元・山根・カマーイ・グラントー・イーグラントー・カナークラントー・シヤヌクラントー・タルークラントー・カナシチ

ヤクラントー・カマークシクラントー・メースクラントーがある。

「カマーアイ・グラントー」は島袋榮保さんのおじいさんカママー名からつけられた屋号である。

⑩ ユヌビ一門

榮野比一門・アガリユヌビ・メーユヌビ・クシユヌビがある。現在の姓は「島袋」である

⑪ マーチヨー一門

マーチヨー・アガリマーチヨー・イーリマーチヨー・マシマーチヨーがある。

⑫ シーリー一門

メースシーリー・クシスシーリー・カマーヤンシリー・トゥルーヤンシリー・ユナンヤンシリー・マシーシーリーグワ。

⑬ シマブク一門

シマブク・カナーシマブク・マシーシマブク・ウサーシマブク。

⑭ タナバル一門

タメーシ・クシタメー・シ・タメーシグワー・・・・・

全部養子継ぎである。

カニムトウグワード・サンナンカニムトウ・ユナン
カニムトウ。

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

① 長毛屋取（マーキナバ）

「マーキナバ」は京ノ當の小地名である。

5 戰後改姓された池原の苗字

島袋から改姓した姓

島袋マサエ（明治四十四年一月十日生）

池原部落の人は皆島袋姓であったが、終戦後、夫が戰死した所以外はほとんど改姓している。

元、島袋姓だった現在の姓

①玉元 ②城島 ③島田 ④幸島 ⑤武島

⑥盛島 ⑦松下 ⑧島村 ⑨武田 ⑩松村

⑪島崎 ⑫新島 ⑬仲里 ⑭池田 ⑮田島

⑯桜井 ⑰仲宗根

6 後原の屋取屋号

⑤ 開地屋取

小波津小・三男佐渡山・亀佐渡山・新地小・
マカルー佐渡山・与古田小・イージー小・
天願イージー・仲地小・トウクマ子。

※後原の屋号は位置が不明なものが多く、一覧表のみの記載としました。

② 後原屋取（シリバル）

川の上佐渡山・ゲンバチ佐渡山・サーターヤーニ
佐渡山・マツ佐渡山・ティップー佐渡山・チング
謝花・マカルー謝花・又吉小・ミニヤー小・トウ
マイ山田小・大屋山田小・南風原与古田・樽与古田・
トーフー与古田・ヒージャタンメー

③ 西ノ地（ニシンジ）屋取

比屋根

④ 兵屋小（グヤグワ）屋取

瑞慶山の近くに暮らしていた。

兵隊胡屋小・大屋胡屋小

〔3〕 池原の建造物

沖縄の風土の中で育まれてきた伝統的民家は、台風の被害から免れるため、屋敷を疊んだ場所、あるいは敷地がある程度掘り下げて作り、周囲は石垣やフクギで囲むなど、気候的な厳しさに対処する為の工夫がされていた。道路が曲がりくねっているのも、台風の多い沖縄での風の勢いを弱めようと工夫されたものである。

時代とともに建物の建築材料がブロック等に変り、耐久性を保てるようになると、人々の家は上へ上へと移行し、道は車社会を反映してまっすぐになつていきました。

時代の変化により、かつての民家の情景はほとんど影を薄めてきています。

1 池原の造り

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原の家の床は竹を半分に割り、それを繩で編んでつくった。子供の頃はよく足が床からもつてしまふことがあった。壁はチケビといつて土を練つて石を混ぜて作つたものであった。上座の座敷の壁は真ん中にグシチを入れて両方を竹で編んだものを壁につけてものであった。こんな造りであったので台風の多い沖縄では家を高いところに造ることはできなかつた。だから家を造るときには必ず掘り下げ冬の寒さをしのぐため、北を背に南向きの傾斜に家を建てた。

池原のビジュルの下に屋敷囲いの石積みがわずかのこっている。生活雑器などが散在している屋敷跡に昔の家屋の立地条件を見る事ができる。
窓は二一比の土に藁を混ぜて作つていたのでわれなかつた。

① 新築祝いの歌

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

ヒジャヌキーン　スディティ
ニシヌキーン　スディティ
ハシラダティ　ムネアゲ
フチヨティ　ウユエ

② 新築祝いの歌

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

右ぬ木ん揃てい　左ぬ木ん揃てい
柱建樓上　葺ちよてい御祝え

③ 門入り唱え

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

方言原語
此ぬ御門や　良い御門やつさー
此ぬ御門や　繁盛御門　儲き御門
風水御門やつさー　三人し、入立ちゆーるばーてー

*30グシチ　すすき。

「このご門は良いご門だ。このご門は繁盛、儲ける風水のよくできたご門だ」

と三人で唱えながら門に入つてくる。

2 倉

(1) 倉

桜井清（大正八年十一月二十日生）

イースクラントーに倉があつた。その倉はくぼ地にあつたので木炭を保管する倉ではなかつたかと思う。宇久田、大工場は木炭の産地でトワイケチ（今の瑞慶山ダム方面）からは上の道を通つて運んできて貯蔵。木炭の上納は石川から船で首里に運ばれたのではないかと思われる。

倉番人のことだからトーといい、クラントー。那覇の当蔵は、首里王府時代厨房のあつた、食料倉庫のあつたところ。

和歌山の木炭の産地に出かけたとき聞いてみたら、

木炭は風に当てると碎けてしまう。湿氣のあるところに貯蔵するのが普通で、俵に積めるときも霧吹きして湿氣をつけてからつめた。そのことから考えあわせてみると、木炭の倉庫ではなかつたかと思われる。四本足高倉であつた。

(2) 倉のあつた家（屋号）

① 池原の五つの倉

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

- 1、アガリマーチョー（ウフユナンミ）：クシブクの網を保管していた。
- 2、チユーダ（ヒージヤ）：メーブクの網引きのシタクするものを保管していた
- 3、イースクラントー
- 4、イーリー
- 5、トースヤー

② アガリマーチョー

桜井清（大正八年十一月二十日生）

明治、大正の頃の話である。アガリマーチョーは大金持ちであった。具志川の兼葭段や川崎の人たちは現在の南商会のあたりまで出かけて薪を取つていた。その途中アガリマーチョーで休まれたらしが、そのときに、そこのおばあさんがいつもお粥をたいててもてなしていたという。

(*石川市の民話に「東恩納当」との結びつきで語られた話がある)

池原には五つの倉があり、倉があつたのは次の家である。

③ 池原の高倉

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原における高倉はイーグラントーにだけあつた。四本足で戦争で焼失。アガリマーチョー（現在の屋号／ウフユナミン）とメーチヨーダにあつた倉は高倉ではなく、一階が畜舎で二階に穂などを保管する倉が戸前についた。また、アガリマーチョーのご主人は綱好きで大綱引きの時の綱が保管されていた。池原における綱引きは旧暦の六月二十五日に行われた。池原では穂がたくさん取扱われないので普段の綱引きは竹を各家庭から集めヒゴを作り、それで綱を作り子ども達に引かせていた。それが終わると、バーキ作りをする人がその竹を買い求めに来た。その売上金でノートなどを買ひ、子ども達にあげた。

① イチバルヤーと昔のムラヤー

桜井清（大正八年十一月二十日生）

イチバルヤー、この家の前がトーヌヤー。やつぱり、トース村にはトーヌ家があるね。イチバルヤーの成義さんには、
「あなたのところはなにかなかつたかねえ」と聞いたら、
「いや、うちのはう昔からイチバルに関する話を私のお父さんはやっていたという話はしていたらしいよ」

と言われていたので、「イチバルヤー」は古いはず。
増進たちの家の前の平坦になっているところが三百年位前のイチバルのムラヤー。

（3） 高倉の柱

栄野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

高倉の柱二本。石柱。残り一本のうち一本は公民館、一本は人の屋敷にある。

3 ムラヤー

昔から村の中心として機能していたムラヤーは時代の移り変わりとともにその場所を変えた。

※「民俗地図」（8ページ）参照。

② ムラヤーの最初の移動

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

池原の一一番最初のムラヤーは屋号クラニーの上に（ムトウアガリジョー屋敷）のところあつた。百二十坪くらいの古いカヤブキだつた。個人所有の土地になつたため、イースアシビナーに移動したが、そこには、面積が小さく不自由だったので、サーターヤーがあつた、現場所に一九六六年に移動した。

(3) ムラヤーがなかつた時代

桜井清（大正八年十一月二十日生）

ムラヤーがなくなつたのは、カマーラー・グラントーという家で井戸のあつたクラントー、あそこの分家した人がムラヤーを買って分家の家にした。それが今から八十位前、そして公民館のところにやへたつちやー（分家した者）としても持つていった。それから二十一年位公民館はない。これは昔アカミチーグワードーの土地でイーストウンチ。ようするに、公民館というより、イーストウンチの屋敷があつたんじやないか。そこをすぐ降りたところがトースヤー。あそこがイチバルヤー。アガリジョーといふ。ここはカドウといふ、マテーシグワードーの屋敷の屋号は。ムラヤーを中心にして屋号がつけられている。島袋新栄さんに、イースアシビナードーのところにきれいな瓦屋があった。「この家はいつ造つたの」と聞くと新栄さんが二十五歳くらいのことだという。それから計算してムラヤーがなかつた時代を計算した。

4 橋

池原の地域には川が多く、橋は池原にとって大切な役目をもつていました。橋も世の中の変化にともない改築を余儀なくされました。

(1) 池原橋

桜井清（大正八年十一月二十日生）

北美小学校近くに架かっていた橋（池原橋）。老朽化のため石（鉄）橋に新架設した。完成したのが、大正八年（一九二六年）。

(2) ムトウガードー橋

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

北美小学校の西側の河川に石橋（ムトウガードー橋）があつた。松本のカブンジヤー橋に似ていた。

(3) ワタジガードー橋

① ワタジガードー橋

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

ワタジガードーに架かる石橋。池原の中で一番大きく重要な橋であった。土地改良時に消失した。

(2) ワタジガードー橋

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

キバシの下の所。今の公民館から西に行きはずれの所。現在もある。昭和八年に馬車が通るようにと石橋にした。その橋の祝いとともに敬老会を催したのが現

今まで統一している。池原と大名原と轟との交差点。堀

根原に位置する橋。

今回の聞き取り調査では三つの橋が確認できました。

(4) ウテー橋（復興橋）

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

昔は橋がなく、川底にある大きな石をつたって川をわたっていたが、一九四九年頃に現在のような橋が作られた。

(5) 石橋

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

赤小堀に石橋があった。美里のカブンジャ一橋のような形をしており、そのアーチは大人が立つて通れるほどの高さがあった。二メートル五〇センチはあつたとおもう。

(6) その他の橋

池原を流れる川には小さな橋が数多くあつたといわれており、それらは木の板を置いただけの簡単なものなどでしたが、「ティー一橋」、「キバシ」などと呼び名は様々でした。中には、時代の変遷に伴い石橋に変わったものもあります。

以前は必要だった橋も、生活形態の変化により、次第に使用されなくなり、その後削を終えたものもあります。しかし、古老人の話の端々にそれらの橋の存在を

① ティー一橋

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

昔は橋が一つしかなかつたのでそう呼ばれた。小さな川があつて木の橋が架けられていたので、その名がついた

② キバシ（堀根原）

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

上田に上るところに馬車の通るくらいの石積みの橋

③ キバシ（儀座原）

シマトーカイを越えて、土地改良している所から山に入るところ。昔は田んぼがあつて小さい石積みの橋があつた。その昔は木橋だったかもしれない。今は畑になつていて。(土地改良した所)

④ キバシ

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

ナラカ一、シードウに行く所。木橋が架かつており、三十年前まで田んぼだったので、そこの水を利用していた。土地改良して、今は畑になつていて。



池原ウテー橋

① ヤマシシヌアナ

イノシシを取る穴のことを「ヤマシシヌアナ」という。原名トウイグチに沢山あつた。スナンメーアーラという氣の荒い有名な大きなイノシシがいてみんなに怖がっていた。

② イノガキ

桜井清（大正八年十一月二十日生）

作物をイノシシの害から守る為、耕地への侵入を防ぐ「イノガキ」を構築した。

上田から仕明座にかけてイノガキが残っている。

③ 垣城「猪垣」の築堤工事の施工の推察

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原字の西方山林の中に通称垣城と呼称されている小形万里の長城のようなものがある。この土堤は山の中に入土してその頂上に竹を植えて猪が人里に侵り農作物に被害が出ないようにと築堤されているのがこの垣城である。

築堤年代は筆者の推定であるが、十六世紀ごろにされたものと思われるが垣城に関する著者、文献など

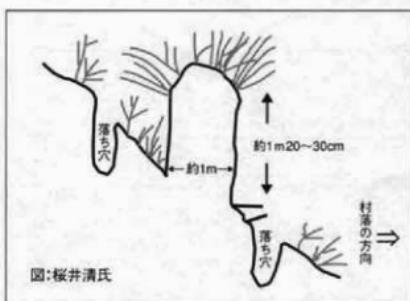
今のところ手元になく明確とは言えない。唯、仕明座原の開墾が一六〇〇年代になされたと考えた場合私はこの垣城「猪垣」の築城工事も開墾と平行して行われたものと推察するものであります。

土堤の高さは現今「一九四七年」一米二、三百位、

幅が一米位延距離にして二百位と記憶するが明確ではない。在郷の皆さんにはほぼ見当がつくのではないかろうか。この垣城は儀座原の通称フートースブイグチから北へと山斜面谷間と切れ目なく延々と続き最北端は仕明原まで続いたものと思います。尚、この垣城の高さ及び幅等の寸法も三十年前土地調査時の記憶を記入したものであり、確實をきたしたものではありません。機会があれ現寸及び現寸から三五〇年前の現寸も知ることができるのではないかろうか。

この垣城を観察して気づいたことは築堤工事に使用した土はこの垣城付近に深さ一米五十百位の落穴「猪捕獲用の落穴」が数多く散在していることからこの穴掘りの時の土を使用して盛土がなされたようである。又、落穴から出た土では不足したものと思われるが土堤の近くから土を取った様子もなく一箇所からの採土はしていない様である。また、築堤工事のされている場所も傾斜地の所が大きく山の背「頂上」には私の記憶ではなかつた様な気がするが今度確かめて見ることが必要かと思います。

この垣城の記述は私が三十年前一九四七年池原村の土地調査「測量」の際に観察したものを記録したのであり、不備な点があると思います。今後共尚探求する



イノガキ

よう努力したいものです。唯この築堤工事は当時の池原村としては相当大きな工事ではなかつたかとおもう。金銭的にも、労力から考えても並の工事ではなかつたものと私はおもうとともに如何に猪の被害が大きかつたか覗い知ることが出来る。

〔私が推察する池原村及び當村〕

6 墓

① ジョーミーチャーチ墓

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

ジョーミーチャーチ墓は中ではひとつになつてゐる。たとえば、ひとつの家において仏壇がいくつか祀られているところは、門は三つ開けないといけないと言う話があるので、あのジョーミーチャーチ墓もしかしたら、あそこのもの、このものと葬つたので門を三つ造つたのではないかと思う。それそれが「ここは私達の門」「ここは私達の門」という風に造つたのではなかつと思う。

あの墓はウフヤと関係のある墓である。

地ならしもきれいにされ、石積みも美しく、仕立てた主の果報なのだろうか

銀森くさい 黄金森前なち

風水巻墓ぬ んけぬ美らさ

銀の山を背に黄金の山を前にして建てられた墓

の方向の眺めの美しいことよ

まかや茅葺ちや假宿どうやゆる

真茅で葺いた茅葺き屋はかり宿であり、石造りの墓こそ永遠の家である

今年嘉例吉や普請はじみとて
百年いちまでいん むとうゆさけ一びち

今年のいい年に、普請始めれば百年永遠に榮える
だらう

③ 墓の落成祝い歌

松下キヨ（大正八年十一月十日生）

土ん敷ち美らさ 石ん拂り美らさ
土ん敷ち美らさ 石ん拂り美らさ
土ん敷ち美らさ 石ん拂り美らさ
土ん敷ち美らさ 石ん拂り美らさ

仕立ていたる主ぬ 風水美らさ

〔4〕 墓の落成祝い歌

島袋新栄（明治三二年七月十四日生）

土ん引き美らさ 石ん座し美らさ
仕立いてる主ぬ 果報がやゆら

水は命を支え、生活する上で欠かせない存在です。人々は井戸を掘り、雨水を集める工夫をし、水を手に入れやすい場所に集い、住まいを構えました。村が今

日まで存続できたのは水のお陰であることを知っている村人は、その恩恵に香を焚き、村人の健康、繁栄の祈りをささげることを怠らず大切に守ってきました。

しかし、水道が普及し、水が便利に使えるようになると、カーラの存在はその役目を終えるとともに人々の記憶からも消えてゆき、水を得るための苦労も忘れ、自然を崇拜する信仰も薄れています。

かつて、人々の命の源となっていた池原のカーラには次のようなものがあります。

水源には、イジュン、クムイ、カーラ、カーラと様々な呼称があり、性格については左記のように分けることができます。

○イジュン（ワク）：地下から湧いてくる水。

○クムイ：雨水が溜まつてできるもの。または、土地が低いため、川の流れが溜まつて出来た池。

○カーラ：流れのある川。

○カーラ：井戸のこと。

○ニーブガリ：柄杓を使い水をくむもの。

○チンガリ：釣瓶をつかうもの。

しかし、人々の中では区別をすることなく、水源の総称として「カーラ」と呼んでいるのも少なくあります。また、カーラは利用する地域住民によってそれぞれ呼称が異なります。

このような地域による言葉の違いは、土地の水により変わっていくという現象があります。

（琉歌） 松下盛一（明治四十五年五月十日生）

*31 「上之泉の碑」 「木火土金水」 の字が刻まれている碑

池原とう 登川
いちらほる ねえじー

ハルいちやいどうやしが
飲むる水変わてい
くことば

言葉変わてい
くことば

池原と登川の人は烟で行き違う会うくらい近い所にいるのだが、言葉のアクセントが代わるのは飲み水のせいであろうか。

1、カーラについて

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原村で一番古いものと言えば、戦前の下川堂の屋敷の下の方にありました通称「上之泉の碑」が一番古いようである。

この碑が建てられていた場所は泉に向かって左上の方に建てられていた様な気がする。この碑に「明暦二年丁酉八月吉日」「西暦一六五七年」と記されて居り、現在（一九七五年）から二八年前建立されたことが判る。下川堂の下の碑は次のようにになっている。

「私が推察する池原村及び當村」

（1）木火土金水の碑

初泉（木火土金水）の水は戦前は生活用水として使用されていた。戦後、軍道路を作るときにそこに

あつた「木火土金水」の碑文が埋もれてしまつた。

それがユタによつて石碑が掘り出され、現在の位置にすえられているが、元の位置ではない。カーの呼称もかつては妙泉を「ウブガード」、諸人泉を中ヌカー、

初泉（木火土金水）を上ヌカーと言つていた。

（2）妙泉

くぼ地にしみ出る泉の周りを石で囲い湧き水をためる石井。

（3）諸人泉

① ウブガード

桜井清（大正八年十一月二十日生）

ここには四百年位たつ大きな松があつた。一番最初に飲み水として使用した。登川の人たちもウブガードと拝みに来る。

3 池原のカーニの造り方

子供が生まれると水を汲んできたところでウブガードともいわれる。

② ウブガード（スニンガード）

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

人が亡くなつたときにそこのカーニから水を汲んで来

て体を清めた。

④ ニービ土

桜井清（大正八年十一月二十日生）

ニービ土は粒子が細かくて、鉄物の型を作るのに適しており、お金を作る型としても使用されたのではないかと思う。スニンガードのところの土質は全部このニービー土（ジャーガル土）である。

2 イジュミについて

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

タマーシヌメーといライイジュミは、ミーガーワークからの流れの泉である。そのイジュミの水は下からどんどん湧き出てくる泉なので、「池原の人は下から湧き出る水を飲んでるので浮氣をする人が多い」と冗談に言われた。

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原のカーニには雨が降つても、汚い水がカーニにはいらないように溝が作られていて、昔の人の知恵を見ることが出来る。



池原の石碑（木火土金水）

*32 ニービ土 土壌の一種で、深い黄色の砂岩。本島中南部、周辺離島に分布。
*33 タマーシヌメー 島袋新栄さんの屋号
*34 ミーガーワーク 妙泉のこと

4 池（クムイ）

水の便がよくなかった頃生活用水に使う水は限られていきました。そのため防火用の水や農作業の帰り道に手足を洗う水、家畜を水浴させる水はクムイを作り利いました。クムイには自然のものと人工で作られたものがあります。池原のクムイについて次のような話が伝えられています。

① 池原部落の池

盛島五郎（明治三十九年七月一日生）

池原部落の池は字の風木（ブンシ）と言つて全部で九つありました。神アサギ、ヒージヤヌメー、トウクマチヌメー、アガリマー・ヨーヌメー、サーターヤーメー・ヌクムイ、ウシクラントースバ、ナーカアジマー（ナーカヌクムイ、イリカージョーグワーヌメー、マンクニー）。

※戦前の池原のカーデ図（52ページ）参照。

② メープククムイ

島袋三郎（大正九年二月一日生）

メークカイという屋号のそばに池があつた。スブシマアジマーの近くにあつたクムイのこと。

② メースカーネイジュン

5 池原のカーメー

① 池原のカーメー

桜井清（大正八年十一月二十日生）

私が小学校四、五年生の頃、カーメーの時にイーハラントーのお父さんに連れられて瑞慶山ダムにあるカシに連れて行かれた。場所はグヤグワードの瑞慶山ダムを上がりつてそして降りて、ちょっとした山のふもとの窪んだところで拌みをした。

「どうして、こんな遠いところを拌むの？」

と聞いたら

「昔、自分たちのウヤファーフジが水を飲んでお世話をになったから拌むんだよ」

と言われた。そのことから、「自分たちのご先祖様たちは瑞慶山ダム（スナンヌメーヌフクジバル）にいたんだな」ということがわかつた。

② 池原のカーメー

（クングワチクニチヌカーメー）

「新島キクさんについて回ったカーメーの順路」

（平成四年十一月四日）博物館調査
① メースカーネイジュン
メークカイ：キクさんのウブガード最初に拌む。その水を汲んで帰り火の神にお供えする。

③ ビジュル……ここでは登川の人達も来る。

② 安里井（アサトウガ）

タメー・シヌメー・スカー……登川の人達も何んでいる。

カニムトウヌシチャヌイジン（ユーガー）

ウブガー（シチャカードーヌシチャヌカー）

「祈りの言葉」

祈る人の名乗りをしてから

イスチクエーブー キティウタビミソーチ

ウシリガーフーデービル ヒヤクニジヌース

ウニゲーシミラチ クイミソーリ

と唱え、子孫繁盛の祈りもする。

6 後原の力一

(1) 安里井

① 後原の安里井／カーニースウカー

カーは後原北西の山中にある。水は千枚岩の部分から湧き出でおり、周囲は湿地帯になつてゐる。戦前までは近辺に民家があり、正月と十月に拝み、正月には若水を汲んだ。アサトガーと言うカーの名前の由来は、今から約六十年前に諏訪の安里という人が、井泉の工事をしたので、その人の名を冠して安里井（アサトウガー）と呼称されるようになつたといふ。

(2) イジュングチ

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

後原にある。そこの水を飲むと子供が出来ると言われていた。子供一人出産すると、「イジュングチアチヨーサ（泉口開いているさ）」といわれた。

(3) 後原のチングガー

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

後原のチングガーは今から七十年前に次の七軒で作つた。

マチユ一佐渡山

ダンバチャ一佐渡山

豆腐横田

伴田

樽横田

ヒージャータンメー

サーターヤー二佐渡山

*35 シェーキ 開墾地。次々に耕していく。
池原では明地を開墾することを「シェーキレー」とか「ハラアキレー」と言っていた。

戦前の池原のカーカー



〔5〕 民俗知識

現在のように科学的な知識をもたない昔の人々は、旱魃や飢饉といった自然災害を、何らかのタタリとして恐れました。そして、日々の生活体験（風の向

きとか、空の雲の様子から天氣をよみとる）を通して得た知恵を機に乗越してきました。「悪いものが入ってこない」予防と「どのようにして防ぐか」という対策が民話やことわざ、まじない、呪文として伝えられてきました。

1 ことわざ

① 火は人先、盜人お人後

盛島五郎（明治三十九年十一月十日生）

火事の時は人より先に行つて消す方がいいが、泥棒の心は穏やかでないので何をするかわからないから、遅く行つたほうがいいということ。

② 誠の上には弓も矢も立たない

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

じこ一ぬ誠ぬ者ぬ御城勤みやたんでいしがよ、くぬ誠な者お、くぬ御城から、あぬ御城んかい言上持つちて、手紙持つち行ぢゆるばーに、へーライぬよ、

方言原話

うり殺すんでいち、すんでいちが、

「実え私ねー、くれー、とうじゅみていやー、くり持つち行じ、戻やーに、うれー、しちから、あね、明日んかい私ねー殺るちどうらし」

「うん、あんどうんやれーしむん」

「でいちなー、しえーぎさんよーやー。あんさーに、あんしえー、いちぬいつかぬ月ぬ夜やー」

「んでー、月ぬ夜やるばーんじやー」

「でい相談の一やでーぎさんてー。あんさぐどう、御城んかい戻てー行じよー、うれー、

「わねーなー、かんかんしまーしがなー、わねー、殺るさりーる事などーつさー」

でいち、御主加那志前んかい、うんぬきたぐどう、

「えー、いやーや、誠な者やくどう、絶対にいやーんかいかららんどう、どー、私がいーむんならーさわ、くぬ、私がいる通いしーよーやー」

でい言ちえーぎさんてーやー。あんすぐどう、

「うぬ、刀持つちちやーによ、月んかいあていていしーねー、あまぬ入ちえー来さんぐどう、うぬ、覚悟さーにしーよー」

でい言ちえーぎさん。いんねー、すんねー、うぬ日、

なー月ぬ夜にあていてい、いぬ場所んかい行じえーぎさんてー。うりん來たんでいよー、やー。あんしなー、

「とーあんしえー殺しえー、殺しえー」

さーに。刀えよー、月んかいあていらつてい照らさつ

とーるばー。あまから見しょーやー、月んかい向かて
いどううくどう。あんさくどうてー、打ちーさなよー

私が勝なーんぐどうなー、詫すん
でいち、くぬ、ハーレー詫すたんでいどー。うにーか
らやさ、

「誠^{まこと}上^{じょう}んかいや弓^{ゆみ}矢^や立^たん」
でいし。

(共通語訳)

たいそう誠実な人がいた。御城に勤とめていて、こ

の御城からあの御城へと言上、手紙を持って行くとき

に追いはぎに殺されようとした。そこで、誠実な人は、

「実は私はこの使いの言上を向こうまで持つて行かな

いといけないので、それを届けて後に明日にでも私を
殺してください」と御願いしたらしい。追いはぎも、

「それでよかろう」と

と言うことになつた。そして、「必ず戻つてくるから、いついつの月の夜にしよう」と。

〔月の夜にしような〕

と相談がまとまり約束した。誠実な人が御城に戻つて
行つてから、

「実は私はこれこれしかじかで殺されることになつて
います」

と御主加那志前に申し上げると、

「あなたは誠実な人だから、絶対に殺されることはないと思う。あなたに良い事を教えるから、私の言う通

りにしなさい」

と言つたらしい。そして、太刀を持ってきて、

「太刀を月にむかつてかまえなさい。そうしたら、彼

はかかるてこれないから、そうしなさい」と教えたらしい。約束の日、その場所に行くと、月の

夜で追いはぎも来ていたらしい。

「さあ、早く殺せ、殺せ」

と言つて、太刀を月に向けてかまえた。相手は月が太刀に反射して討てないので、

「私に勝ち目がないので降参する」

と、この、追いはぎが詫びたそうだ。そのときからだよ、

「誠^{まこと}の上^{じょう}には弓^{ゆみ}も矢^やも立^たん」

と言うようになったのは。

③ 天氣に関することわざ

朝、東の海からゴーッと言う海鳴りが聞こえると暴風になるといわれた。そのことを「朝アケー」と言つて注意をした。

又、夕方「ユーサンディアケー」といって空全体が赤くなると天気が崩れるといわれた。

*36 海鳴り 氣象学的にも立証されており、

台風が南海上で発生すると、海のうねりは、台風より先に沖縄の東海岸に届く。その海鳴りが聞こえると、暴風の前触れとなる。

に打たれないよう呪文を唱えました。その折りの言葉を次のように伝えています。

(1) ハジマキ由来と呪文

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

大金持の人が結婚したが子供に恵まれなかつた。夫は外へ遊びに出るようになり、別の女性と深い仲になつてしまつた。やがて子供が産まれるというときに、妊娠している女に、「ねえ、この子供の躰はどこにいれるの」と聞かれた。男は妻もいるので、子供と女性を自分の躰に入れることが出来ないので「妻をなんとかしなければならない」と悪い気持ちになつて妻と別れる方法を考えた。

ある日のこと、言葉巧みに、

「今日、ピクニッケに行こう」といつて誘い山に連れて行つた。男は山奥で妻に大きなハジマカーニーという木を抱かして手に杖を打ち帰つてきた。妻は立つたまま死んでしまつた。

ハゼの木は死んだ妻の精となり、木のそばに来る人の皮膚をかぶれさせた。ハジマカーニーにかかった人は困つてしまつた。名の知れた人を集めて、「医者にみてもらつても治らない。これはどうしたらいいか」と話し合いをした。その中にカミンチユ^{カミンチユ}がいらつしやつて、

「これは何とかしないといけない。山の神々を集めてマンナ（呪文）を読むと治るだろう」といわれた。そして、

ガイローガイロー 山原山から出でて一る
木の精 木の精

枯りりーれー枯りりー
切りじやーい じやーい 築んかい入りーんろー

人間ぬ 朝ぐち 夕ぐち 愛るしむんどー フイー
と呪文を一息で唱えるとハジマキはいっべんに治つた。

(2) ハブヌヌキジの呪文（ハブ除け呪文）

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

山に入るとき、たとえば、ソーミナーを取りに行くときなど、この呪文を言うと一里四方はハブがないくなると言わっていた。

しかし、ハブ取りは、この呪文を唱えることはタブーであつた。

ジユージャー ブージャー

ジユーナリ サイナリ

アヤマジヤラ マジヤラ

ワガイクサチニ タチユンドウンヤラバ
ヤマヌアラビンカイ カタユウンドー

ジホー ジホー

*37ハジマカーニーという木、ハゼノキ。ウルシ科の落葉高木。その木の下を通りだけで皮膚がかぶれる人もいる。
*38カミンチユ 神人。公的な宗教行事に間わるノロ・根神。クディ、及びそれらに仕える神女達の総称。

*39ゾーミナーメジル。

(3) 雷に関するまじない

① 雷を避ける方法

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

雷に行ったら必ず棒を立てておきなさいと言われた。なぜかというと、雷が落ちた時に棒を電信柱と間違えて伝つて上っていくそうだが、棒を立ててないと人間を伝つていくからと言われた。

② 雷除け呪文

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

雷が落ちた時、桑の木に引っかかって下に落ちなかつたので、「桑木ヌ又、桑木ヌ又」と唱えるようになつた。

(4) 地震の時の呪文

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

浦添にチョージカムイと言うところがあり、地震になると「チョージカ、チュージカ」と言葉を唱える。また、夕飯を食べ終わると食器は早く片付けなさいといわれた。地震がくると、また二飯を食べないといけなくなるからと言われた。
※食事中に地震が起きたと不吉とされていた。

3 不思議な話

(1) 動物にまつわる話

* 41 アジマ一 道が交差する辻。津の東西を問わず、魔の住む場所。冥界と通じる場所と見なされていたといふ。

① ハブの葬り方

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

ハブ（カゲー）は死んでも毒の効力は生きているので、あまり人の歩かないアジマ一に埋めた。神アサギのアジマ一で葬る（必ず、アジマ一で葬る）。

② 蛇の種類

玉元榮松（明治四十二年一月十日生）

青大将というものは本当に青いけどね。赤マターといいうのはまたちょっと色が変わるんや。ヘビ色にやや似ておるけどね赤マターの場合は。ヘビと赤マターと違いますよ。しかし、毒であるからヘビはね。あれと赤マターはちがうけどやや似ている体は。しかし、青大将というものは、またちがうよ。体もちがいますよ。オール一（青）であるから。あれオーナジャ一といふけれども、こちらの言葉としてはね、各部落名前が違うかもしれないけどオーナジャ一（リュウキユウアオ

* 40 チョーデカ 「チョージカ」という言葉を三回唱えると災難に遭わない信じられた。

ヘビ)は、本当に青大将といつて色がちがいます。そういう赤マターとそれからオーナジャーそれからヘビさ、ハブと言うでしよう。そういう三つぐらいは。いや、

クーファー(ヒメハブ)というものがある。クーフアーリといつて尻尾の細くなつてね、体は約一メートルぐらゐ。ハブはあるけど。クーファーはもうそのぐらいあると思います。オーナジャー、クーファーが噛みついたらね、一時的に毒はあるけどヘビのようには毒はないわけさ。噛みつかれるとものすごく睡れるよ。一時は睡れるけどさー、ハブは怖いから噛みついたらすぐ治療しないと大変だから。

③ 猫を木に吊るすわけ

仲村喜美子(大正九年九月八日生)

猫は、死ぬと土に埋めると、食べ物を求めて迷つて出歩く(化けてて)ので、首を松の木に吊るすようになつた。そのときに、「マーチヌカシ一トウティクーヨー」と言葉を言い下された。

④ 猫の鳴き声

島袋シズ(明治四十一年十一月二十日生)

ちょうどお家の周囲にして、あの門口なんかで、ワーリーとへんな鳴き方をするでしよう。そういうときは、やっぱしどう悪者だからといって嫌いするわけ

よ。その猫でも、どう、これ、やっぱし何かあるといつて心配するよ。

⑤ 利口なネズミ

盛島五郎(明治三十九年十二月十日生)

十二支は初めは、ウシ、トラ、ウー、タツ、ミー、ミ:であつたが、ネズミはセーカイ(利巧)な者だつたので、

「あなた方は私が小さいからと言つて私から先に入れないので私は子は根強^{アキラケ}というから私から入れなさい」と言つて牛の頭から上がつていった。そして、

「頭から上がつてきた私をおろすのか」

と言つたので、これを先にいれないとやられてしまうといつて、ネズミから始まつたと言うわけだよ。

ネコはネズミを食べるので、ネコを入れたらネズミの肉はおいしくて食べられてしまうというわけで、猫を入れなかつたそうだ。

ネズミは家のカリーと言われていて、ネズミを取り逃がしたりしたら、ネズミは自分の背中を打つたものをちゃんと覚えていて、その人の着物を全部食いちぎつてしまふよ。ネズミはセーカ(利口)な者だよ。

⑥ 利口なネズミ

盛島カナ(明治二十七年九月十日生)

「鼠がガサガサするからヤーマ(ネズミ捕り)かけよう」

* 42 猫は魔性のものと信じられており、樂りを封じるため呪術的処置が取られた。



と話しているのを鼠が聞くと絶対にかからないそうですね。だから、ヤーマをかける時は「しゃべるなよ、しゃべるなよ」といながらかけるよ。どういうわけか、鼠は耳が早いそうだ。

⑦ ピーチャーの縁起鳴き

島袋シズ（明治四十一年十二月二十日生）

ピーチャー（リュウキュウジャコウネズミ）がチンと鳴くときには、その家に良いことがありお金が入るとわれ、ビリビリという鳴く声は、口事や悪いことが起きると言われていた。

⑧ 鶴は縁起物、メジロは厄

玉元栄松（明治四十一年一月十日生）

昔、倉というのがあった。僕らの部落では二箇所かかるで。昔は福刈つたら倉に積んで、その倉の下でね雀が米を食べるんだけどね。それはもう、本当に親孝行者といって孝行であるから、それが家に入ったらなんともない。

（方言原語）

① 「火の神の話（シンベーシビラ）」

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

昔、那霸から山原んかいめんしえーたんで。あん合はその家は厄だから、ヤクバリといって一晩は浜に行つて、こつちは海はないから川ばたにいてそこで明かして、また明くる日帰つてきて。そういうふうな

ヤクバリやつておつたそうですよ。

＊43シンベーシ坂 現在の北美小学校の所はかなり勾配のきつい坂があつたらしく、その坂のことをそう呼んでいたという。それをいたいだくために、池原は海が遠いので川に下りて行って終日過ごした。

⑨ 厄払いの方法（池原の平田屋取の場合）

鳥田盛善（大正十五年一月五日生）

家を全部開け放ち火の神、カマの前に灰をまいてバーキをかぶせて家族全部川へ行きそこで過ごす。（池原は海が遠いので）その間の食事は親戚の方々が持ってきた。厄が払えたかどうかの確認はバーキの下に何の足跡もなければいいということになっていた。そして、家に戻る時は、必ず家の後ろからカネを鳴らしながら、近所の人達とともにに入る習わしであった。

（2）火の神

昔、倉といふのがあった。僕らの部落では二箇所かかるで。昔は福刈つたら倉に積んで、その倉の下でね雀が米を食べるんだけどね。それはもう、本当に親孝行者といって孝行であるから、それが家に入ったらなんともない。

（方言原語）

① 「火の神の話（シンベーシビラ）」

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

昔、那霸から山原んかいめんしえーたんで。あん合はその家は厄だから、ヤクバリといって一晩は浜に行つて、こつちは海はないから川ばたにいてそこで明かして、また明くる日帰つてきて。そういうふうな

あしとうらし

でいちょーるばーてー。くぬ、山原んなんかいうふあさりやーま通ーい、また歩ちんじ、くぬ村内うとーて別りどーるちむえーやるばーてー。別りたくどう、うん人ぬ、てーげー、池武當まんぐら、うりから、美池自練ぬまんぐら行じよーる場合に、くぬ、県道からてーげー、百メートルびかー入ちやくどう、うまー火事けーなとーるでいどうばー。あんざくどう、うぬ人お

「くれー、人んあらん。本当ぬ人間のーあらんたしがやー」

はーあー、くれー火玉どうやてーさやー

でいち、うりから、うぬ話や伝え話ぬ出じとーるばーてー。

うぬ時ねー私ねータンカーやてるばーてー。タンカー やいに、くぬ、わつたーお母がうふあし、うま通い るかーじわんねー

火バーバー、火バーバー

すたんでー。わねー、んー、うふいなーや、あてーあたるばーてー。うま、なーら、橋ん架からんまーるどー。

(共通語訳)

昔、那郷から山原へ出掛けられた人がいたそうだ。

そしたら、池原にあるシンペーシビラと呼ばれていたところの川に差し掛かったときのことである。通りがかりの人が、山原へ向かっている人に、

「私はそこを渡ることができないので、あなたが負ぶ

つて渡してくれませんか」

とお願いするので、負ぶつてわたしてあげた。そうし

て池原村の中でそれぞれ別れた。山原へ向かう人が池

武当、美池自練あたりに来た時に、県道からいたい

百メートルは入った所の、負ぶつて渡した人が向かっ

ていた方向にある家が火事になっていたそうだ。する

と、山原へ向かっていた人は、「これは人間じやない

なあ」と、なんとなく思ってはいたが、「わたしが渡

してあげた人は火玉だつたんだねえ」とわかつたそ

だ。それからの伝え話が出ているわけさ。

その時には私は一才であった。一才の時に母さんが私をおぶつてその場所を通るたびに私が

火バーバー、火バーバー

と言っていたそうです。私としても、まあ、少しは覚えていたが、後に母親に聞かされた。北美小学校の近くの橋はまだ架かつてない時だよ。

② 火の神の話（シンペーシビラ）

松下キヨ（大正八年十一月十日生）

(方言原話)

今ぬ、くまぬ北美ぬはたんかい橋よ、ずつとかんち川やたんでー。くぬ女ぬ、うまうてい、ちー止まとー

んばーてー。火ぬ神どうやくどう。そしたら、

「ぬーがいやーや、うまから渡らんなー」

でい、このおじーが言ちえーみしえーたん。

「わんぬーくまから渡いーさん。わん、うまから渡た

ちどうらさんなー

でいやぐどう

「あんしから」

でいやーに、くぬおじーが、うーふあち渡ち、うまか

らうままでい、くぬ川どうどうま渡ち。あんしから、

くまから上て、いちゅーへーやー。うまひつちえー、わ

つたーんけー入んとうくるぬあしえー。うまんちえー

別りたんてい。あぬ人お山原にちやー行ち、おじーは。

この女はまた、くまんかいちゅーたんてい。そうした

ら、このおじーが、今ぬ美池自練ぬまんぐら行ぢやが

やーでい思むいねー、うまー、「火どーい」やたんで

い。そうしたら、うまから、今入ちはいたひが、ぬー

んでいちやん、なま、「火どーい」やがやーでい。「あ

はー、私が渡たちえーひえー火ぬ神やーん。火玉や

てーさやー」でい、あぬおじーや、うまからどうんも

ーついに、くぬ火事出じとーるとうくるまでい戻ど

うてい来くとー、「あはー、くぬ女お、んちや、くま

んかい入たるむん。うりが入ち行じやるとーくろー火

事などーーーさやー」んでい。の人、火事なでいか

ら、思んじやちえーんばー。ふーじ。

(共通語訳)

今のそこの北美小学校の所にある橋ね、そこは川が

流れていたんだって。この女(火の神)が北美のところで立ち止まっていたらしいさあね、火の神だからね。

すると通りかかったおじいさんが、その女を見て、

「どうしてあなたはそこを渡らないのだ」と尋ねたらしい。すると女は

私はここから渡ることが出来ませんので、私をおぶつてももらえませんか

とお願いした。

「それならば」

と、おじいさんは、その女を負ぶって、川を渡してあげた。北美から池原に上がって行くでしよう。上つてくると、私たちの家に行く所の道で一人は別れたそうだ。おじいさんは山原へ向かい、この女はそこ(別れた所にある家)に入つて行ったそうだ。そうして、お

じいさんが、今の美池自練の所まで行つたかねえと思われた頃合に、女と分かれた辺りは「火事だー」とさ

わめいていたそうだ。そうしたら「今(女人が)入つて行った家の辺りだが「火事だー」というのはどう

いうことだ。あはー、もしかしたら私が渡したのは火の神だつたんだ。火玉だつたんだね」とすぐに(おじいさんは)思い当たるふしがあった。おじいさんはす

ぐさま、さっき女と別れた場所に戻つて、火事がおこつている所に行くと、「あはー、さっきの女はなるほど、

そこに入つて行つたもんな。その女が入つて行つたところが火事になつたんだね」と思つたらしい。火事がお

こつたので、負ぶつて渡した女のことを思い出したようだね。

*44タマガイ 死人の出る前や、火事の起こる前に見られる不吉の兆兆と言われる。それが見られるところの家には厄が付くと語られた。

(3) タマガイ・遺念火

① タマガイ

タマガイを兼箇段サーティヤーのところから兼固

段グスクのほうに見た。また、チチ鏡（今のゲートボール場のところ）に登り真夜中十二時過ぎに見た。

② タマガイ

島田永徳（大正五年十一月十日生）

ヤヤニティリアカス イニンビヌヒカリ

（毎夜照らす遺念火の光）

ムトウジタジニリバ ムカシヤシガ

（もとを尋たずねば、むかしの出来事なんだが）
（知念高の作った歌）

③ チュムトウマーチ

榮野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

ウテーに大きな松があつて、「チュムトウマーチ」と呼ばれていた。そこで、みんな、タマガイを見たりした。黄金の花が上がったという話もあつた。

④ 池原の遺念火

仲宗根フミ（明治四十二年七月十日生）登川

この遺念火は、池原の北の方なつていて山里からずつと上方にあがつたシマよ。あがたは楚南乙柳二つの方は、栄野比ウカマチといつて、昔のサムライの方だつたはずと思うよ。それが縁婚の約束したけれども、楚南の方と、こっちとはちょっと反対だつ

たか、縁が結ばれないで、ほんで遺念火で結んでいるという話。

（4） フィーフチガマ（火返し）

① 池原クワーカワ

島袋誠勇（昭和十五年五月十五日生）

（＊）栄野比大屋の墓の近くにガマが「池原クワーカワ」（喰ワ一喰ワ一）と鳴ると池原では悪いことが起きるので、注意しないといけなかつた。後原の所にあつた拝所を返しの拝所に仕立てた。この拝所ではアガリユ（浜比嘉島）のウトウーシ（遠拌）をした。

② 獅子の口

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

穴の開いた岩（獅子の口岩）が東恩納の山の所、栄野比大屋の墓の近くにあつた。その返しには、池原には、東西南北の方向とに御拝所があつたので、それで返した。

東西南北の御拝所（四方神）

東：イースアシビナ一にある。浜比嘉へのウトウーシ（遠拌）。

西：カニムトウの前。クボ一御嶽のウトウーシ

* 45 知念高 琉球古典音楽の中興の祖（七ハ一ハニハ）

* 46 「ウテーに大きな松があつて」ウテー原には大きな松がしげり、昼間でも薄暗いほどであった。「チュムトウマーチ」もその中の一本であつたと思われる。また最近まで樹齢四百年の大松があり、ウテー原の森にあつたことから、「ウテー原の大松」と呼ばれるようになつた。昭和五三年五月十日沖縄市指定文化財記念物。大松の高さ二十一メートル、広げた枝ぶりは幅四メートル、樹幹の円周は五メートル。大戦をくぐりぬけてきた松も、指定後一年四ヶ月で松食い虫にやられ枯れてしまつた。

南・神アサギ。久高島、首里へのウトゥーシ（通卦）。

北・ナーカヌタムイヌスバ。今帰仁城へのウトゥーシ（通卦）。

※「民俗地図」（8ページ）参照。

② キジムナ一

新島キク（大正十年五月二十七日生）

メーラフヤの木にキジムナ一がよく出た。

と防ぐ為におこなうこととして拝所を

③ キジムナ一の移動

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

栄野比トヨ（大正六年十月十日生）知花
キジムナ一に出て行つてもらうときには、平線香を

つけて

チユムジユラサグトウ

チユハーラ アシドーブトウ

アマウテイ ドウシシクリヨー

ワツターウワーンカイセ ガンマレー スナヨー

と祈つた。

（5） キジムナ一

① キジムナ一

栄野比トヨ（大正六年十月十日生）

（昭和）の初期まで、キジムナ一を見たとか、キジムナ一にいたすらされたとか、キジムナ一の話はつきなかつた。

キジムナ一は（男の子）のような格好をしていて、バサ一を短く着ており老木（ウスクガジュマル）を腰みかにしていた。家に入つてくるときは、体をゆがめて入つてくるといわれた。

（6） マジムン・幽靈・その他

① お茶一杯由来

島村カマ（明治三十七年六月十日生）

この一碗茶あ飲んで行つた人が、災難にあたつているから、ぜひとも、もう一杯ついで飲んで出なさい。お茶を二杯飲んでいるうちに魔物は逃げていつていなくなると言つて、おじいちゃん、おばあちゃんから話を聞いたんですよ。



* 47 フィーフチガマ 真志川ゴルフクラブと昆布との境にある岩穴。自然に出来た洞窟で口を開いたり、その地域の住民は対策として口を閉めたり、返し（村を脅かす魔力などを防ぐ為におこなうこと）として拝所を作つて守りながら免れるようにした。

② ウテー山の歌い骸骨

嘉陽宗利（大正十一年二月十日生）美里

兼簡段ウテーいうところは大変怖い所として有名であった。メードウマイと言う人が戦前塩は専売なのだが、山原に密売していた。そのことを知っていた警察官が、そのメードウマイを捕まえようとしてくるので、男は警察官を驚かそうと思い、兼簡段ウテーまで引つ張つていって、

「ここは竹に突き上げられたドクロが風が吹くたびに、新北風ぬ吹ちばみ髪ぬ痛むさ」と歌う場所なんだよ」

と言った。ところが、その警察官はまったく怖がる様子も帰る気配もない。しかたがないので、
「くぬ犬ぬ翼お、誰がまたがやー」
と言うと、この警察官は逃げて行つたという。

③ 余いねー川崎かいの言葉由来

松下栄吉（明治三十五年一月十五日生）

〔方言原話〕

くまぬ栄野比川崎やしが、くまぬ昔言葉んかいお母ふあーふじえー川崎ん人やみしけーるばーよー。うぬおばーやじこーサクーぬ短氣な者やるばーよー。

ぬーりんり言ねーすぐちぢくわーりるばーよー。なー、私つたーや孫るなどーぐどう、私にんなー物言はんびらーさぐどう

「おばー、ぬーんち私つたー村あ、余えー川崎かいり
言やびーがやー。」

「いやー、あん言がる事ー。」

「んりさくどう。かんなどーるばー。」

「うれーやー、昔え山羊ぬ死なわん、豚ぐわーぬ死な
わん全部池原川 宗野比川んかいけー流らすばー、

死にむのー。また川崎ぬあまんかいケンチャーピラ
いち石洞窟ぬあるばー。うまんかい悪な者んちやー

がうでーるばーあん上から流りいで来るし、宗野比から
来る川どう、池原から来る一所川ぬタマタでい所ぬ

あんよー。うまんかいかんしひラ石ぬあんよー。う
りんかいうちきとーいくしでーすんち。毒げーし、

かでーんちけーねーらん。あんさー山城、辺また池原、
登川からけー流らすしえーあまうて取やーに、殺

ち食むたんり。「余えー川崎かい」りしえー、死にむのー

余まとーくどうけー流げーらちえーるばーよー。あんし
る「余えー川崎かい」でい、くぬ言葉どーりー

また、川ぬ先、栄野比からん池原からん先ない
川崎、うま、ヒラ、石が立派なむんぬすぐ水とうゆんた
かーぐわーに。うりんかいうちよーでいくしれーたん
でい。冷じゆ川崎でいしえーや、けー死ねーから冷じ
ゆるーないくどう冷じゆ川崎。

（共通語訳）

これは栄野比、川崎のことだが、ここに昔言葉に「余りものは川崎へ」という言葉が残されている。私の母のおばあさんは川崎の人なんだよ。そのおばあさんは

* 48 栄野比 具志川市の字。

* 50 池原川 沖縄市宇池原を東流する。天願川に合流する。

* 51 栄野比川 具志川市栄野比を流れる。天願川に合流する。

* 52 山城 現石川市の字。昭和二十年までは

旧美里村。宗野比川 宗野比川の字。旧美里村。

* 53 登川 沖縄市北部の字。旧美里村。

とても怒りっぽくて短気な人であつた。何か言うとすぐにつかれるわけさ。もう、私達からは孫になるわけだが。私もあまり話さないのだけど、

「おばあさん、どうして私達の村は『余りは川崎に』と言われるんですか」

と聞くと

「お前はそんな事を言いに来たのか」

と言ひながら、

「それはね昔、山羊が死のうと豚が死のうとみんな池原、栄野比川に捨てていたそうだ。死んだものはね。また、川崎の方にクンチャーピラ」といって石の洞窟があつた。そこには悪者がいてね、上から流れてくるも

のを栄野比川から流れてくる川と、池原から流れてくる

川の二ヶ所が合流されるタマタと呼ばれている所がある。そこには平たい石があつて、その石の上において流れてきたものをこしらえると毒返しになり食べても

丈夫という。それで、山城辺や池原、登川から流れてきたものをタマタで取り、こしらえて食べたという。

「余りは川崎に」というのは、死んだものは余り物になるから川に流すわけよ。それで「余りは川崎に」と

いう言葉が言われるようになつたんだよ」

また川の先とは、栄野比川からも池原からも川の先になつてるので「川崎」という。平たい石の立派なものがある。川の水と同じ高さになつていて、その上に置いてこしらえて食べたという。「冷たい川崎」と言つるのは死んだものは冷たくなるでしょう、だからそう

いうんだ。

④ 具志川松田

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原話）

具志川松田、屋号が具志川、姓は松田だよ。だか

らあの具志川松田。その人は昔は馬乗つてねあつちこつちの城廻されておつたつ。それで、その子孫に神人が、てらさつておつてよー。そのときに、あのー、新里の長男が家出して女アカブシーマチグワードラむ

ちぢりてい、人ぬ家んかい行じえーるばーてー。あんさくどう、くりが、

「腹ぬ痛りー」
しきくとつて、うぬー、ミーヤングワーヌおばーと
いう人が、あり、神人だから、あの神人の家にあの具志川松田が馬乗いかきて、神なでいめんそーち

てー、
「くま起きれー、起きれー」
でいち起くさてい、
「くぬ辰いーぬ童子ぐわーや、今日家かい速てい来んあれー、くれー、命取いすしが」
んち、さくどう、くぬ、おばーや夜中どうやしが、夜明かしーしんでい待ちかんていーし、てー、くぬミーヤングワーヌおばーんち神人や。あんさくどう、夜明き白々しち行じやぐどう、新里ぬ家んかい行じやぐどう、塙はんち行じやるちむえー、やんばーてー。あんさくどう、くまぬおじーがて、

「うぬ早さなー人ぬ家んかい、女ぬ来ー」

ち、ごー口えーそーしが。くぬ、おばーが、
「えー、実え、かんどうやくとうてー、いやん」
えさんよーい私ねーちょーとう塙んはんちるちよーく

と、くぬ、私にんかい何ん關係ねーんくと。くぬ、
カミー童子辰ぬ人ぬ童子今日うてい家かい連てい行く
んだんでー、あまうとてい命取しが」

ち言やーに、

「あんしどう来んどんわー」

で、いちゃぐどう、うまぬおばーとうてー、おかーとう

二人し連いが行じやーに。行じやくとう、あまーケー
リンクルビンそーるちむえーやるばーてーなー。腹ぬ

痛りーし。

あんさーに、うぬ、神から、白馬乗ていめんそーち

よーる神からよー、具志川松田どうぬ人ぬ、うり、あ

ん言やーに語らんだれー、あれ、きつさ死じよーたん

でー。あんさーに、うまんかい、家かい連てい来。な

あぬー、うり連ていちゃぐどう、すぐ、元気などーた
んでー。くぬ話やるばーてー。

(共通語訳)

具志川松田。具志川という屋号と松田という姓がつ

いて具志川松田という。その人は昔、馬に乗ってあつ

ちこっちの城廻をされておつた。その子孫に神人が
いらっしゃつた。

新里の長男が家出して、アカブシーマチグワードと言

う女性と仲良くなつて人の家に間借りをして住んでい
た。ある日、その男が腹痛を起こしたときのことであ

る。夜中に神人のミーヤングワードのおばーのところに、

具志川松田が神になつて馬に乗つていらつしやつて
「起きなさい、起きなさい」

と声をかけられ起こされた。そして、

「他系のこの子供を今日家に連れてこないと命とりに
なるよ」

と告げた。すると、このおばあさんは、夜が明けるの
を今か今かと待つて、夜が白々と明けてくると同時に、

塙を撒きながら新里の家に行つた。すると、新里のお

じーが、

「こんなに朝早く人の家に女がくるとは」

と不平を言った。おばーは、

「実は、これには訳があつて塙を撒きながら来ている
ので、文句を言わぬで聞いて下さい。私には関係の

ないことですが、こここの辰年生まれの子供を今日中に
家に連れて行かないと命とりになるよ」

と訳を話す、

「だから来ているんですよ」

と、おばーとお母さん二人で迎えに行つた。すると、
そこでは子供がお腹が痛いと転げまわつていたそ
だ。

白馬に乗つていらっしゃつた神、具志川松田とい
う人が、そのことを告げに来なければ子供はとつに死
んでいたんだつて。

III 集落に伝わる祭祀・行事



III 集落に伝わる祭祀・行事

〔1〕生まれる命、消えゆく命

「家」は命の生まれる場所であり、消えゆく「命」を見送るところでした。身近で生と死を体験できた「家」は、「命」の尊さを知ることが出来た大切な場所です。

池原で子供が産まれたときや、人が死んだときには、次のようなことが行われていました。

1 出産・育児

昔は子供を授かっても死産や流産が多く、子供が無事に産まれるようにと安産を祈願しました。また、妊娠へのいたわりも忘れませんでした。

(1) 出産の準備

産室は裏座を使用していました。出産をおえると、妊娠暖を取らせる為産室に火を点いて暖めるので、シメントーナーなど土を入れてその中に薪を燃やした。使用する薪は「クワナシタムン」といつて、ガジマルを削つて準備しておいた。ガジマルは火持ちがいいといわれていた為である。

また、産婆さんのことを「クワナシミヤー・クワウマラサ」といつて、カッティ（熟練者）が産婆役を

引き受けた。池原の産婆であった外間カマドさんは戦時中に衛生兵と一緒にいて、ミーナリ、チチナリ（見たり、聞いたり）で知識を得、助産婦をしていました。

*1 タメーシヌメーのイジュミ 現在「妙泉」と呼ばれているカー。
*2 ミーガーワーラ 木火土金水の碑がある前のカー。

(2) ウブミジ

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

他のイジュミは側のほうから水が湧き出てくるが、タメーシヌメーのイジュミは上流がミーガーワーラで、そのイジュミだけは水が下からすこく湧き出るカ一である。だから、人々の噂で「普通のカーは側から水が湧き出でてくるので、その水を飲むので浮氣をする人もいないが、池原は下からドンドン湧き出でてくる水を飲むので浮氣をする人が多い」と冗談交じりに云われる事があった。

子供が生まれると、必ず、このカーで水を汲み名前をつけた。

(3) 夜伽

誕生まもない赤子は悪霊に魂を奪われやすいと信じられており、悪霊から嬰兒の魂を守る為に出産後はジール（地炉）と呼ばれる囲炉裏に火を焚き、悪霊が現れることの多い夜には毎晩「夜伽」といつて親戚の女性が番をしたりしました。

池原では嬰兒の命を護るようになつた由来について、次のような話を伝えています。

① クスケー由来

島袋ウシ（明治四十二年十二月五日生）

（方言原話）

「鼻ひーねー、クスウチユケーヒヤヒヤーりいち、
またんひーねー、メーウチユケーリち、いちえーしー
しーねーやつぱしうマブヤー取りがちよーる人ぬ取
いさんりいちぬ伝えやるばー、うれー。」

（マブヤー取りに来る人がいるわけ）ん、使け！
者さつてい、後生から、後生ぬいやいしちうぬわらば
一ひちーがちゅーるばーて。生まれてい四日ジー
ルまんぐら、あんしーねー親ぬ、ファーフジーぬ、

だー気にちよーていあんあんし、

「何時ぬいつかーうまんけーわらばー魂い取りが來く
とう、うりが鼻ひーねーいやーやちよーいて、ク
スチユケーヨー、またんひーねー、メーウチユケトリ
ち、あんしーーしーーはんしよー。」

（マブヤー取りに来い）に取いうーさん戻て
い行じよーんりぬ話やたん。うれーなー昔ぬたとえ話。
あんしる今ちきてー。」

（共通語訳）

くしゃみをしたら、クスウチユケーヒヤヒヤーとい
うでしょ。またもくしゃみしたら、今度はメーウチ
ユケーという。これは魂をとりに来た人は、そう言う
と取れないと言う伝えなんだ。

（魂を取りに来る人がいるわけ）そう、後生からの
使者がいて、その子供の命を取りにきているんだよ。

生まれて四日目ぐらいにね。そんなわけで、親や祖母
が氣をつけていて、

「何月何日にこの子の魂を取りに来るはずだから、こ
の子がくしゃみをしたらあなたは氣をつけておいて、
目にことをいう。」

たらメーウチユケーと言ふんだよ』
と。そうすると取れないから。そして使者は魂を取れ
なくて戻って行ったという話だよ。昔からのたとえ話。
今につけてもタシヤミをしたら言うでしょう。

② クスケー由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原話）

昔てー山原んかいよー、でーじな大金持ぬ夫婦ぬ
うてーるばーてーやー。あんさーに、うまぬ大金持で
いしょー、友達や子ん達ん多く産すしが、自分や長
えないしが産ちえーねーらん。『くれー、かんしー
ならん』でいやーにてー、「かんし、金おまんどいた
んてーん、子ぬうらんだれー何ん入用ねーんでい言や
ーに、家や飛び立ち那覇かい辻かいはちよーるばー。」

うぬ年に、うぬ女おかさぎとーーるむーわから
な。さくどう、辻にいりくまでい。なー、十ヶ月なた
ぐどう、子ぬ生まつたるばー。あんし嫡子ぬ生まつた
ぐどう、くぬあまからぬ使ぬてー、ちゅー兄弟から那覇
んかい、すぐ行じやーに、

『ぼーじやー生ちえーんどー。嫡子ぼーじやーぬ生ち

*3 四日ジール ジールとは出産後一週間、

星、夜の区別なく、火をたき座敷に暖を取
らせた炉。保温の他に穢れを清める信仰も
あつて要でも盛んに火をいた。その四日

*4 辻 現在の那覇、辻には遊郭があった。
遊郭の遊女は、ジュリと呼ばれた。ここで

はその辻の遊郭の遊女をいう。ジュリは三
線を弾き歌を歌い、踊りする芸者をもかね
でいる。



えーんどー！」

でい言ちやぐどうてー、うぬ、男あ、じこーいりき

さーに、なー、うぬ、何んでいん言んよーい、すぐ、

飛びじーしぇーぎさんよーやー。家かい。うぬ、男ん、

そーやーとーまんじゅん。さくとう、うぬ、ジユリぐ

わーや、買い物しーが行じよーるばーんかい、ぬんで

いん言んよーいーはつちやぐどう、ショック受きやー

に、うぬ、女お死じよーるばーてーやー、ジユリぐわ

いや。

さくとう、家かい来るばーてー。あんさくとう、

四日ジールーぬ日にあたいでー祝儀大明日すんで

いちそーるばーに、

「どー、いやー妻え、モーサーられ、歌さーんやく

とー、うり連てー来舞らさんなー」

でいちさくとー。明日四日ジールーどーでいるばー、

山原から歩ちちよーるちむえーーー。あんくとう、嘉

手納ぬ比謝征うとーでいよ、うぬ、な、ゆづくいーが

ーーーなたぐどう、うまうでー、はい、ちやでーーー

うぬ、女ぬマジムンなー。しちやぐどう、はつちやが

たぐどう、くぬ、男ぬでー、

「わんねー今日や、かんし、かんかんやんどー。あん

すとー」

「うんじょー情ねーみそーらんや、わんねーうつちや

んげー、うりしち、あんし、尋てーいわんねーにつ

たんかい行ちるばーどうやんどーやー」

「ん。あんやんなー、なーな、私が悪つさたんどー」

ちゅぬ男言ちよーしが、なー、とうるばてーよー、

うぬ女お。だー、何でいん言んよーい飛ん出とーしえ

ーや、ショック受きてーどう死じやつき。さくとう、

うりやたんでー。

「いやーや、あんしぇー、今日やわつたーんかい連て

い行く、あんしぇー祝儀さーやー」

でいち、

「おー」

んち、うりからなー納得し、橋ぬ前うでー、

「あんしぇー、いやーや、天川ぬ歌覚びとーみー」

言ちえーぎさぐどう

「覚びとーん」

んでー。うまうでー、天川あびらちえーるばーてー、

比謝征うとーでい。あんさぐとう、うまー天川ちち

よーしー、なまやてーんあるはじどー。うりから

なー、夜明きがたなたぐどう、うまから山原んかい、

また歩ち、一人ぐーみー歩ち行じやぐとう、あまん

じ、ゆづきいーるばーてーやー。山原じゅーぬ島んと

うー。あんし、あまんじゆづくいたぐどうなー、皆う

客ぬちやーうほーくめんそーやーに、な、三線彈ちえ

ーんかい始まとーるちむえーんばー。さくとう、う

ぬ、三線彈ちえー始まとーぐとう、くぬ、うしーま

るー舞いさくとう、ジユリぐわーぬ番ぬちよーるちむ

えーやるばーーー。さくとう、

「いや、舞いぐわーなえーきにー」

でいち、くぬジユリぐわーんかい言ちやぐどう、

「舞いないびん」

でいやぐどう、舞で一ぎさんて一やーやーくぬク
チヤンかい聞きとる子なさーが筋ぬみーみーうり見

ちやぐどうなー、上ベーあしが足ねーらん、下あね
ーらんばー。あんすくどうなー、うりからどうまんき
とるばー、くぬ、女お。『うれーマジムなどうやる』

でいやーに。さくどう、妻ぬ、
「とー、うんじよー、うまんかいう二ンセーたーあび
一やーにどうふえー墓持つち左ねー梅りんでい」

でいるばーてー。

「七・五・二梅りんでい」
でいやーに梅らさーに、子なさーカユイかい下ぎらち、
さくどう、うぬ、男あーなー、「リンチどうやる」で

い思うむどーるばーてー。だー、ジュリどー速ていち
えーぐどう。さくどう、あとーなーよー、ちむんしぬ
ばらん、ちやひんあびで一ぎさくどう、

【大米】
んち、夫呼ばちえーぎさくどうてー、
「ぬーん、なーやあり、人どうやんなー」

でいやぐどう、だー、「人どうやんなー」でいねー、
リンチどう思うどーしょーやー、

「あれー人おあらんどー。とーとー、なー一回舞いる
ばーに見ちんちー」

でいやぐどう。また舞らちやぐどう、見ちやぐど
う、いんねーすんねー、下あねーらん、上ベーありさ
ぐどう、うりからどうまんぐいとーるちむえーやるば
してーやー。どうまんぐいたぐどう、

【マジムン】でいしょーー、萬ぬ歌たれー逃んぎてい
【今日ぬ生まりとーい、今ぬ生まりてイ祝儀しょーー、

はいくどう、行ちゅぐどう
でいやーに、

「たーがらー人や、フルぬはたんじ、クバ扇ーち持
つち行じやーバタバターさーにてー。ケッケレーケー

し歌らちちえーるばー。難ぬ歌いねー逃んぎて行ち
ゆくどうでいやーに。難ぬ歌たぐどう、くれー、

「わんねー行ちやびらやーさー」
うまから出じーたんでい。オトーやまた、

「いやーや、なーや必なーじ、あり、追でい行き
んちやぐどう、

【あ、恐どうるさぬ】
でいやぐどう、

「んーん。マジムンでいしょー、かんし、んかれーか
らー、後んかいとうんけーてー見んだんくどうでー、
ちやーんねーん】

でいやぐどう。いんねーすんね行ち入ーたんり、ジュ
リ墓んかい入ちはいたんでいよー。あんし、うまんか
い行ち入しなー、ちやー見じやるばーてー。あんすく
どう、

【くまあきり、墓あきり】
んでいやぐどう、

【んーんーんー。あきらん。いやーや、今日ぬ、くね
ーからー、につかからくまんかい来しょー、いーあ
きらんさ】

【あんし、ちやーし、わんねー、うりさびーが】
でいやぐどう、

*6マジムン 雨雲や妖怪のこと。
*7どうふえー 十尋のこと。尋は水深や網
の長さを計る単位。一尋は約一メートル
八十三センチ。

行じえーる子供魂取てい来わる、くぬ墓んかいあきて
い入りーる

「あんし、うれし、ちやーしえー取らすが」

「いや、あぬ、わらばー鼻くじいてー、鼻くじいてー、
はなひらち。あんし、ならんあれー、ハンドウーか

いや毒入でー、あんしえー、うりさーに空息しみり」

でいちょーるちむえーるばーてー。あんさぐどう、
うり聞ちやーに、うり、戻いたんでー。くぬ、ジユレ

ー。うれーなー、はーえーなーにちやーに、
「かんから、かんなとーしがてー、ちやーしえーまし
やが」

んちやぐどう、

「むる、あわていんなー
くぬ、子なさーアンマーがてー

「くぬわらばーや鼻ひーるはじやぐどう、クスクエ
ー、一回んひーねー、メークエーんでーいりー」

んでいち。マジムンぬどく鼻あくじとーぐどう、鼻ひ
ーしょーあたいめーやぐどう、

「クスケー、メークエー」

でいち、し。また、うりから、くぬわらばーが引きつ
けすたんでいやーによ、あぬ、

「水持ちくーよーさーに、茶碗ぐわーんかい、本人で
いちてー、フイみかち飲ましんでー」

言ちよーるばーてーやー、あぬ女ぬ。あんし、茶碗ぐ
わーんかい水持ちつち、「フイ」みかちさくとう、う

れー毒お消えとーるちむえーやしえーや。さくどう、
うまー四日ジールーやくどう、夜明きどうーしーなた
るばー。

うぬ、伝えぬあていどう、なまぬ、夜明きどうーし
ーでいしえー、うにーぬ、伝え話やるばーどうやしが。
えらりーしが、なー、うりやるばーてー。

うりが、なー、本當やみ、あらでいしえー、くれー、
考え問題ややえすしがや、あてーんでいぬくどうん考
えらりーしが、なー、うりやるばーてー。

あんさー、うりから、シチグサンでいしやていん,
くれー悪風返し。うりから、夜明きーどうーしー、ユ
ートウギ、四日ジールーでいしえー、うぬーから、な
とーんどー。

〔共通語訳〕

昔ね山原にたいそ大金持の夫婦がいたらしい。

友達などは子ども達もたくさんいるが、金持ちの夫婦
は結婚して長いが子供にめぐまれなかつた。「これで
はいけないな」と思ひ、「このように金がたくさんあ
つても子どもがいなければ何の価値があろうか」と言
つて家を飛び出して那覇の辻に行つた。その年に妻は
妊娠していたが夫はしらないで、辻にいりびたり続け
ていた。それから十ヶ月経ち子どもが生まれた。娘子
が生まれたので親族が山原から那覇へすぐに知らせに
行つた。

「子供が生まれたよ。娘子ができるよ」

と伝えるとその男は、たいそう喜んでジュリには何も
言わずに知らせにきた者とすぐ飛び出して家へと向か
つた。ジュリぐわーは買ひ物に出かけたたらしく、

* 8ハンドウ 半胸 水がめ。炊事用・飲
料用の水をいれておく、口の大きいかめ。
* 9クスクエー 食食らえと言う意味。魔物
を追い払う力を持っているという。今でも、
クシヤミすると「クスケー」という。

何も言わずに帰られたことにすごいショックを受けて

その女は死んでしまったそうだね。

家に着くと、明日が四日ジールーの日にあたつてい
るらしく、大きい祝儀を行おうとその準備で忙しそう
にしていた。

「ねえ、あなたの妻（那覇に残してきたジュリのこと）
は踊り手で歌も歌えるので、その女を連れて来て祝い
の場を盛り上げさせてはくれないか」

といわれたので、明日が四日ジールーという日に山原
から那覇に向かっていた。すると嘉手納の比謝橋で、
日が暮れようとしている頃、マジムンになつたジュリ
と出会つた。男は、

「私はね、今日は子供の四日ジールーの祝いのために
あなたに御願いに行こうとしていたところだよ」

「あなたは情もないんですね、私置いてきぼりにし
て帰られるなんて。私はあなたを尋ねて行くところだ
つたんですよ」

と、このジュリぐわーが言われたらしいさ。

「ああ、そうか。それは私が悪かったよ」
と男が謝つたらしいが、その女はぼんやりしていた。
ほら、何も言わないで飛んで家に帰られたので、ジュ
リぐわーはショックを受けて死んでいるわけだから。
それで、様子がおかしかつたわけさ。

「それなら、今日はあなたを私の家に連れて行き、一
緒にお祝いをしようね」

「はい」というと

と納得してくれた。出会つたのが比謝橋の前だったの
で、

「あなたは天川の歌覚えていますか」

と訊ねてみると

「覚えていますよ」

と答えたのでそこで天川の歌を歌わしてみた。比謝橋

*10左脚 普通の繩は右に縫つて釣うが、左
に縫つて釣つた繩。七五三に飾られる繩は
清浄な区域を示すために張るとともに、魔
除としての威力を持つとされる。産室に左
繩で張り巡らしてあると、ヤナムンはそこ
に入ることができない。

で。だからそこは天川という名前がついているでしょ
う。今もあるはずだよ。そんなことをしているうち
に、夜明け前になつたので、そこからまた山原に向か
つて歩き始めた。二人一緒に歩いて山原に着く頃には
日が暮れていた。山原の男の家ではお客様がたくさん
お見えになつていて、もう、三線を弾いたりしてい
ぎやかに祝いが始まっていた。そうやつて、三線も弾
き始まり、一人ずつ順番に踊り始めていた。そして、
ジュリぐわーの番になつたんでしょう。すると、
「あなたは踊ることができるでしょ」
と、このジュリグワードに言うと、

「踊れます」

と言ひ踊り始めたようだね。するとクチャヤに隠れてい
る妊婦が筋穴からその様子を見ると、体の上はあるが
足がない、下半身がない。それをみた妊婦は、びく
りして大変なことになつてしまつたとおちつかない。
「この女はマジムンにちがいない」と思い、そこで妻
は夫に、

「ねえ、あなたは、そこに来ている青年達に声をかけ
て十尋の藤繩を持ってきて左繩を縛ってくれるよう
に頼んでください」

と言った。

「七五三綱つてほしい」

と御願いして御つてもらひ、子どものいるクシャの廊下に下げさせた。しかし、夫は妻が『嫉妬しているな』

と思っているわけね。ほら、ジュリを連れてきている

わけだから。だが、妻はしまいにはいてもたつてもいられなくなつて、大きな声で、

「あなたちよつと来て」

と、夫を呼ばせたらしいさ。

「ねえ、あなたはあの方が人間だと思いますか？」

と聞くので、夫は『なんてことをいうのかな。嫉妬しているな』と思っているわけだから。

「あの方は人間ではないよ。さあさあ、もう一回踊るとき見て『こらん』

といわれた。ジュリがまた踊つたので見てみると、妻の言うとおりに、下が見えなくて上半身だけ見えたの

で、それから、びっくりしているわけさあね、びくくりして。

「マジムン」というのはね、鶴の鳴き声を聞くと朝が来たと思いつけていくというので、誰か一人フールのほうでクバ扇を二つ持つて行つてバタバタさせて「ケ

ッケレーケー」と鳴き声をさせなさい

といった。鶴の鳴き声を聞くとマジムンは逃げるといふことだからということで、鶴の鳴き声がしたので、

ジュリは、「私は帰りましょねえ」と言いそこの家から出たそうです。妻が、

「あなたは必ずあの方を追いかけて行ってみてください」と言うと、

「なんと恐ろしいことだ」

と言つたが、

「大丈夫。マジムンというのは行き先だけをみて、けつして後ろを振り返ることはないから大丈夫」

と（妻が）言うので後をついて行つた。すると、なるほどジュリぐわーはジュリ墓に入つていつたらしい

さ。その様子をずっとみていたら、

「ここを開けてください。墓を開けてください」と（ジュリが）声をかけると、墓の中から

「いいえ、開けることは出来ません。こんなに遅く帰る者は入れません。」

「それなら、私はどうすればいいのですか」と訊ねると

「そうはいつても、その子供の魂をどうやつて取つてくればいいのですか」

と聞くと、

「あなたが、あの、子供の鼻をくすぐつてクシャミをさせればいい。もしそれでだめならハンドウーに毒を入れて窒息させなさい」と

といわれたので、ジュリはすぐに戻つた。そのやり取りを聞いていた夫もすぐさま家に戻つて妻に

「これこれしかじかだったが、どうすればいいだろうか」というと、

「全然心配はいりませんよ」

と（妻は）答えた。

「この子どもはクシャミをするはずだからクスケー（糞喰え）、一回クシャミをしたら、メークエー（糞喰え）

と（妻は）答えた。

「この子どもはクシャミをするはずだからクスケー（糞喰え）、一回クシャミをしたら、メークエー（糞喰え）

と（妻は）答えた。

シヤミをするのは当たり前だから、

「クスケー、メークエー」

と言ひなさい。そうして、また、この子どもが引き付けておこしたらいいさ。すると、すぐ、

「水を持ってきてください。茶碗に水を入れてきて、

フイと息をかけてから飲ませなさい」

と妊婦さんがいうので、茶碗に水を持ってきて「フイ

と息をかけて飲ました。「フイ」と息をかけると毒返

しの意味だから。そこは四日ジールーだから、夜明けまで駆け走っていたわけ。

その伝え話があつてから、四日ジールーは夜明けまで夜通し行うよ。だが、これがもう本当かどうかと

言うと、それは考え問題ではあるんだが。でも、あつたということを考えられることだから……。

それから、その、左綱で紡った七・五・三・は悪風返し。それから、夜明け通し夜御、四日ジールーもその時から始まつた。

(4) 産後四日目

① ユッカジール・産後の栄養

池原において子供が生まれ四日目になると、家族、親戚で「クムイヒラシーガ」と言って、ターゲムイの

本を抜き、ターハイユを捕りお汁にして妊婦にあげた。

多分に滋養をつけさせるためであつただろう。

* 11 ターハイユ 賢田にいる魚のこと。

* 12 七五三の注連縄 葉縄を左縄に下げたらしたも

の。悪霊を追い払う魔よけの意味が強い。

* 13 ジールも片付け 子どもが生まれると産婦の体をジールと呼ばれる圍炉裏に火を焚いて暖めるが、六日目にそれを止めること。

* 14 六日目 満月祝いともいう。子どもが生まれて六日目や地域によっては七日目の夜に親類縁者近所を招いて母子の健康を祝う祝宴のこと。

(5) 産後六日目

① ジールシンキ

産後六日目（ルクニチマンサン）を基準に産室の七

五三の注連縄をはずし、ジールも片付け、産婦が産室から出る忌み上げのことだが、妊婦と子供の健康状態によつて異なつていた。

② 六日マンサン（ルクニチマンサン）

島村善幸（昭和七年十一月二十日生）

子供が生まれて六日目に家族でご馳走を作つて滋養をつけた。村の人たちも祝いにきた。

その意味だから。そこは四日ジールーだから、夜明けまで駆け走っていたわけ。

その伝え話があつてから、四日ジールーは夜明けまで夜通し行うよ。だが、これがもう本当かどうかと

言うと、それは考え問題ではあるんだが。でも、あつたということを考えられることだから……。

それから、その、左綱で紡った七・五・三・は悪風返し。それから、夜明け通し夜御、四日ジールーもその時から始まつた。

（6）命名

シェーゲワー（バッタ）を子供の鼻からはわして飛ばした。ナージキ草（芝生の中にある草）をおいた。

名づけの儀式

平安晋徳（昭和四年六月十一日生）

おばあさんがカカンを被り子供を抱いて庭に出てミージョーキーを立て、クワーキーの木の皮を剥いで弓を作り、弓で矢を射つてミージョーキーに当たった。ナージキ草（オヒシバ）をヘラですき返し子供の名前を呼んで健康、クエーブー成長を願ったという。

（7）出産祝い歌

出産祝歌

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

ユラミワチソジティ

タマグガニスクティ

ヌチヌウエ（母ヌウユエ）命のお祝い

子供をすくい上げて

お腹から出で

光を拝んで

（方言原話）

仲里マスイ

（明治二十五年三月十日生）

（2）火の神

（8）ムラへの子供が産まれた報告

子供が生まれると、子供の誕生を村の方々が一同に集まる十五夜行事に自治会長が報告を行う。池原にお

いて区民の祝福を受ける加入儀礼である。地域の人たちが子供達を大切に育てたいと言う気持ちである。

（9）ンバギー

①ンバギー

栄野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

今年、産まれた子供はみんな九月九日になると、ンバギーをバーキのいっぱい、豆腐やいろんなご馳走を入れて持つて行って、イーグラントード、それぞの親戚は車座になつてそこでお供えしてから、「今年子供がうまれましたよ」と報告してから、そこでウサンデーを食べていた。そこはとてもお金持ちで、倉も大きいのがあった。

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

アカサミウガディ

命のお祝い

子供をすくい上げて

（方言原話）

仲里マスイ（明治二十五年三月十日生）

家ぬすつよーぬ神様でいち、子ぬ生まりろわん

バギーしきい、また、一日十五日ん、ちよーる、うまぬ家庭ぬ守い神でい言ちよーるばーどうやんどー。
火ぬ神加那志んでいしょー。うまぬ家庭ぬ守える神やみしぇーん、あれー、火ぬ神でいしょー。

〔共通語訳〕

火の神というのは、家の必要な神様といつて、子

供が生まれたら火の神にンバギーをお供えするし、一日、十五日にお祈りするのは、そこ家庭の守り神だからなんだよ。その家の守り神を守つて下さる守り神。火ぬ

* 15 カカン 札袋時に女子がはく一種の腰巻。上には胸衣を着る。

* 16 ミージョーキー 箕の一種。竹で編んで作つたもので、米や麦などを振り分けるもの。

* 17 クワーキーの木 桑の木のこと。

* 18 弓で矢を 矢は桑の木で作り、矢は竹で作つた。「奄美では、赤子が誕生すると神がその寿命を定めた弓矢をさすといわれていた。それで神の寿命決定よりも先に百歳・万歳の矢をさしたという」沖縄においてもかつては、そのような意味をもつて行なわれたのであると思われる。

* 19 クエーブー 食べ物に不自由しない運後園では、その日の日は穀穀の人がカットイと呼ばれている人によって名前がつけられた。

* 20 ヌンバギー 出産祝いに出す飯のことだが、ここでは子供が生まれた報告をするときにはンバギーもお供えして祈りをしたことに意味する。

* 21 ウサンデー ご先祖にお供えしたご馳走をお下げしていただいくこと。

* 22 火ぬ神加那志 火の神様のこと。加那志は尊敬の接頭語。

神加那志というの、その家庭を守つて下さる神様のことを言つたよ、火の神といふのは。

(10) 土の神

島袋シズ（明治四十二年十二月二十日生）

あれはね、小さい赤ちゃんなんかね、あの何かあれする人もいるんでしよう。まだ何もつけないそのまま流す人がいるでしようね、赤ちゃんなんか。そういう人をする時には、そのムイの神と言つてね、その人が育てるつて。だから、そのムイの神にお願いしないといけないわけって。

「預かってもう極楽させて下さいって。」

その土の神つていうさ。やっぱ墓は土に築るでしょ。だから、ムイという人はやっぱ、山の所は、だから、ムイというでしよう。山の所に造るから。そうしてさあ土の神、ムイの神というさ、願うさあ。

2 婚姻

二ービチ由来

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

昔で一で一じな大金持ぬ女ぐん子ぬよー、なーけんだーやでーるばーてー。三十余年までいん夫持たなよー。さくどう、またなー箇所ぬ大金持また、うりん、なー二十五どうないしがてー、必じうりとう妻す

んでいちよーるばーてー、二十五なやーと。さくど

う、親んちやーが決みたくと、くぬ女お、うふえー不合点ぬんやたるはじどー。さくとう、明日、明後日二

一ビチすんどーでいちさぐと、くぬ、二ービチぬ、杵さーに樋うつたつちゅしえーやー。

シーチラチャイ シーチラチャイ

サンジュードーウティ ワカウトウムツチャン

アンシン ウッサル

ユナガタ ウルスル

ヌナガタ ダチクミ

スリ サッサイ

でいちよー。あんさーにてー、さくとう、くぬ二ービチぬ日になたぐと、くれ、逃きていいはちよーるばー

や、女お。あんさぐと、うりから、うりがや、探め

ーいがたつちよーし、山んかい行じ、そーし、引っ張

つてい行じ連でい行じやぐと、連でい行かんでいち

てー、引っ張やーによ、くぬ、木ぬ根よー、二人し掴

とーぐと、くぬ根しーでーひつ壊ちちえーるばー

てー。二人し引っ張たぐと。あんさぐと、うにーからどう、二ービチんでいるばーてーやー。根こーし

いやしえーや。二ービチ。

また、うりからてーうぬ親ぬ、二ービチぬ日にてー、「くれー、何んしみてーねーのあいえーすしが、うんじゅなーが妻しみしえーらー二ーデービル」

やしがまた親ぬてー。

一節時期忘んなよー。作くるむじくいや忘んなよー

* 23節時期 折目の事。神仏に関する節季の祝日や収穫祭、行事。

一しがてー、

「敷居えーくらみんなよー、敷居えーくらみんなよー」

でーい聞ちよーしが、思むどーるばー、親のー

「作るむじゅくいぬやー、節時期忘んなよー」

でいちえーしが、

「敷居えーくらみんなよー、敷居えーくらみんなよー」

でい。うぬ、りーぬ今残くどーちむえーやるばーてー。

あんざぐどう、うまでー、

「敷居えーくらみんなよー、敷居えーくらみんなよー」

でいしえーあらんばー。本当のー

「作るむじゅくいぬ節じちえー忘してーならんどーやー」

でいる意味えーどうやしが、

「節えーくらみんなよー、節えー忘してーならんどー」

でいしえー、

「敷居えーくらみんなよー」

でい言ちえーるくとうかい解釈さるばー、くぬ、

夫持ち行ちゆる人。あんし、今んちやー、

「敷居えーくらみんなよー」

でい言はるはじどー、今やていん。

(共通語訳)

昔、大金持の娘がいて、誇り高かった。三十歳を越すと言うのに結婚しないでいた。すると、もう一箇所の大金持に二十五歳になる男がいたが、この人が必ず、

あの金持の娘を嫁にしたいと思っていた。三十五歳になる女と。それで、親同士が二人を結婚させることに決めたので、その娘は少し不満だったんだろうな、明日、

明後日二ーピチだよというときに杵で桶を掲きながら

シーチッチャイ シーチッチャイ

サンジューイーウティ ワカウトウムフチヤン

アンシン ウッサル

ユナガタ ウルスル

ユナガタ ダチクミ

スリ サッサイ

と歌つた。ニーピチの日に女は逃げていなくなつた。

そうしてもんだから、夫になる男が探しにいった。山に逃げ込んでいたのを連れもどそうと思つて引っ張つたら、女が木にしがみついていたので女を強く引っ張つた拍子に木の根っこまで抜けてしまった。一人で引っ張つたので、それで、そのときからニーピチというようになつた。根」と引き抜いたのでね、ニーピチ。

また、それから女の親がニーピチの日に、

「娘は何もできませんが、あなたがたが、嫁として迎えてくださるのであればありがとうございます」

また親が、

「節日は忘れるなよ。作物の豊作を願うことを忘れるなよ」

と言つたら、娘は聞いてはいたのだが、

「敷居は踏むなよ、敷居は踏むなよ」

と言つていると聞き違いした。親は、

「作物の節日は忘れるなよ」

といわれているのだが、

「敷居は踏むなよ、敷居は踏むなよ」

と受け取つた。今も嫁入りには敷居を踏むなという風習が残つてゐる。

だから、そこなんだよ。

「敷居は踏むなよ、敷居は踏むなよ」

という意味では言つてないわけ。本当の意味合いは

「作物を作る時期を忘れてはいけないよ」

という意味なんだが、

「敷居は踏むなよ」

という意味で受け取つたんだね、娘は。だから今でも、

嫁入りには、「敷居は踏むなよ」

ということが言わされているはずだよ。

3 米寿

① 米寿由来

盛島五郎（明治三十九年十一月十日生）

（方言原話）

昔はまあ、ちょうどあんたが今、話するぐどうやー、十八までいぬ、せいぜいやんでいるちむえーやはがやー、あんしえならんでいちょー、この八十八でいしぇー、この意見口説えやー、本当ぬ、昔ぬ政治家ぬ作らつとーるばー。意見口説りちあんしえー、あまぬ世ぬ別れ歌、意見口説。口説よー口説口説羅子ぬあしまーやー、意見口説ぬ話い。

くぬ昔え、十八んりーしぇーちょうど八方ぬふさがり、八方ぬふさがりやるばーー。やな世ぬふしかみて

い生まりたる八方ぬふさがり。あんしる八、九や神ぬ生き

まりんでいるばー、八、九や神ぬ生き。あんなやーに八方ぬふさがりんちーるちむえーやるばー。

* 24ホー・シ立て 竹を斜めに切つた斗搔きこと。

やしが、くぬ八月八日ぬ八十九ぬトーカチえーや、皆神願けーやん。老つ人ふるつ人、必ず八十九才まではね、命は欲しいからんりちどう、トーカチかきらい、ボーし立てーるちむえーやるばーるやんど

ー。ちむえーや。あんしる八十九ぬトーカチぬ話やうりんかいあるばー。

まーやていんあやかーいや八月八日えトーカチ。祝

んちあしえーや、まーぬ國ん。早こー、世ぬ始まいや

十八ぬうていゆくる死人がまんどーたんり。あんしる

生まりろー一年でいちやるい言葉ぬあやーにや、「あ

んうれーかんしみてーならん」やーに、「命え長げー

ん見じゅしえーましやぐどうりち、八十九までーやー」

りち、トーカキ祝でいち、あれ一本當、トーカチかきら

つとーしえーやー、トーカチ立てーせー米んかい。う

ぬ意味えーしる、八月八日えー……。

（共通語訳）

昔はね、ちょうどあなたが今話すように、十八才くらいまでしかせいぜい生きられなかつたそうだよ。でも、こうしてはいけないと、この八十九歳というのは、この意見口説は、昔の政治家が作られたそだよ。意見口説とあるでしよう、あの世の別れ歌、口説、口説といつて口節羅子があるでしよう。これは意見口説の話だよ。

その昔、十八才というのはちょうど八方ぬふさがり、そう言われていた。悪世の星を背負つて生まれた八方のふさがりとある。だから、八、九というのは、神の

生まれだと言われる。だから八方のふさがりといつて
いる意味なんだ。

だが、この八月八日のトーカチは、みんな神に願い
をかけることである。生きているもの、老いも若きも
全ての人が、必ず八十八才までは命が欲しいと願う。
それでトーカチ祝いには竹の棒を立ててするんだよ。
意味はそうなんだ。それで、トーカチの由来の話が残
っているわけだよ。

どこの地域でも、八月八日のトーカチ祝はあるでし
ょ。長寿をあやかるといってね。また、どこの国で
も、世の始まり頃は十八才くらいで死ぬ人が多かつた
そうだ。だから生まれるとすぐ一才という言葉もある。
「早死にさせてはいけない」といつて、「命は長いほう
がいい。八十八才まではね」ということで、トーカチ
祝いといって、八十八才までと願いトーカチ祝をする。
お米に竹のトーカチを立ててお願いする。その意味で
八月八日は祝いをする。

(2) 米寿祝いの歌

島袋新栄(明治三十二年七月十四日生)

米ぬ高ひらん やしやしどう登てい
八月ぬ八日や 米ぬ御祝い
雪かみて 松ぬ春にうちかんてい

緑咲ちふくてい 千代ぬ栄え
米ぬ若松に千代ぬ糸かきて
カジマヤにちなじ百歳御願

4 ユイ

池原においては、出産祝いや結婚式などのある家では、しばらくの間、畠仕事や、家畜の世話ができない
ので、だれから声かけがあるわけではないが、親戚
や、隣近所のひとたちが加勢にやつてきて、家族の代
わりに仕事をする「ゆい」と言う思いやりの慣習が
あつた。祝のときなどは、それぞれ得意とするもの
が分業化されて効率よく仕事が進められていった。こ
れを池原では「仕事ヌクバイ」と称していた。

5 葬送

死を境に生靈と死靈の住むべき場所が異なるので
様々な儀礼が行われました。

(1) イリマツクワ

「亡くなつた人をイリマツクワ（頭を西に向かせ寝か
すこと）」するのは、その昔、亡くなつた人が生き返つ
たことがあつたので、それに由来するものである。

(2) 葬式

佐渡山安光(昭和二十三年六月二十八日生)

葬式は班ごとで役割分担していたので、最後にガン
を使用した人も班ごとに異なる。

七班で最後にダビウケイした人は、屋号カナグシ

クグワードのお爺さんで、一九五九年頃かと思われる。

そのときにガンを担いだ人は、屋号タルクラントーの島袋勇信他三人と、担ぐ人を支える人一人がいた。

八班で最後に、ダビウクイした人は、屋号イリカージヨーグワードのおじいさんで、一九四八年頃と思われる。

担いだ人は、マシクラントーの島袋善幸さん、クシクリントーの島袋善喜、カマーカージヨーの島袋賀一さんと島袋善文であった。

ダビの行列の順序は、トゥングエームフチャード、チヨーサージムツチャード（名前の書かれた白い旗）、ガン、泣き女（三人、四人、泣き女は着物を被っているので、その女性を支える人もいたという。）タンバクムツチヤーは（一人）であった。

（3）池原のガン

① 池原のガン

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原のガンは首里城からのお下がりという話があつた。ガンは重たくて損ぐのが大変なので切った。それでも重いので二度切った目方も重さ三百斤くらいあつた。

② ガンヤー

仲村勇清（大正十四年五月十五日生）

今あるガンヤーは最初（戦前）はイリヌサチと云う

地名のところにあり、地名から察すると集落のはずれで物寂しい場所にあつたかと思われるが、人家が作られるようになつてきないので、今の地に移つたのではなかと思う。

※「民俗地図」（8ページ）参照。
※26ガン 遺体を納めた棺箱を墓まで運ぶ朱塗りの兜。

*27泣き女 泣く人が多いほど、惜しまれた人物だと言うことで、泣く人は喜ばれた。泣くのが上手な人は、稱まれてくるともあつたという。

③ ガンに最後に乗つた人

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

ガン（コー）を仕立てたとき（大嶺のオトー）が作り、敏子先生が色を塗っていた。喜友名美咲子が五、六年生の頃（たつたと思う）に道ジユニーをした。戦後、後にガンに乗つたのはマチサのおばあさんである。

（4）葬式の厄払い

① 屋敷を清める儀式（カーウリー）

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

葬式が終わると、その家人は川（メヌカ）に行き、竹で作ったアーチの門をくぐりぬけてから、家に帰つた。この世とあの世の境界と言ふ意味があるのだろう。帰るときに川の水を流れとは逆に汲み、砂を持ち帰り家に着くと、悪霊払いとして、水はゲーンでまき、砂は庭に撒き清めた。

また、ナタやカマをもち、「アリヨー、アリヨー」と言葉を発しながら家や戸をたたいた。

一般の家においては、門^{アガ}の前に灰で線を引き（魔物が入つてこないよう）、門の入り口に塩水の入った容器にサンを入れておき、それで体を清めてから家に入つた。葬式から帰ってきた人はそのサンを自分の体の後ろ、肩の左右に振りかざし、魔物を追つぱらつた。門は家と外との境界として考えられ、神聖な家にヤナムン^{ヤナムン}が入らないようという考え方に基づくものと察せられる。他に、塩を肩の左右、後ろに投げて行う例もある。お払いは門向かいに行う。葬式の日だけ行われた。

（2）葬式の厄払いのとなえ」と

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

「アリヨー、アリヨー」とカマや、包丁を持って、あつちこつち叩きながら家のなかを左回りに三回まわる。死者の靈が残つたり、さまよつたりするのを忌み嫌つたので、それを追い払う儀礼として行っていた。（凶を切り払う意味）

野辺送りからの帰りは来た道を変えていた。

（3）烟へのサン立て

松村喜美子（大正九年九月八日生）

亡くなつた人の出家の煙や田んぼにはサン^{サル}を真ん中に立てた。（かつては、所有しているすべての土

地にさしていた。）その理由は、亡くなつた人が烟に行かないようにするためだという。

サンは、昔、王様が亡くなつたのでサンをたてた。すると、王様が生き返つたと言う。その由来からサンを立てるようになった。

（5）スク墓（ウフヤードウのガマ）

桜井清（大正八年十一月二十日生）

昔の墓場のこと。風葬したところ。風葬所。行き倒れや悪い病氣で亡くなつた人を葬つたところ。

（6）ナンカの始まり

仲里マスイ（明治二十五年二月十日生）

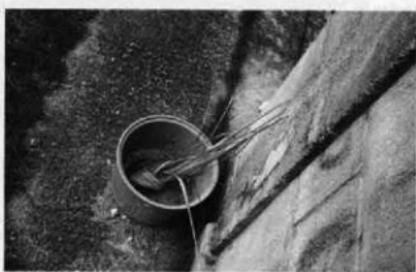
方言原話

昔から亡^{アキラ}し—ね—七日^{ナナヒ}ないね—ナンカでいちあしえ—や。ナンカでいちあしえ。昔ぬくとうやんて。うれ—そくどうがやらし、唯^モがやら—わからのー、あえ—すしが。

け—亡^{アキラ}し、一週間なたくとう、茶あうさぎーがじやぐどうや、墓から出でていちやーにや。

「わねー生きちょーんどー」

でい、あんしきくとう、うにーからどう、一週間ないね—ナンカしーが行かんあいねーや、そくどう亡^{アキラ}しがうらー、生きちがうらーわかるんでいち、一週間ないねー行じ、必なし、墓参しーが行ちゅんどーや



塩水の入った容器とサン

*29門の前に灰で線を引き 門は家と外との境界として考えられた。神聖な家にヤナムン^{ヤナムン}が入らない様にという考え方に基づくものと考えられる。かまどの灰は死靈の進入を防ぐ（沖縄の御禰^{ミコト}ことば語法）。

*30ヤナムン 人にわざわいをもたらす惡靈のこと。悪いムンの意。また、悪者、いやなやつ・悪ふざけをする者などにもいう。

*31サン ススキの葉や米の葉を束ねて先を十字に結んだもの。

*32風葬 遺体を原野・海辺・樹上・台上・洞窟などに置いて自然に解体させる葬法。

一でい。うぬ話や聞ちやん。

二二

人がなくなり一週間になったので、お茶をお供えに行つたら、亡くなつたはずの人が墓から出てきてからにね、

トーメー。灰入れるのがあるでしょう。香炉。これはウコトとも言うしよ、イーハーとも言うんだよ。入れ灰。香炉ぬくとうんかい位牌でいんよ。あれー、トートーメー。わからぬーがうしえー、世ぬ中。イーハー買いがいしょー、トートーメー買いが行か

卷之三

と。だから、そういうことがあってから一週間経って墓に行かないどね、本当に亡くなつたのか、もしかしたら生きているかも知れないからと、一週間の間に必ならず墓参りに行くようになったという。そんな話を聞いた。

(7) トートーメーと位牌

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

方言原話

トートーメーでいしえーあれー、昔からトートーメーで
やしがる、ちよーどうよ、トートーメーでいしえー、
月とうたどうらつとーんでいてー。ありんかい、ト
ートーメーでいしえーや。月んかい、方言えートー
トーメーでいんどー。あれーてー、今ぬ人てー、位牌
買ひがでいがうしえーや。位牌は香炉入り灰、ト
ートーメーと違ひんどー、位牌でいしえー。だから、
今ぬ人お、トートメー買ひがん、位牌買ひがんでい
えーやー。

* 33赤い看板に字が書かれているもの 戒名「死者につける名前」を全文字で記した朱漆札。

い。トートーメーというのはあれは、昔からトートーメーと言つてゐるんだが。トートーメーというのは月にたとえられているという話。月にもトートーメーといううでしよう。方言ではトートーメーというよ。今の人はね、位牌を賣いにといでしよう。位牌は香炉で入り灰のこと。トートーメーとは違うんだよ。位牌はその違いを今的人はわからないで、トートーメー買いくときも、位牌賣いにと言ふでしよう。

赤い看板に字が書かれているもの、あれはトートーメー。灰に入るのがあるでしょう、香炉。これにはウコーとも言うし、位牌とも言うんだよ、入り灰のこと。香炉のことに位牌というんだよ。位牌にはトートーメー。その違いをわからない人がいるさあね世の中には、位牌（入り灰）を買に行くなどと言つて、位牌を買ひに行つて、トートーメーと位牌を同じように考えているが、位牌とトートーメーは違う。

赤い看板に字が書かれているもの、あれは、トト

[2] 年中行事

昔の人々は、幸せや災いなどはすべて神意によるものと信じていました。そのため、神を祭り祈る心が自分たちを幸せにする唯一の方法だと信じ、季節ごとの行事を大切にしてきました。

ところが時代の移り変わりとともに簡素化されたり、行わなくなつたため消えてしまつた行事があります。池原にあつた年中行事と節日の起源について次のような話が伝承されています。

1 節句の始まり

又吉松八（明治二十八年四月八日生）

簡句は具志堅親方名護親方の時代に作られたらしい。「貧乏者や、人の家の雇われている下人は芋ばつ

かり食べたら大変だから一ヶ月一回は節句を作つてご飯をあげよう」といつて、それから簡句を作つたらしい。そういう話を聞いた。

2 池原で行われていた行事

(1) 旧正月

① 若木汲み

若木とは、元旦の朝に汲む水のこと。元旦の朝早く

- ④ 旧正月四日
農家の初ウクシであった。農機具（鍬・籠）をきれいに洗い並べて、ご馳走や酒を供え、一年の豊作を祈願した。

(1) 旧正月

- ③ 旧正月二日
池原村の有志会（初会合）する日である。各家の戸主が一堂に会し、酒宴を催しながら新年の挨拶をかわしていた。

午前五、六時頃子どもたちが泉に若木を汲みに行くが、その際には人に見られないように気をつけた。なぜなら人に見られるとその効力が失なわれると思われているからだ。汲んできたその水はお茶湯を入れて仏壇に供えたり、返りの水としても用いられる。これを「ウビナデイ」とい、「拂で木」、「禊で木」という。

正月の仏壇には、赤、黄、白の三色の紙（アカカビ）の上に花米やお金（ミーフチャージン）を組んで貰いたものを飾つた。

② チータチベー（チータチヌフエー）

桜井清（大正八年十一月二十日生）

戸口でお膳に酒、ミハナ（花米）、ご馳走を置き「今年は〇〇年です。」と祈る。

* 37 花米 神仏に供えるお米のこと。ミハナグミともいう。

* 38 ミーフチャージン ミーは「めだま」、チヤーは「穴のあいている」で、巨玉の様に穴があいたお金のこと。

* 39 戸口 家の一番座の戸口。出入り口のこと。ここに神がいると考えられ、元旦の御願をした。

* 34 具志堅親方 藤温（一六八一年一七六年）のこと。近世の琉球を代表する政治家。

* 35 名護親方 一六六三年一七三四四年。程廟に名護親方とも書かれた。

* 36 「拂で木」「禊で木」は拂からかえつたり、脱皮したりすることを意味し、新しい生命力を得て生まれ変わる再生や若返ることの意味が象徴されている。（若木を飲むと邪気が祓われ、健康で過ごせるという信仰が平安時代からあった。）

(5) 一月七日

「ナンカヌシックイ」で、七草の雑炊を仮壇にお供えする。また、門松を焼却する。

(6) 一月十四日

十四日といつて豚の足を仮壇にお供えする。

* その年の最初に巡ってくる干支(十二支)の日トウシビーにご馳走を仮壇にお供えし健康を祈願する。

(2) 一月

① シマカンカー(二月吉日)

島袋 新栄(明治二十二年七月十四日生)

与那嶺正栄(大正二年一月十日生)

戦前まで^{**}ブーチゲーションとしておとなつていた。牛はカミヤーー牛を選び、ナーカアジマー付近に連れ出し、そこではじめてから屠殺した。牛の血を左綱に塗り門の入り口につるした。又ブシマアジマーに牛の血が置かれていた。左綱を張り巡らす場所はマンクニ（一）小のわたい口(ヒージャー、トーに行くところ)公民館のところ、メーナーカヌそば(イースアシビナーのところ)であった。

昭和十六年頃から家畜がいなくなり、血の代わりに赤いご飯を炊くときに入れるアカゲー(赤い粉)を水に溶かして、それを牛の血の代わりに使つた。

※シマカンカーを行つた場所については下図及び

「民俗地図」(8ページ) 参照。

(2) 池原のシマカンカー

柴野比トヨ(大正六年十月十日生) 知花

(方言原話)

福ん、豆んけー植て、腰体くらふんちよーるーふ

トジーし、腰体くわーしーんでいいやがちーシマカン

カーでいたるばー。あんさー、うにーねー、村ぬス

ー頭んちやーがでー、牛ぬ肉買ていつち、また、牛ぬ

血桶ぬみーなー買ていちやーにて、あんし、墓立派

ぐわー切やーに、左ねーいさーに、うり、自分ぬ

門どうあていてーし、あんし、青竹なげー、牛ぬ血

かんしききていちゅーる房ぐわーや、うまんじ引べー

やーに立ていてー、牛ぬんな骨頸骨でー、うれー、村

はじきぬ入り口んけー、ヤマカンダーンかい結んじ

やーに、村はじさにあまんけーん、くまんけーんあん

し、引っ張たんよー、両方んじ。(なーくまでいど

う村あやる) また、「しまー、村入り口んでいいと

うくる」んじあんし、下ぎて。あんさーに昼間あ、

隣近所ぬ子ん負っぽし行ちめたは、皆。うぬ、子ぬ

たましまいで、うぬ、肉ぐわー食むんで。シマカン

カーかむんで。あまからなーはさでい配給ふくとう、

並らどーてい。あんし、し、シマカンカーでいち

ぬ肉かみーがんち、神アサギんかい行ちめたんよ。

ヤナムン返しんであらんたがやーんでい思むいん。

(共通語訳)

福も豆も植え終わつてから、腰を休めるという意味

合いで、腰休めしながらシマカンカーというのをやつ

* 40 フーチゲーシ 「フーチ」は流行病、伝染病のこと。村に悪いものが入つてこないようにならね。

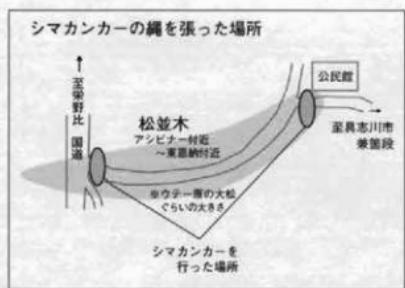
* 42 腰体くらふん 豆蒔きや田植の済んだ

頃、村中が申し合わせて日仕事を休む。

* 43 左ねー 普通の網は右に縫つて胸うがこの網は左に縫つて胸われ、悪靈を退ける祝法として用いる。

* 44 ヤマカンダー 植物名。野生のかずらの意。

シマカンカーの網を張った場所



ていた。その時には、村の総頭の方々は牛の肉と血を桶一杯買ってきた。村の人たちは草を立派に切って、左に納つた網を作り、それを、自分の門とサイズをあわせて、青竹に牛の血をつける房は門で引つ張って立てた。(図①参照)

牛の頭の骨をヤマカンダーに結んで、村はずれの入り口など両方から吊るしていた。「ここまでが村ですよ」また、「ここは、村入り口ですよ」と結んで下げていた。(図②参照)

また、神アシヤギでは、牛の肉が食べるので、隣近所の子供まで負ぶつて行つてたよ皆。その子の分まで牛の肉を食べることができるから。「シマカンカー食べる」と言つてね。神アシヤギで並んでいるとはさんで配給するから。そうやつてシマカンカーといつて「牛の肉食べに」といつて、神アサギに行つたもんだよ。ヤナムンを追い払うと言う意味合いがあつたのではなかと思うんだが。

- (3) アブシバレー
- 天候に恵まれ畠を荒らす虫害もなく豊作にあるよう祈る農作祈願。超自然的な力を頼りにしていた。
*田植えの後に畦の草刈りを行い、虫払いをして豊作を祈願する行事。
- (4) ウマチ一
- ウマチ一とは、王府が日を定めて行わせた祭祀で、稻や麦、粟の豊作祈願をする行事でした。

の五月の初穂儀礼の「五月ウマチー」と、六月に行われる收穫感謝祭の「六月ウマチー」が行われています。

五月・六月ウマチーは知花、池原、松本、登川の共同祭で、門中よりクデイ(神女)が出て、村という共同体の祭を司祭します。

① 池原におけるウマチー行事過程

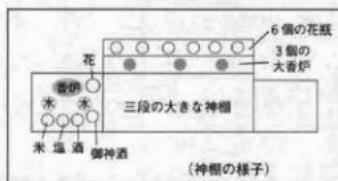
昭和六十年七月二日に観察したウマチー行事の様子を紹介します。

池原において五月ウマチーをグングワチウマチーと称しております、旧暦の五月十五日を行われます。

まず最初に村ヌールの代行として喜友名美咲子さんが、神屋で、これから五月ウマチーを始めるための最初の拌みをします。



(ヌールヤーの周辺)

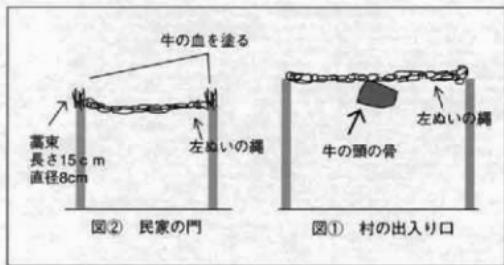


(神棚の様子)

*45 クディ ウクディともいう。一門の中の神に仕える人。

*46 生りん子 精靈高い生まれをしていくこと。ヌルヤウクディ(クディ)の新役の新任もウマリと呼ぶ。

*47 出席者 出席者に聞かれては、区長さんから字の議員の方々や、その年の干支などを計算して決めた人をお願いする。毎年同じメンバーが集まるわけではない。



シマカンカーネットの張り方

その後、知花グシクで神事を終えた人々（ノロ代行者・ウムイシンカ）が神アサギに移動してきます。その際、ウムイシンカの一人は小太鼓を持ったまま移動します。ノロの代行者（池原トシさん）は、ウチナアンシー・村アンシーと呼ばれている。知花ノロ（誠谷村大鷦出身）は戦前に亡くなってしまい、その後後繼者がいないとのことでした。戦前のノロは馬や籠に乗って移動してきたといい、ミツチ（屋号）という人が馬を引く役目を受け持つおりました。

村ヌールが白衣裳・白ハチマキの姿で登場。手にはクバ扇を持っており、総五十七センチ、横八十七センチの小さな筵に座ります。（下の写真参照）また、村ヌール左側に上から青・赤・白の衣裳がたんたんと置かれており、その衣裳はノロが着るものであるが、現在ではその役目をする人。^生まりん子がいません。出席者は次のとおりです。

[池原]

村ヌールの代行者：一人（喜友名美咲子さん）

ウムイシンカ（小太鼓）：二人

ウムイシンカ（小太鼓）：三人

〔知花〕

ウチナアンシー：一人（池原トシさん）

ウムイシンカ：一人

その他の参加者（六人）

神アサギの神事の進行状況は、まず、区長が線香に火をつけて村ヌールに渡し、祠の前に区長と村ヌール

が並んですわり合唱して拌みます。そして区長が酒（泡盛）をついで、村ヌールに渡し区長が酒を二つについて、ウチナアンシーの両手に渡します。ノロから全員に酒をまわし、太鼓を持っているウムイシンカは太鼓の腹に酒をなでつけます。その後御神酒を区長が全員に配り、ヌールの横に置かれている衣裳の前にも供えます。

そして六名のウムイシンカがウムイをうたいます。その間、村ヌールとウチナアンシーは両手を合わせて笑います。ウムイシンカのウムイが終わるとそれぞれ談笑。その後、村ヌールが祠に向かって合掌し、最後に六月ウマチーの申し合わせをして解散します。池原の人々はシーシャヤーに行つて合掌し、五月ウマチーは終了します。

② 五月ウマチー

桜井清（大正八年十一月二十日生）

五月のウマチーで、各家庭を廻って頭が三人、給仕一人、ウミキ一持つて各家庭をまわる。その時に入つてすぐには

クンティイターミー、イチムーナナヤー、

ヒヤークにヒヤークサンバク、

チユタディ タタディ ナタタディ サリ

と言つてお礼して、給仕はオミキをシンメーナーピにお供えて帰りよつた。この言葉の意味がわからない。

村の行政を司る人は区長の上にウヤという今でいう



ノロの使ったゴザとクバ扇

顧問がいて、区長がいて、頭というのがある。村の頭はアシビの衣装や旗頭を預かり、会計もしていた。その下に給仕がいた。上納の紙はトウイグチまで配る役目であった。任期は一年で役員は戸主会で決めた。

③ 御まつり行事の話（六月ウマチー）

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原屋号藏ン當の祖父「故島田蒲助」氏譜によりますと六月十五日のお祭には、西ん地の通称「しるまし地」の稲穂を取ってきて紙アサギの神前にお供えしていましたが、最近「一九〇〇年代」は自分達の田から一握り位の稲穂を取つて来てお供えするようになつてゐたとのことである。

では、この「しるまし地」と呼ばれている田はどの土地なのが尋ねてみましたが、藏ン當の祖父も忘れてしまつたということである。

「私が推察する池原村及び當村」より

④ 五月十四日（ウバソウユミ）

新島キク（大正十年五月二十七日生）

旧暦の五月十四日（カブヤー作り）の時、十四日折目^{ウヨウ}といって、豆腐二切れをシマチクドゥン（屋号）の家に持つて行ってそこで夕食をいただいていた。

ノロのカーブヤーは丁寧につくつた。池原ではカーブヤーといい、知花ではミカーブイといふ。

ノロの通つた道

ウマチーのときにノロが知花から池原の神アシヤギに行く道順は決まつていた。知花ヤーから池ン当通り、カフンジャヤーを渡り、シマチクドゥンから登川のクニシングムイの所を通り川を登つて池原のメーチューダに来た。

⑤ ニーブトウヤー

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

屋号ヤマニーのおじいさん（故島袋仙造）は二一
ブトウヤーであった。

（5）神酒

① ミキについて

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

池原において最後のウンサク（ミキ）を作つたのは、前ヌシリイのおばさん（島袋マスイ：以前の屋号クシントー）さんで、芋（五月）と米（六月）の二種類のミキを作つた。

*48トウイグチ 沖縄市にある小地名である。珍鳥を銅つた人とそこで話に花が咲いたのでこの名があると「美里中学校十周年記念誌」に記されている。

*49カーブヤー 植物名 カニクサのことである。ナマキともいう。その植物で籠のかぶりものを作る。

*50ノロ ヌールともいう。沖縄本島全域で公儀の祭祀を司るために村々に置かれている女の神職をいう。一人のノロで一部落あるいは數箇所の部落を兼ねて置かれていた。51道廟 五月・六月のウマチー行事の際、祭祀を司るノロは知花からやってきた。ノロの通る道は神道と呼ばれるアガリマー・チヨーリムイからムラヤー通り、ヒージヤヌメヌアジマーを通つて神アシヤギに行つたと思われるが、今では、使用されずに、



ウマチー

(6) 綱引き

① 綱引き

新島キク（大正十年五月二十七日生）

ろで引いたが、そこには大きな松の木があり、そこをカニク口といっていた。両方からおばあさんたちが太鼓を打ちながらサーサーサーと掛け声をかけながらカニク口のところで出会い、おばあさんはそれを作った。

* 52二ーフトワヤー ウマチーの時に御酒を注ぐ役割をする男性神職者のこと。二レブトウイは特定の門中から出でたといふ。

綱引きは旧暦六月二十五日の夜九時頃からテーピー

をつけて行つた。（テーピーはウージヌスブイガラで

・藁束は各戸から三束ずつ集めた。

・ワラビツナはシマダキでつくつた。

綱を作る場所

・シクブミーンナ（イースアシビナ）で綱を作つた

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

・綱を持ちブラ・ガク・ドラ・チジンの音で

道ジユネーした。

メープク：按司の格好に扮した三人が神シャギから又

・ブシマアジマーに向かつた。

クシブク：女装に扮した三人がイースアシビナから

・ヌブシマアジマーに向かつた。

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

・綱引きの綱を持ちブラ・ガク・ドラ・チジンの音で

道ジユネーした。

メープク：按司の格好に扮した三人が神シャギから又

・ブシマアジマーに向かつた。

クシブク：女装に扮した三人がイースアシビナから

・ヌブシマアジマーに向かつた。

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

・綱を持ちブラ・ガク・ドラ・チジンの音で

道ジユネーした。

メープク：按司の格好に扮した三人が神シャギから又

・ブシマアジマーに向かつた。

クシブク：女装に扮した三人がイースアシビナから

・ヌブシマアジマーに向かつた。

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

・綱を持ちブラ・ガク・ドラ・チジンの音で

道ジユネーした。

メープク：按司の格好に扮した三人が神シャギから又

・ブシマアジマーに向かつた。

クシブク：女装に扮した三人がイースアシビナから

・ヌブシマアジマーに向かつた。

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

・綱を持ちブラ・ガク・ドラ・チジンの音で

道ジユネーした。

メープク：按司の格好に扮した三人が神シャギから又

・ブシマアジマーに向かつた。

クシブク：女装に扮した三人がイースアシビナから

・ヌブシマアジマーに向かつた。

メープク：ウーナ（神シャギで綱をつくつた）

道ジユネー

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

綱引きはメープクとジョープクでひいた。道のこちら側はジョープクで、松下盛一さん側のところはメープクであった。松下盛一さんのところに行く道のところ

綱引きをするそばには、大きな池があつたので、その水をかぶり、火の粉でケガをしないようにした。

私たちとはまだ、小さかつたので、石垣に座らされて見つけられた。

綱引きをするそばには、大きな池があつたので、そ

の水をかぶり、火の粉でケガをしないようにした。

私たちとはまだ、小さかつたので、石垣に座らされて見つけられた。

綱引きをするそばには、大きな池があつたので、そ

の水をかぶり、火の粉でケガをしないようにした。

私たちとはまだ、小さかつたので、石垣に座らされて見つけられた。

物していた。

メープルのウシヌシリーナーヌスーと言う人は、とても綱好きであったんでしょうねえ。綱といったら、すぐには血がさわいだのか、「やがて綱引きがはじまるぞ」と、抱まえろよ、抱まえておけよ」と声をかけな

がら、ジョーブクのところへフンドシを流して走つて行くので、みんなその様子を見て、おかしく笑いこけてしまい、綱を引く力がなくなり負けるときがあった。

ウシヌシリーナーヌスーの作戦であった。
綱引きが終わると、綱は村で、公民館で保管していた。綱引きをするときに、ほころびているところは修繕をしてから引いた。修繕が不可能になつたときには新調した。草を集めるのは子ども達の仕事であつた。

「藁くいーが」といつて、男の子たちは、焼き物のからを持つて、ケレン、ケレンと打ち鳴らして家々を訪ね、「藁くいーらはり」といつて集めた。当時はほとんどの家の米を作つていて、藁は豊富にあつた。それが終わると、今度は「竹くいーいくー」といわれるまで、「竹くいーらはり」といつてお願いすると、家の主人が竹を切つて持たして下さつた。その竹は綱の中に入れるので丈夫な綱が出来るといふ。

メーヴフヤのスーは、そこは子供はいなかつたが、

とても綱引きが大好きで、竹や藁はあるだけみんなアジマーに持つてきて、みんな一緒に綱を作つていた。

綱引きをするところはウファジマー、私たちのところはアジマーグワーといつてゐたが、そこでジョーブクは綱を作つていた。夕方から夜通して綱を作つてい

た。綱は今年こつちが雌綱なら、向こうは雄綱で、来年引くときには雄、雌交代した。雄のゴーは大きく、雄のゴーは小さく作つた。

(7) 八月

① シバサシ (八月十日)

家の周りにシバをさすが、昔は着物にもサンを入れてヤナムンが着物に手をふれないようにした。

*ススキと桑の枝を束にしてサン(呪具)結びを作り家の周囲にさして悪霊を払う。

② 木の精返し

仲里マスイ (明治二十五年二月十日生)

方言原話

木や人んかい化きーちさんでいちどう、ただ、うぬ話どう聞ちやるよー。あんしる、八月ないねー、ゲーイナさーに木くんじゅちさんでいいちぬ話。あんしおねー、うまんかい木ぬ精や来らっさんでいるばーいちぬ意味えやるばーでー。

(共通語訳)

木は人に化けるという、ただ、そんな話を聞いたんだよ。それで八月になるとゲーナで木をくくるという話。そうしたら、そこには木の精は来ないといふ意味らしい。

* 55ゲーナ 大型のサンのこと。ススキの葉や茅の葉を束ねて結んだもの。



シバサシ

(3) 八月十五夜について

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

朝、ノロがウスデークをしますと初拌みをして報告し、三時から四時、神アサギでウスデークを舞う。十二フシのうち六曲を演じてカリ一をつける。そのあとシーシ（獅子）をウンチケー（ご案内）して、アシビナーに行く。そこで残六曲のウスデークを踊る。そして教老会（七十歳以上）を行う。区長、議員のあいさつなど終えて古典音楽で幕開けしカリ一をつける。村アシビ那始まる。最初に踊る「かぎやで風」はノロの喜友名美咲子さんが舞う。昔のカマドノロは踊りが好きで、踊り神のようであった。昔はマチサでリハーサルを行つてから本番に臨んだ。村芝居の出し物は各班から出す。

池原のウスデークは毎年はやらないで、何年マール（あたり年）といふうにやつていた。

(8) 十月十日（ヒーフナージ）

新島キク（大正十年五月二十七日生）

子供達が竹竿の先にクバや枯葉を巻きつけ、この、竿の枯葉に火をつけそのたいまつを振り回してあそんだ。

(9) タキマーテ

(10) 十二月

① 年の夜

柴野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

天井の家の梁の上にご馳走（肉と山イモ）をおいて鼠に、

エンチユ ピーチャーン若年トウリ
チユクイムジユクインケーヤローフナヨー

「農作物を荒さによう」と祈った。供えたご馳走を鼠が食べてたら凶作。残つてたら豊作と占つていた。

また、農具（クラ・ヘラ）にも年越しをさせるため、きれいに洗つて土間に並べ、その上にご馳走（皿に三枚肉・トウシトウイジ・ジャガイモ・イモ）を供えて、クエーン ヒーラン イラン

若手どうら一 ユー切りりよー

と祈つた。

また、早く寝ると白髪が早く出ると言われ遅くまで起きていた。

② ニンニクの魔除け

新島キク（大正十年五月二十七日生）

*
ニンニクを食卓に置いたりトイレに下げた。箕と笠を表に下げそのゆれ具合で来年の豊作を占つた。

*ニンニク にんにくは強烈な臭いがあるため、その臭いでヤナムン（惡靈）を退散させる呪力があると信じられている。ヤナムンバレー（悪霊の払い）として、家の軒や豚小屋に吊るした。

● 池原の年中行事一覧表●

月	日	佐渡山安光（S23年6月28日生）作成		桜井清（T8年11月20日生）作成	
		※平成15（2003）年7月20日作成。 佐渡山氏が池原の古者（与那様正栄さん、仲村勇清さん、桜井清さん、新島清松さん、松村喜美子さん）から聴取したものまとめたもの。		※平成14（2002）年3月5日に桜井氏より提供された資料に基づき作成	
		行 事	内 容・拝 所・遺 跡 等	行 事	内 容・拝 所・遺 跡 等
1月	元旦	若水汲み	妙泉より朝早く若水を汲み〔トゥシトゥテンチラワカクナリヨ〕家族顔を洗い、お茶を立てて仏壇に供え、門松・竹も飾った。	若水汲み	旧正月には屋号玉代勢の下の泉「妙泉」の水を汲んできてこの水で東の方にむいて「トゥセトゥテンチラワカクナリヨウ」ととなえながら顔を洗う。又この水でお茶をたてて仏壇にお供えする。
	2日	初揃い（初御顔）	有志揃って神屋・上又殿内に参拝し初会合する。	初会合（ハチズリー）	旧正月の2日は池原村の有志会「現審議員」の初会合（ハチズリー）する日である。
	4日	初ウクシー	農家は農作業を始めた。	初うくし	又旧正月4日は農家の初うくしであった。
	7日	七日ヌシックイ	七草の雑炊を御仮壇にお供する、門松竹も取る。	なんかぬしきくい	1月7日は「なんかぬしきくい」で七草の雑草を仮壇にお供えする。又門松も焼却する。
	吉日	トゥシビースージー	73歳・85歳の生年合同祝い		73歳、85歳の方お祝いは生活改善のため公民館で区民総出の祝儀がおこなわれる。又此の日当人の子や孫それに区民たちによる謳りも披露される。
	14日	十四日	豚の足を炊いて御仮壇にお供えする。	十四日	1月14日は十四日と言って豚の足を炊いて仮壇にお供えする。
	吉日	体（カラタ）祈願	家族の干支の日に健康祈願する。	生誕祝い	1月吉日生誕祝いは家々で各々の干支「えと」の日にご馳走を仮壇にお供えし、健康を祈願する。
	16日	十六日	前年亡くなった人の供養する。	十六日	1月16日のこの日はこの年の前年に亡くなられた方の家々を巡回線香をあげ冥福を祈る習わしである。
	7日	クシユッキー	農作業の仕事休み。		-
2月	15日	島カンカー	牛を漬し、頭を村の出入り口に左綱の縄で吊るし、村の無病息災・厄除けをし、生血は一本松「ヌブシマアジマー」の下に桶に入れて置き、個人はこの血を分けて左綱の縄に塗り家の門上に張り、無病息災・室内安全を祈願した。	島カンカー	2月15日は島カンカーと言う風変わりの行事が戦前(西暦1945年)まであった。大正期までは村で牛1頭漬し、肉は村中で分け合い、頭を村の入り口と出口に吊るし下げるという行事があった。昭和期になると警察がうるさくなり行事用の品は町で買い求めるようになり、子供たちは牛肉も一切れずつしか貰えなくなってしまった。牛の血は池原の一本松、通称「ヌブシマアジマー」の松の木下に桶を入れておいてあり各家々は図(86ページ参照)のような物を作り門に立て、又村は牛の頭を吊り下げる風習があった。

3月	3日	サングッチャー	家々でアギドーフを仏壇の先祖に供え祀った。後藤・一錦守で豚を演じ、クワッチャーお膳を作り、15歳以上の男子は家の内で食べた。各家庭は3月御菓子・御重を持ち寄り新築した家で家族揃いで遊び、子供は外で遊んだ。御重(肉・豆腐・昆布・川エビ等)お菓子は手作り。		
	4日	サングッチャック	女のアシビ、馬手間(5円)を貯めたお金で、ジューシーか素麺イリチャーを作った。		
4月	5日 清明祭	村シーミー	清明の入りの日(新暦)に村が清明をする。畠門御旗按司墓2ヶ所・前川御旗按司墓唐人先の墓3ヶ所(登川大屋・志利が持)・ヌール墓・高嶺御旗按司墓3ヶ所・赤道上ヌ殿内の墓	清明祭 -般シーミー	3月から4月の清明祭は現在清明の入り日に最も近い日曜日行われている。又村清明の方は村で日をあらためておこなわれている。中には門中清明なるものがあり、これはその次の日曜日おこなわれているようです。
	日曜日	-般シーミー	登川と相談し一緒に日に一般シーミーを行う(村清明の次の日曜)		
15日	アムシバレー	有志達が田や畑から悪虫を捕ってきて、池原橋の袂から小船に乗せて流した。針仕事も禁じ、家々では仏前に豆腐等をお供えした。後藤・畠のヤハタを芋ごと取り虫と一緒に炊いて捨てた。その後、馬ハラシーを弁当原・ナガンザ見に行つた。	悪虫払い (アムシバレー)	4月15日は悪虫払い(アムシバレー)という行事がある。村の有志達は虫を捕らえ川に流すという行事	
5日	グングッチャー	素麺を油でいたため、お仮壇にお供えし、家族で食し、娘の嫁ぎ先にも分けて持って行った。	五月ちゃ	5月5日は五月ちゃと言って油でいためた素麺を仏壇にお供えし、また家中が食する行事である。	
6日	グングッチャー後	村で一頭の牛を殺して食べた。			
13日	五月ウマチー	知花ヌンドゥンチに酒と米の奉納(線香)。			
14日	ウタカビ	ウムイシンカのウムイ唱の練習。			
5月		知花祝女殿内へ御神酒を奉納、知花・松本・池原合同で殿・神アシャギで五穀豊穣の祈願をする。太鼓は打たない(種の実が実らないとの事)			
15日	五月ウマチー		五月の御祭り	5月15日は五月の御祭りで、知花から祝女が祭儀にこられ戦前、西暦1944年ごろまでは大変なお祭りであった。村の有志(現在の審議員)は時間になると村の入口のところに蓆をしいて待機、白装束に身を固め頭にはチナマキと言う草性の植物を頭に載せ、知花・松本・登川のウムイの方達等その他をしたがい、昔は驚異で来られた様ですが道がよくなつてからは馬に乗ってくるようになつた。余談にはなりますが池原橋の完成したのが大正八年(西暦1916年)のことである。祝女たちの一一行が村の入口に近づくと村の有志達は太鼓を打ち鳴らして御迎えする、ご一行の到着後お供して池原の神アサギへ到着後所定の位置に祝女たちが坐すると本来ならウクデと称する女性がニーブ取りの方達からおミキを受け取り神前にお供えする。これが終わるとウムイの方達が知花祝女殿内に伝わるウムイを太鼓を打ち鳴らして踊る。このウムイが終わるとおミキはウクリングワ(女)の手によってウサンデーして最初に祝女に差し上げ、ウクリ・ウムイの方達へと踊され、又一般の方達へ配られる。この五月のお祭りは池原の農家で作られた作物、主に穂穀が神前にお供えされていた。	

6月	10日	シルカシチー	白御飯とおつゆ（季節の作物）夕飯を仏前に供えた。	シルカシチー	
6月	14日	ウタカビ	ウムイシンカのウムイ唄の練習。	ウタカビ	
	15日	六月ウマチー	知花祝女體内へ御神酒を奉納、知花・松本・池原合同で殿・神アシャギで五穀豊穣の祈願をする。	六月の御祭	5月の時は福穂の花、6月お祭りは黃金色の稻穂を神前にお供えする行事である。
	24日	網引き	太鼓も打ち鳴らす。子供網引きと大綱引きがあった。子供網引きは毎年行った。大綱引きは何年か越しに行われた。子供網は竹で編んだ綱を引いた。前ブク・後ブクに分れて引いた。前ブクは前許田、後ブクは東松尾。	火の神の祭祀	6月24日は火の神の祭祀でしょう。池原に次のような行事があった。その祭り6月24日、村の有志、頭が3人一緒に小学生の子供一人を加え、4人一组になり、一風変わった行事が行われる。その行事で準備するのはおミキの一杯はいった大き目のチューカー（急須）と盃、それに火の用心と書かれた真っ赤な短冊、これで準備完了。ととのったところでこの四人組は○○家の門からこの家の中庭（仮間）の前の庭に横一列に並び終わつたところで向かって左側の人がクンテタミ、真中の人がイチムナゾヤ、右の人があ、二百、三百、この唱えが終わると同時に今度は3人で一緒にツタテ、タタテ、ミタテ、ナタテサリと唱えるとともに頭を45度前に下げると共に両手の肘を前に90度まげる様にしての一札をする。子供はこの間この家の火の神大まごとにおミキをお供えし、また家の方には火の用心と書かれた短冊を差し上げることでこの家の火神に対する祈願は終わる。が、一連のこの祈願は池原全戸に行われる。
	25日	火神祭祀	頭・有志（2人）・子供計4人一緒に、御神酒と火の用心と書かれた赤い短冊を持ち全戸廻った。仏前の前の庭で横一列に並び、左からクンテタミ・イチムナゾヤ・百、二百、三百と唱え終わると三人一緒にツタテ、タタテ、ミタテ、ナタテサリと唱え、頭を前に四五度下げ腕を直角に曲げて一札をする。その間に子供は火の神・カマドの前に御神酒を供え、室内に火の用心の短冊をさした家畜小屋の掃除を行った。計仕事は禁じた。	網引き	6月25日池原は網引きが行われた。子供網と大綱引きがあり、子供網は毎年ありました大綱引きは○年でした。6月25日近づくと子供たちは村の家々を網り網引き用の竹を各家庭から二、三本位戴き大人の方達に縛ってもらって竹網を作成させる。もちろん前（メ）ぶく、後（ケ）ぶくに分れての事である。呼称は子供網となっているが、25日にになると全住民が真二つ（前ぶく、後ぶく）に分れ、中には目の色が変わり半狂乱になる大人もいたほどである。網引きが終わると前ぶく、後ぶく各々の子供達は網を竹細工の方に売り、その金で学用品「紙」等を買い、皆で分け合うという実に楽しい慣行であった。大綱引きは4年おきに行われるようになっていましたが、西暦1930年頃に大綱引きがあつてから今日（西暦2000年）までこの大綱引きは行われていない。膨大な費用のためでしょうか。
	日	原山勝負	家畜（牛・馬・豚等）・農作物・肥料等の品評会。	原山勝負	6月○○日、戦前西暦1945年以前は6月の吉日になると原山勝負と言う行事があった。集落内の家々を人数その他で加味して9段階位に分け、牛・馬・豚・農作物・肥料等の等級は量と質から採点されていた。
	7月	7日	七夕	七夕	7月7日この日たなばたと称し、村の頭たちは集落の旗頭・踊りの衣装、村芝居の時の小道具等虫干しする。
	13日	旧盆ウンケー	村は青年によるエイサーで精霊を迎える。 一般は各家庭で早めに先祖の精霊をお迎えする。	七月エイサー	七月エイサーで池原は西暦以前はミーサの家庭以外は全戸まわる。まず最初に上の殿内、その次に神アサギの前の広場でエイサーを奉納、その後は前ぶく（メインダカリ）から順に回っていた。西暦1945年（昭和25年）以前のエイサーと現在各地で催されているエイサーはだいぶ趣を異にしている。1950年以前は精霊に対する供養が目的のようでしたが今日のエイサーは精霊に対する供養が目的ではなく逆にお祝いの場でのカリーに持ち出されて見世物になって、大別して戦前と戦後ではその目的が異にしているようだ。
	15日	旧盆ウーケイ	青年によるエイサーで精霊を送り、盆踊りも行う。一般はできるだけ遅い時間にウーケイをする。午後11時頃行い、乳児のいる家庭は人差し指で鍋のススを乳児の額へぬった。		

	16日	盆踊り	青年はエイサーで頂いたお酒を酌み交わしを疲れを癒す日。現在では青年が権を組み、エイサーと盆踊りをする。	盆踊り	7月16日は盆踊りで夜更かし、疲れた男女、青年の方々が各家庭から頂いた品々で話し合ひ語り合う日である。
7月				七月彼岸	七月彼岸は二月彼岸と同じ
8月	8日	トーカチ	それぞれの家族で88歳のお祝いをする。	トーカチ	八月八日は「トーカチ」と称するお祝いがある。数えの八十八歳になると各家庭においてお祝いが行われる。
	10日	シバサシ(ヨーカビー)	家の四隅と門の両側にゲシチと桑の木枝で作ったゲーナ（サン）をさし、家屋敷の風水（フンシ）を高め魔除け払いをする。屋敷の裏からさして厄払いする。後塵・タカメーラから歩くイニンピーを家の高台で見た。	ヨーカ日	八月十日は池原はヨーカ日と言って屋敷の角かと家の角かと門の入口の両側方音「ゲシチ」スキの葉の方を結び「ゲーナ」と称するものをくり、前述の隅々に立てる習わしがある。魔除けでしょうか。
		アカガシチー	赤飯（豆飯）とお汁（季節の作物）夕飯を仏前に供えた。		
8月	15日	十五夜・秋老祭	神アシャギでウシデークを踊り、シーシガナシーを三味線・唄でカリーフけ、三味線・ウステーク（小鼓）・太鼓・ドラ等を打ち鳴らし道ズネー（仮装行列）でウンチケーする。神アシャギの前、比井謝前のアジマー、ヌブミア（ヌヌフシ）アジマー、松尾前池側アジマー、アシビナー、前アジマー、上のアシビナー、アシビナーで旗頭を左に三回廻りアシビナー舞台に座させる。ウステークは上のアシビナー、アシビナーでウシデーク踊り奉納し、夕方敬老会の宴を行う。シーシガナシーを神屋に笛で、トーンンドーイで案内し、古典三曲唄・三味線お札をして納める。お供えの御菓子を送った方々に配って終わる。 シーシミチヅネは仮装行列をした。村の組踊りは5～6日かかったので、十五夜アシビの準備で、畠仕事を一週間前から休んだ。	獅子舞	8月15日池原村は獅子舞の行事がある。当日2時から3時頃になると老若男女村の方々によって獅子加那志の「ウンチケー」が始まる。獅子屋で三味線による演奏「カリ」が終わると、青年たちは獅子加那志を纏うと唐船ドーイの音楽が演奏され太鼓、ドラ、尚武錐と方音「ガク」ソオナ等もこの音楽にあわせ、打ち鳴らしながら獅子加那志、旗頭を先頭に進む。行列の音楽は2通りほどあって、列の前方獅子加那志、旗頭、太鼓、ドラ、尚武錐組は道中のテンポはトントントン、トントントンの連打、この間勿論ガク「ソオナ」吹奏しつづける。神アサギの前の広場、比井謝家の近くの「アヂマ（交）」通称ヌブミアヂマ（交）カヌヌシアヂマの広場、東り松尾の近くの池の側は以上四ヶ所の広場に来ると旗頭を広場の真中に立てると同時にガクの吹奏はやめ、鐘・太鼓はヌイチテブミ（偏い太鼓）に切り替える。この時獅子加那志は周囲を戒厳するように旗頭の周りを三回する。最後のスネイ鼓「4度目」の後は遊び庭までトントントン、トントントンの打ち方。又三味線踊り人会、老人会の女性の方たちは最初から最後遊び庭に着くまで三味線に合わせて太鼓を鳴らし踊ったりして進む。遊び庭についてからは色々の催しものがある、獅子加那志の演武、個人団体等の踊りが一杯で時間が足らないくらい。一連の行事が済むと今度は獅子加那志を送ることになるが、この時の音楽は獅子屋に着くまで唐船ドーイで送り届ける。
	7日	カジマヤー	九十七歳のお祝い	カヂマヤー	9月7日は池原にも九十七歳「カヂマヤー」のお祝いを行う習慣がある。昔から「カヂマヤー」のお祝いの時に七横を渡るといふ伝えがあります。
9月	9日	泉御願	神屋・ビジュル・ヌールガー・メーヌカー・ウブガー・諸人泉・妙泉・後原メーヌカー・後原守護神・長毛泉	泉めー	9月9日池原は泉（カ）メーという行事があって、池原地区内にある泉に対し毎日毎日有難う、お世話になりましたと感謝の意で御酒、白紙、お線香を供え祈願する。

10月	タントウイ（種子取り） ヒーヒナーグ	稻の種まきの祀り。大人はナーシル（苗代）を植え終わると午後からお酒を飲みながら楽しんだ。子供たちは芭蕉の枯葉を集め、牛庭で家の形等色々なを作り、火を燃やし、枯葉を数本束ね火をつけ回して遊んだ。初めは島當ウカイで行っていた。	火ひなーぐ	10月10日は池原に「火ひなーぐ」という行事があった。これは子供たちの行事で一定の場所で火遊びが自由にできる一日であった。子供達は幾つかのグループに分かれ思い思いに芭蕉の枯れ葉を集め家の形や、そのほか色々の形をつくり、この芭蕉の枯れ葉の山に火をつけ火柱が高く上がるとき声をあげたものである。又芭蕉の枯れ葉五、六枚束にして一米くらいの紐をつけ、これに火をつけて振り回し闘牛場の中は實に別世界のようでした。明治期くらいまでは小字島當うかいという場所でのこの火ひなーぐが行われていたが、周囲に砂糖きび畑が増えたため用心が悪いということで現今北美小学校のプール敷地のある場所で行われていた。西暦1945年以前の事である。池原の田園は日照りが続くと水不足になったとの言い伝えがありましたので、雨乞いの行事だったのでしょうか。しかし確証はない。	
10月	10日		馬はらいー	10月10日は馬はらいーといって知花村と登川村の境界になっている場所にびんとううまみと呼称する馬幅30米位長さが300米位の立派な馬場があった。幅30米位長さは300米くらいで馬場の両側には琉球松の大木が立ち並んでいて、昭和15年代この大きさの松が他のいすこかにあったでしょうか一本か二本位なら他にも生えていたでしょうが、何本くらいあったでしょうか、こんなにまとまって生えていた場所の話は聞いた事がなかった。池原村の古老屋号蔵ん根祖父鳥嶋潤助は次の様に話されていた。このびんとう馬場の松の下枝を伐採する時、三分の二は池原の分け前で、三分の一が知花の分け前となっていたと話されていた。この話から推察した場合、この馬場の松の年齢は800年位が推定される。松の下枝の分け前が三対一という事は池原村が昔、今は登川村の区域内に所在す池原村の御蔵、すぐぶ御蔵を經營森としてこの地に居住していた年代に作られた事が立証される。池原村の居住年から推察した場合、びんとう馬場の松並の松の年齢は6,700年になるのではないか。戦前の県道の松並木が300年と推定した場合、びんとう馬場の松の年齢はやはり、6,700年が考えられる。これはあくまでも推定であり、今後専門家による研究が必要かと思います。この馬場は西暦1930年頃まで10月10日になると方々から乗馬用の馬が集まり競馬が行われていた。東京、大阪あたりの競馬とは異なり、乗場は小走りに走り、それに速く走る競走をしていたようだ。	
11月	11日	御厨御膳	神屋・スクブ御厨・當ぬ御厨		
	日	冬至	葉野菜のジューシーメを仏壇に供える	冬至	11月吉日、冬至は葉野菜を一杯入れた雑炊を炊いて仏壇にお供えし、また室内みんなで食し、健康であるようにとの習慣。
		ムーチー	サンニン・さとうきびの糞っぽで包んだカーサ餅作り、ムヤバードに吊るした(軒下に吊るす)。親戚に赤子がいればチカラムーチーを持って行った。屋敷と家の四隅に、イーゴーマームー(クワズイモ)の葉をさした。	鬼餅	12月8日は鬼餅といって砂糖きびの葉や月桃の葉で包んだ御餅を仏壇にお供えし、又子や孫達の年の数だけの方音ムーチーを網の目とぬい目にはさみ「ムヤバード」(主柱)に吊るし下げ、子供達の健康を祈願していた。又この中に二個ほど大き目の餅を入れて力つよく健康であるようにとの慣わしがあった。
12月	24日	カミフトウチ 御願解き	村はカミフヤーの火の神に一年間のお札御願をする。人々では台所のスス払いを行った後に火の神を抹る。	御願解き	12月24日御願解き
	30日			大晦日	12月30日は旧暦の大晦日。この火はお肉等様々な御馳走を作り、仏壇にお供えする。又年わしりーと言う言葉もあった。

〔3〕芸能・娯楽

1 旗頭

村々には、村を象徴する「旗」がありました。そして、その旗は村の行事をはじめ、村を上げて公の場に出る時など、必ず「旗」を先頭に出てきました。旗が他村の人によって倒されると村の厄にあうといわれ、旗頭は力持ちが持りました。旗には文字と絵が書かれています。桜井清は父親から聞いた話を次のように記憶しています。

池原には二本の旗がありました。前ぶくの旗は「のぼり童」の絵でメーチューダで保管され、後ぶくの絵は「クワントインオウ」でアガリマーチヨーで保管されていたといふ。

2 村アシビ

アシビとは五穀豊穣を神に感謝する祈願祭。この行事はたいてい旧暦の八月十五夜を中心にして催すところが多く、「八月踊り」とも「八月遊び」ともいわれています。踊りを楽しむことが出来るので部落の人々が最も待ち望んでいた祭りのひとつです。

(1) ウファアシビ

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

池原のウファアシビは大正五年に行われたのが最後

である。ウファアシビは旧九月十月頃行われ、二三ヶ月前から練習していた。ウファアシビは七年マールで行われていた。

(2) 踊り神

松下キヨ（大正八年十一月十日生）

* 57 クワントインオウ（問帝王）中国から沖縄に五穀豊穣をもたらした神。
＊ 58 ウファアシビ 毎年行われているアシビではなく、何年か毎に周期的に行われる大規模なアシビのことを言う。ウファアシビのときは演目内容や演じる期間に違いがある。例えば、ウファアシビのときは普段は演じられない組踊「ムラバル」「東波名」を演じる場合がある。

池原のアシビでカリ（縁起）つける踊り最初の十三代目のカマドノロが踊った。カマドノロは踊りが好きで「踊り神」でもあった。

アシビのリハーサルはマチサで行い本番にそなえた。

(3) 屋取のアシビ

佐渡山安光（昭和二十三年六月二十八日生）

後原は具志川市栄野比のイリバルと屋取同士と一緒にアシビをした。

(4) アシビの演目

① アシビの演目

栄野比トヨ（大正六年十月十日生）知花

池原における村アシビで演じられていた歌劇に「クワミイ節」「布さらさー節」というのがあった。それ

らは那覇の人であったのかアラカチーと言う人が教え

ていた。仲村光三さんが演じていた。話者が十三、四歳の頃。他の地域はない演目である。

ハワイ節はハワイから来た人が踊りを教えていた。

② 池原の組踊

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

池原には組踊「東邊名」「村原」があった。

③ 組踊りムラバルの話

与那嶺松栄（明治二十七年八月二十五日生）

（方言原語）

チカ、いい、それも同じ組踊さあ。うん。私達の部落としての行事はね、ムラバル、それとねえまた子カヒナ、それとまたあのー前はあのー何と言ひよったかねー。

これ、其處、其處行事え私達部落としてーなー、チカヒナんでいしどう、またムラバル。うぬ二二えー主ねーなー、代表的にうれ、そーたるばーやでーやかねー。

一ひがーやー。ムラバルの話いやあれー、昔ぬあぬう、今のが安慶名城ねー、あれが大川城、大川ぬ城址。あまなかい、うぬくぬムラバルぬうれー、ひつちーそーたんでいしが、まじうれー話あべこべやいねーやー、はつきれーわからんしがや。(中断)

あれ大川城ぬ動みやたんでいよーやー、なあ。あんしまだあぬ、うりが親分お、また反対の親分お、谷茶んでいしやるばーてー。谷茶んでい、あんし、うつ

しゃしが、うり産ちよーる、昔ぬあぬ具志頭親方とう、また名瀬親方どう意見ぬ合わん、ちやー、うしんち反対やたる、やたんでいるあぬう話いやるばーてー。あんいえーやしが、あれーうりとームラバルとお別くぬムラバルんでいぬ話や、ありが最初ぬ、その城ぬね、城を今あの城址さあ。城址築いたのが、この安慶名の大川城。あれが大川というてねー、今現在までも、もう安慶名の具志川大川城と。こういう話はありましゅがねー。むこうに責任を持つて勤めたのが、ムラバル。ムラバル親方、つて、それが反対の一、あーのーかたはまた谷茶の按司という人であつたらしいが、それをあの組み合わせてね、作くつたのが、我々池原部落のムラバルの組踊になつておるわけさー。なー、それがあの細かいことはつきり調べんと、まーわからぬわけであるが。

まー、それにまたあの、ムラバルのあのー、妻、妻として、乙博やい、乙博やるばーややー。あんひがうつしさーに、あんさーにうりがあいに、中うどーうてい生きましたる子ぬ。うぬ、谷茶ぬ按司んかい、討ち殺さらーに。

あんさーにうりが、う、仇討ちとうしち、うりしーうぬ、さっかばーし。あんさーにうりしさぐどう、なうぬ城んかい、あぬー居らんなやーに、うぬ女お乙博んでいしえー、ひんじてい行ちゆし。あんさーにうりしさーに、後おなーどうく疲たやーに、疲れてしまたあぬ、うりが親分お、また反対の親分お、谷茶んでいしやるばーてー。谷茶んでい、あんし、うつ

* 59組踊 音楽と舞踊で構成された沖縄独特の伝統演劇。

* 60ムラバル 人名、村原と書く。組踊「大川歌討」の主人公。

* 61チカヒナ 話者によると組踊の一つ。未詳。

* 62安慶名城、大川城、具志川市安慶名の龜甲庵にある城跡。城の東北を流れる天願川を、その付近では大川とよぶことから別名大川城とも称する。一四世紀頃安慶名大川按司によって築かれると伝えられる。

* 63谷茶 恩納村字谷茶の按司。

* 64具志頭親方 稲葉。一六八二—一七六年。三司官。具志頭親方とも呼ばれる。学問的業績と政治的功業などを残し、哲学・科学・技術者としての評価も高い。

* 65名瀬親方 一六六二—一七三四四年。程順則。久米村程氏の七世。紫金大夫(三司官座敷)。

* 66按司 古くは琉球の各地に割據していた武力的政治支配者をいう。王府時代には位階名となる。

じ、逃んじまーいーし歩ち、うり心配し後ぬー、う
ぬう自分ぬ産ちえーる若按司ぬ長男ながこかいてー、うり
ちやーにあぬ、自分、自分ぬ女ぬ親かめーー歩ち

ゆし、後お山底さんじ、見じやーに目あていやーに、目
あていやーに、あんさーに親、うりしさーに助きてー
うり、そーる、でいちぬ話いやるばーやしが。

あんさーに御城、うりがフルフルなてい、うりさく

と、自分ぬ親あー、谷茶ぬ按司んでいちわかとー

くどうやー。自分ぬ親殺さつとーしまー、谷茶ぬ按司

んかい殺さつとおーくとう。あんさーに、うりが、うり、

あぬう、さんがために、あんさーに、自や山底さんなーり

い逃んぎてい歩ち、そーし、また、うぬ自ぬ産ちえー

る長男ながこ、ぬう、若按司ぬー、うりがあぬ、親探

て歩ちゆる途中とちゆるかい、白ぬ女ぬ親さげーち、探て

いうりしきくとう、どーとーなーもどいていたやーに、

あんし、其處から戻ってい米に、自分ぬ城跡じゆかい帰

ていい来、うつしさーに、さくと、うりがはた、成長

いーていうりさくと、なー自分ぬむ、親ぬ敵えー、

敵えー、谷茶ぬ按司ぬわかとーくとう。

(共通語訳)

これも同じ組踊りさあ。私達の部落として行事はね
「ムラバル」それとねえ、また「チカヒナ」この二つ
は主にはもう代表的にこれは、やつていたわけさあね。

ムラバルの話はあれは、昔の今の安慶名城ね、あれは

大川城。大川の城跡。あそこに、あのこのムラバルの

これは、しょつちゅう演じていたって言うが、まずこ

れは話があべこべになるのか、はつきりわからないけ

どね。

あれは、もう大川城につとめていたつてさあね。そ
れでまたこの人の親分は、また反対の親分は、谷茶つ

* 67 高良の比屋
高良は地名もしくは名で、
比屋は位隔名。

比屋は位隔名。

やー、全部集まやーに、
「ちやーじやーさらー、自分ぬ親ぬ敵仇ごんきゆえー、取ら
りいがやー。」

んでいちくとう、うりが打ち合わせーに、あんさー

になーめーめーぬ手並み、見しいーんでいやーに集ま
やーに、あんさーに自分ぬ腕前見見て、とーとーな

ー、腕前うでまへん皆出来て、いさくとう、

「今えーなー、親ぬ敵えー、十分取らりーくとう。あ
んさーに、うりしさーやー。」

ち、谷茶ぬ按司えー、くぬムラバルぬ子こんちやーんかい、
なーうりしちやらーれー、滅ばさつてい、しえーんでい

る組踊るばーてえ、

私、私達部落ぬ、ムラバルぬ親ぬ仇討ごんとうえー。あんや

るばーやしが、だあ、うりが全部が全部でーねー、うれ

ーまた全部で、うりしんでーいーねー、約三時間ばかり

んすんどーやー。うん。

あんさーにうりし、さーに、谷茶ぬ按司えー、く
るしばーし。うりが臣下しんかぬちやーが多く居るばーよ
ーやー。うりがあぬ、ぬーしたがやー、谷茶ぬ按司と
うまたりかくぬ友達ゆだつんちやーやあぬう、高良
ぬ比屋、高良ぬ比屋ひやんでいしん居ゐい、またうりからあ
ぬ、フクジヌシフクジヌシーでいる、でいる友達ゆだつん居るばーてー。
あんさー、とーとーなーうりが自分ぬ親ぬ敵取る、
うりんかいなつちやくとう、うつさー、うぬ臣下しんかぬち

ていう人であるわけさ。そうであるが、この人を生んだ昔のあの具志頭親方と、また名護親方との意見が合わなく、それでいつも反対であつたていうあの話であるわけさ。これとムラバルとは別。

このムラバルという話は、あの人があの最初のその安慶名の大川城をね、築いたのが、あれが大川というが。今現在でも、もう安慶名の具志川大川城と言う。向こうに責任を持って勤めたのが、ムラバル親方って。

それと対立していたのがまた谷茶の按司と言ふ人であつたらしい。その二人のことを組み合わせて作ったのが、我々池原部落のムラバルの組踊りになつてゐるんだ。それの細かいことははつきりわからないが。

まあそれとまたムラバルの妻は乙樽といつていたよ。一人には子供も生まれていた。でもムラバルは谷茶の按司に討ち殺された。そうしてこれが、あだ討ちをするという話である。

もう妻の乙樽はこの城にいられなくなつて、出て行つて、ついにはたいそう疲れ果て、道端で寝たり山裾から逃げまわり、ずっと逃げまわっていた。そうして

いるうちに自分の生んだ若按司の長男にさ、母親を探してあるくのを探し当てられたのか、山の裾から逃げまわっている親を助けたと言う話だが。

やがて、若按司が成長して、自分の親は谷茶の按司に殺されたのは分かつてゐるからね、それと仇討ちをしよう」と山裾辺りから歩いているのを、それに自分が生んだ長男の若按司が親を探して歩いてる途中に、母親を探し当て、そうしたからどうとうそこで出会う

ことができ、そうしてそこから下りて来て、自分の城跡に帰つて来た。

この人が成長すると、もう自分の親の敵は、谷茶の按司だと分かっているから。それでこうして、谷茶の按司を殺そうとした。若按司の家来など沢山いた。そ

の中に、谷茶の按司の友達である高良の比屋という人も、またそれから福地ヌシーという、一人の弟子もいるわけ。それで、とうとうもうこれが自分の親の仇討ちをするために皆集まつて、「どうすれば、自分の親の仇を取れるかなあ」つていうことで、それでおのの手並みをみせることで自分の腕前を披露した。「これでもう、親の仇を十分に取れる」ということで、谷茶の按司のところへ押し寄せていった。谷茶の按司はこのムラバルの子の人に滅ぼされたという組み踊りであるわけ。

私達の部落のムラバルの親の仇討ちは、そうであるわけだが、これが全部が全部組み踊りをするといえば約二時間は要るよねえ。

3 池原の獅子

① 池原の獅子について

桜井清（大正八年十一月二十日生）

池原村には戦前一対の「雄と雌」の獅子があつた。雄の方は私達が小学校時代（西暦一九一九）の頃には

胴体の方はなくなり獅子頭だけになつてゐたが、雄獅



ウスデーク／八月十五夜

子の方は旧八月十五日になると、獅子屋から出され、

このことを池原では「ウンチケ」と言っていた。村の区長、現在の「自治会長」、それに村出身の村議を初め村の有志（現今評議員）村の男女青年会は勿論老若小供に至るまで皆してこの獅子加那志を通称「アシビナ」（アシビ）と称する場所まで距離にして二五〇メートルのところまで「ウンチケ」する儀式が始まる。

獅子屋（獅子を保管している所）の戸を開けて獅子屋の前にひかれた壁の上に獅子加那志を出し、三味線

が鳴り出し、三十位の三味線の演奏が始まる、曲目ははつきりとは覚えて居りませんが「御風前」の一つの「かぎやで風」ではなかったかと推察する。（略）この

旧八月十五日の獅子舞の時の楽器は三味線が三、四丁。太鼓一個、小鼓四、五個。ドラ鑼二個。尚武鑼二個。それに沖縄方言「ガク」と称する楽器が一個。この楽器は二個あったと思いますが、これを吹きこなせる方は増

蔵根の故島袋增榮氏しかいなかつた様な氣がする。

この獅子「ウンチケ」と称する道中の模様であるが、まず、先頭に池原のシンボル荒武者の人物の絵が書かれている旗頭この旗頭を軸にこの日の主役獅子は前後左右にこの旗頭をお譲りするという感じで前進する三昧線の曲目は「唐船ドーリー」と称する曲で旗頭と獅子の後ろを一団となって進み、左のアジマーで止まり、

旗頭を真ん中立て五分から十分間ぐらい獅子舞が行われていた。このアジマーとは

一 神アサギの所のアジマー
一 屋号伊元の屋敷の東側の池の所のアジマー

一 布干アジマー

以上三箇所のアジマーが旗頭をアジマーの真ん中に立てて、獅子舞が行われた所である。

シシについては、ウシークラントーのおばあさんがよくわかるはず。また、・池原村の獅子は百里からの御下賜品と言うことを父から聞いた。現在ある池原の獅子は離で昭和二十一年に作られたものである。

「私が推察する池原村及び當村」より

② 池原の獅子と兼箇段の獅子

島袋誠勇（昭和十五年五月十五日生）

兼箇段の獅子は雄で池原の獅子は雌だといわれた。それは兼箇段が池原より東に位置していることによるものである。

③ シー・シャーの移動

又吉松八（明治三十八年四月八日生）

ウフヤの後ろから現獅子屋の右側に移り、現在地となつた。

④ シー・シャーの移動

松下盛一（明治四五年五月十日生）

シーシャーは最初ビジュアルのところにあつたが、現

在地より東側に移した。ところが、その場所は竹が多

く暗いということで字民から移動願いが出たため、現在地になった。

※シーシャーの移動については「民俗地図」(8ページ)参照。

4 毛アシビー

「毛」とは沖縄の方言で原っぱのこと、夜、農村の若い男女が夜になって野原に出て遊ぶことを毛アシビーといいます。毛アシビーは村はずれの適当な場所に集まり、三線に合わせて歌を歌つたりして、夜明けまで遊ぶ男女の出会いの場がありました。

(1) 毛アシビー

松下盛一(明治四十五年五月十日生)

【参加者】

十七、八歳から二十五歳頃までの男女。

【場所】

ジョーミーチャー墓のところ。

池原橋

オーケドライブイン

※楚南、山城に出かける人もいた。

【時間】

夕食後九時頃からほとんど毎晩。

【交流区域】

楚南山城・兼箇段・登川・川崎・采野比

【廃止年】
大正十五年頃

【モーアシビー最後の歌】

「サーヨー」具志川ナーカニーに似ている。

*毛アシビーを終えて家に帰ると、母親にそつと合図をしてから休んだ。

(2) 毛アシビーの場所

① 毛アシビーの場所

島袋新栄(明治三十二年七月十四日生)

現在の公民館付近に一本松がありその下で行つた。

鳩目鉢西側:昔石橋(イチバルバシ)があつたその欄干の上で行つた。

公民館の東側:タマタと言う場所(ウテーの下)

② 毛アシビナーの場所

桜井清(大正八年十一月二十日生)

盛島のアパートのちょうど上がったところにモーアシビナーがあつた。兼箇段の橋。

③ カミタモーの毛アシビナー

桜井清(大正八年十一月二十日生)

毛アシビーをした所(カミタモー)。登川、倉敷、

楚南、栄野比からもきた。田園もあつた。

まうでい、あぬ村からんくぬ村からん毎日うまつち遊
でい、あんさーに、ゆーはんねーままーならんがや
たらー、

(4) ミートウマーチ (夫婦松)

松下キヨ (大正八年十一月十日生)

(方言原話)

夫婦松し、かんしあたんよーや。あぬ、オーケドライブ
インぬすばんかい。こつちはモーアシビーすーど
うくるー。あれはね、こう、根っこから、根っここれ
ぐらいのところで、二つに、二本にわかれてね。そつ
てそれが、風が吹くたんびに、かんし、ひっからくて
いしーしーしてー。あとは、洞ぬぐどう、ちんまーち
よーたんよー。こんな大きくなるまで。今はもうない。
(共通語訳)

夫婦松というのがこうあつた。あのオーケドライブ
インの側に。そこはモーアシビーをする場所であつた。
夫婦松と呼ばれている松はね、根っこから一メートル
の所から二本に分かれてい、風が吹くたびに、こう
からまつたりしてた。しまいには、洞のよう上に上の
方できれいにからまつっていた。こんな大きくなるまで。
今はもうない。

(5) 別り松

栄野比トヨ (大正六年十月十日生) 知花

(方言原話)
ちゅむどうんかいあやーに。ある若たーがてー、う

「いぎたやなー、くまや、あんし、いぎたー両方から
かなさし親んぢやーが許はんぐとう、くまや、いぎた
ー二人し、名付きとーかやー」

でいやーに「別り松」んち付きたんでい。くむ松えけー
枯りどーん。今ぬ池原ぬ売店ぬあへーや、売店ぬすぐ東
ぐわーぬまなげーあたん。今ん根やくづびあへー。
(共通語訳)

一本の木があつた。ある若者たちがここで、あの村
からもこの村からも来て毎日そこで遊んでいた。だけ
ど、ある二人の恋はうまくいかなかつたんだろうか
「私はお互に思い合つてゐるが親たちが許さない
から、一人でこの場所に名前をつけておこう」と
言い「別れ松」とつけた。この松は枯れてしまつた。
今の池原の売店があるでしよう、その売店の東側にあ
つた。今でも根っこはこんなに残つてゐるさあ。

(3) チキ石

松下盛一 (明治四十五年五月十日生)

* 68 チキ石 村の若者達が力試しに持ち上げ
る差石。持ち上げる重量を競う遊び。



別り松

ことがあった。

チキ石はハンタグワードの下にあつた。

(4) ウテー原の恋女

具志川市兼箇段と沖縄市池原の境界に橋があり、その東方の高台はウテー原と呼ばれており、浦添ようどれと並び怖い場所として有名でした。

ウテー原には天願川の上流にあたる川崎川が流れ、一帯はリュウキュウマツが群生、戦前は道が小さく、昼でも薄暗くうつそうとしており、マジムン所として人々に恐れられていました。

その昔、兼箇段の男性と池原の女性が恋に落ち、怖い場所をものとせず達瀬を楽しんでいた。心配した家族がその恋を阻もうと計画を講じるが失敗に終わるという逸話が伝えられています。

① ウテー原

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原話）

沖縄うとていい恐るどうくろーてー、浦添ゆーどうり。また、兼箇段ウテーんでいち、池原どう、兼箇段と一半分の一、池原ぬ多きぬよーくぬウテーむの。兼箇段のうふいどうやしが、あんしん、兼箇段ウテーんち、川ひじやみーしがてー、あがたー兼箇段、くがたー池原、やしが、ミーチャー墓ぬあしえー

兼箇段ぬんかいどうあしがてー。うりが、けー隣ぬむぬんまでーむる池原ぬむんどうやんどー。川越とーぐどう、あれーなー兼箇段。ミーチャーバカぬあくどう兼箇段でいち言ちよーるちむえーどうやんどー。

（共通語訳）

沖縄で恐ろしい場所はね浦添ユードレ。次に怖い所は兼箇段ウテー。ウテーは池原と兼箇段にまたがっているが池原と兼箇段では池原が多い。兼箇段の区域は少しだが、兼箇段ウテーといつて川を隔てていて、川の向こう側は兼箇段でこちら側は池原。ミーチャーバカは兼箇段にあるけどねそこら辺近辺は、みんな池原のものだよ。川向こう側になつていてるので兼箇段と言い、ミーチャー墓があるから兼箇段といつている意味あいなんだけね。

② ウテー原の恋女

平田フミ（明治三十五年四月十日生）登川

兼箇段、池原、登川の境にジョーミーチャー墓があるでしょう。これはずっと世の始まとの墓だよ。この墓には世の始まの人に入っているさあ。

これの話は、自分たちも若い時は夜になつたら、夕飯食べたら、男は三線持つて歌ぐわーしまーして池原や登川、兼箇段の三ヵ所の人が集まり、夜の十二時、一時まで遊んでいたよ。だから、池原の女が兼箇段の男と恋中になり通っていた。男が呼びに来ると一箱に行き、そうじゃない時は暗い中を墓の前を通つて自

* 69 浦添ユードウリ 浦添ゆうどれから命をさらいくるマジムンやお化けが出てくる話は、他の市町村でも聽取された民話がある。恐怖の場所と言われた所。
* 70 兼箇段 具志川市の字。沖縄市の池原と隣接する。

* 71 ミーチャー墓 ジョーミーチャー墓のこと。兼箇段ウテーという森の近くにある墓。ジョーミーチャー墓があるところは、両側に木が生い茂り、道は小さく真直でも暗いところであった。

分一人で兼箇段に遊びに行っていた。この話は時々聞いていたんだが、女の家族のものが、兼箇段に通うのを驚かして止めさせようと、真夜中にジョーミーチャー墓の中の上に全身に白衣装を着、死装束で座っていた。だが、この女は意志が強く、「シジヤー高く、マジエー低くく（人間は高く、マジムンは低く）」と言つて通り過ぎて行ったそうだ。

もう、女は南洋に行つて死んでしまい、男もいないが、この話はいつも聞かされていた。

③ ウテー原の恋女

平田嗣光（大正六年五月五日生）登川

池原の女の方が、隣村の男の方と恋愛関係に入り、非常に慕いあつておつたと。昔はこのよその部落へ嫁入りさせるということは、親兄弟の恥とまでされてしまうし、部落でも、昔はこの他部落へ嫁入りする場合には、馬手間（馬の手間）という罰金みたいなお金を取らない限り、お嫁には出さなかつたというような状態の時代であった。そのために、池原の方では、その兄弟に多分、圧力がかけられるのが知らないが、何とか、その女の兼箇段に通うことを止めされようということで、まあ、二人の男兄弟が、いわば、マジムンと化けて道中に待ち受け、脅かして追い返すそういうよな計画をしてやつたと。しかし、女の方はもっと強く、恋に生きる女は、意地が強くて、もう、「しじえー高く、まじえー低く」と言つて、マジムン姿になつてゐる二人

を踏みつけて行つてしまつたために、「もうこれでは、どうしようもない」と言つて、親兄弟でも諒めただ。

私たちの聞いた話では、その後、その一人は、結ばれて、楽しい人生をおそらく送つただろうというふうに、語り継がれておるということにして。

④ ウテー原の恋女

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

（方言原話）
わつたーうばまーやしがてー、うり、兼箇段ぬ人と
うぐーない、あんしえ、イキーぬちやーが殺すんで
いちしえーしが、木ぬ上から登ていはやーに、わから
んばーてー、ゆつか下に隠きとーしえーやー。赤道ぐ
わーアンマー。くりんちよーどう、今度カジマヤーや
たしが。

うぬ人ぬ若さるばー、イキーぬちやーがなー、兼
箇段通んでい言やーに隠きとーるちむえーやるばーて
ー。隠きたぐとう、くれー、また隠きとーしえーわか
とーしえーやー。木ぬ上から登ていはやーによー、兼
箇段ぬんかい。木ぬふぢやーりていよー、くぬ枝から
くぬ枝から、こうやつて行かりーたんで。そのぐら
い、木が茂つてゐたわけ。
また、ウテーんでいしえーよー、沖縄ぬ一番恩どう
所やるばーてー。マジムン所あんしえー、うつた
よー、くぬイキーのちやーや、棒持ちよーしが。ぬ
ーがら、獅子んでいがらー木ぬ枝んかいや、さかさま

* 72 マジエー（マジムン） 妖怪や幽霊など
のたぐい。得体の知れない恐ろしいもの。
不思議なもの。

＊ 73 馬手間 他部落に嫁に行った時の罰金。
税が地租制度であった時代、他部落に嫁ぐ
事は労働力が減る事を意味し、その対価と
して馬手間を嫁ぎ先を求める慣行が生まれ
た。また同じ部落から結婚相手を見つけて
結婚するのが一番の幸せとし、他部落へ行
かせないために罰金を取つた。

なで下がて、幽靈みたいに驚かすんでいち、さくどうよ、今度おまた自分のハカマよ、ハカマ一むんぬきむんやんでい。ヤナムンぬきーし。自分のハカマ脱じやーによ、しぐ、うりひち、かんち、うーいたいでやーに、うぬ、さかさまなどーる下から、ハカマ脱じやーにうーいたいでやーにふきてはいたんでい。あんしやて、この恋しい男ぬはたんかい行ちゆたんでい。

わつたーくまぬ女ぬ親ぬ妹だけどねそのおばさんは。名前は、伊波マツー。石川にまた嫁に行つてよ。去年亡くなられた九十七歳で。

(共通語)

私の伯母になるんだけどね。そのおばさんが兼箇段の人と恋仲になり兼箇段に通つていたのでお兄さんたちが、妹を懲らしめようと木の下に隠れていた。ところが、妹は木の上から登つて兼箇段を行つたので兄さんたちは気づかないわけさ。木の下に隠れているもんだから。その人は赤道ぐわーアンマーといつて、この方生きていればカジマヤーだったんだが。

この人が若かりし頃、お兄さんたちが兼箇段に通うのをやめさせようとしているんだが、妹の方はそうだと知つてるので木の上から登つて兼箇段を行つた。木が生い茂っているので、この枝からあの枝へと渡つて行かれただろう。そのぐらいい木が茂つていただけ。

また、ウテーという所は沖縄でも一番恐ろしい所で、マジムンが出る場所なのだが。この兄さんたちは、棒

も持ち、なにか獅子といったかね、木の枝に逆さまになつて下がつて、幽靈と思はせて驚かそうとしているが、妹の方はまた自分のハカマよ、ハカマは魔よけでヤナムンを退けることが出来るので、自分のハカマを脱いで、すぐそれを引き振り回して、兄さんたちが逆さまになつて下から通つて行つたんだつて。そんなにしてまでも恋しい男の所へ行かれたそうだ。私達のここのが妹だけね、このおばさんは、名前は伊波マツー。石川にまた嫁に行つてよ。去年亡くなられた九十七歳で。

(5) ウテー原の恋女

嘉陽宗喜（大正二年五月十八日生）美里

(方言原話)

「兼箇段に通いしやみらさんあれーならん」でいち、兄さんが考うくさーに幽靈形し、すがやーによ、道んかい立つちゅしがうぬ女おむる恐るさーさんよー。ていーちん恐るさーさんなやーに、あとー、「うりつしまーくぬ女のー驚かんむん」で、やーに、墓ぬ前んかい行じやーに、くぬ、墓、新に開いていよ、人ぬ墓開きていうちやーなかい、うぬ墓から出たい入ちやい見していよ、墓ぬ前から歩ちたんでいくどう。うぬ女ぬ来ねー、墓から出でいちやーに、うりが前んかいない邪魔しがつち。うぬ女お、また、あんたは後生どうやい、私ねー一生ち身やくどう、私ねー上だーやー」

*74ハカマ 女性が下着として用いるはかま。下着は、妖怪を退ける力があると信じられていた。

でいち、ちやー、側から行いたんでい。あんさーに、
「くりがーなー、ちやーしん驕まさらむん」
でいち。わびそーたんだい。

〔共通語訳〕

「兼箇段に通うのを止めさせないといけない」と思つて、兄さんがいい考えを思いついた。幽靈を装つて道に立つて驚かそうと。ところが、女は全く怖がる様子もなかつた。少しも怖がる様子がないので、次に考えたことは、「これでは女は驚かないな」と思つて、今度は墓の前行つて、墓を開けてね、人の墓を開けてから、その墓から出たり入つたりして見せたらしいんだ。墓の前から行き来していたといふからね。その女が来ると墓から出てきて、女の前になつて邪魔したらしい。ところが、その女はどうしたかというと、

「あんたは後生の人でしよう。私は生きている身なので私のほうが上だよ」と言ひながら側から通つていつたので、仕方なく「こいつはもう駄ますことができないな」と、兼箇段に通うのを止めることをあきらめたそです。

5 開牛場

① 開牛場の変遷

桜井清（大正八年十一月二十日生）

大昔の池原村の開牛場は大字池原小字宇計原に在つた。

たと言うことである。池原字屋号蔵ン根の祖父「故島田蒲助」氏誠によりますと、今日の開牛場に移動したのが明治の後期か大正の初期になされたと言うことであつた。

氏の話を総合すると、左の様になる。明日ははつきりしないが、池原村の開牛場はその昔、小字宇計原に所在していた。その場所は現今（一九七五年代）池原字から具志川村字兼箇段に行くときに池原川を越えるがこの川の上に架けられている橋が宇計橋と呼称されている。この橋のたもとに凹地になった畠があるが、この地が昔の池原村の開牛場と言うことである。

「私が推察する池原村及び當村」より

② 開牛場跡

桜井清（大正八年十一月二十日生）

ウシナーが現在のホテルサンゴ園の向かいあたりにあつた。

③ ウシナー

新島キク（大正十年五月二十七日生）

昔のウシナーが現北美小の下のブールの所にあつた。

IV

集落に伝わる人物



空手の名人や力持ちなど武芸に優れていた人のことを「ブサー（武士）」と呼んでいました。

池原にも悪さをする人を追い出したブサーの話とか、人並みはされた人物がいたことにに関する話が伝えられています。これらの話では、時代や住んでいた屋敷跡、武芸を習った場所などが具体的に語られています。

〔1〕 美人と武士が生まれないわけ

美人ゆえに無理矢理首里に連れて行かれる。村人はちはこの悲しみを「今後は美人が生まれませんように」と祈ることしかなす術はありませんでした。次のように悲しい話が残っています。

① 美人が生まれないわけ

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

村の美しい娘が水汲みをしているときに、役人が通りがかり連れ去った。その被害から逃れるために村人は生まれる女の子はすべてヤナカーギーになるように祈願した。それ以後、池原には美人が生まれなくなつた。

〔2〕 スクブ御嶽にまつわる伝説

1 スクブ御嶽について

スクブ御嶽にまつわる伝説

桜井清（大正八年十一月二十日生）

古え池原村に屋号か字名と思われるがガードー驚小と言われる方（この方は、現今「一九七五年代」字登川屋号蔵ン當の御主前）とウースナーカ御主前（この方は那覇泊村の方）、それに、前ん當の御主前（この方は現今「一九七五年代」の池原村の屋号山ん根の御主前）以上三人の方は力が強く武にたけていたと居り、又、知略にすぐれた方達であったと言うことである。（村の指導的人物と思われる）

この御三方が米揚した初穂（ひつぼ）のこんもりした姿に字登川の南前方に在ります琉球石灰岩の丘が似ているところからこの御嶽の名稱が「スクブ御嶽」と言う名稱で

銭作りのトーンチュが池原に住んでいたが、池原の美女に思いを寄せるので青年達が怒りトーンチュを追い出したと言う。そのときから池原には美人も武士も生まれなくなった。

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

1. うりさーに、ガラ一飛ばちてー。スクブンでいし
えーわかいさに、ガラよ、初戴。あれースクブんでい
言んよー。うまうてい、むるあんさーに撫ちちゃーに
うまんかい捨てていやー、あぬスクブ御嬢でいと
くまんかい。

あんし、うまうとい、武勇や習てい、うりから、ま
んかい行かわんくった二三人一緒やたんでいしがよ
ー。メーローブースーどうウーンナーカーウスメー、
カーローベンサーでい。あんし、うまうてい、う
ぬ、撫ちち飲でいうぬいつけーらちえーる朝穀ぬあし
えー、飛び穀あ、わかいんなー。うりがスクブんでい
るばーてーやー。方言えースクブでい言んよー。あ
んしー、スクブぬだてーんまじまつたぐどう、あま
ー、うぬ名ちよーるばーてー、登川ぬ御嬢えーぬ
ーがあまんじ田や作らん、田やねーんむん、うまんじ
スクブんでい言がやーでいぬ人んちやーんめんしー
たんでいしがくぬクヒンぐわーんかい撫ちちゃーに、
うぬスクブーやいつけーらちえーーしーさーに、ま
じまつとーる「チリが積もれば山となる」でいやーに、
あんさーに、あまースクブ御嬢でいみしよーちゃん
でいしが。

あんさーにうりが、うつたーいーほーてーるちむえ
ーやるばー。うにーから、うぬ、「かんしーならん」
でいやーに、うぬ錢ぐわー作やー、くぬ碑文ぬんか
い、石よ、あれ石え錢ぐわー作やーぬ石やんでいよー。
あんさーにうり書ち、くまんかい持つちちー建て
たぐどう、うにーからー良かーきえー出じらんたんで

い。力持ちも出じらんなどーるばー。
本当ぬトーンチューム屋敷え、家ぬめーたんでい
しえー、今ぬミー屋敷んかいくぬ、わつたーはじめー
が入つちょーとうくまんかい、あまー、家、屋敷やた
んでいぬ話や伝てー話でー。わつたーわらばーが養
子入ちよんよー、うまー。わつたー門やしがてー。
あんすくとー、ぬーからくいーからむる、わつたーうつ
さんかいる、みーくちそーいねーそーんどー。

カーローベンサーでいしーーー、意味や、カーロ
ーベンサンでいしーー、あぬ技さがー天井難たい
ぬーさいさくとうへンサでいちよーるばー。へンサで
いねー鹿とーゆぬむんてー、へンサでいしがあしー。
飛び、飛ぶんどうるちむえーカーローベンサー。ウー
ンナーカーウスメーでいしーーー、あれー武勇や、
ウーぬみーうとーい習ちえよーー。あんさーに、あ
ぬ棒さーにてー、あぬウー切らりーたんでー。あんさー^{*}
にウーンナーカーウスメー。メーローブースーでい
しーーー、あれー、竹よー切ちちやーんかい、上び
からバチバチバチバチーし、ブスブスしーーや、や、
メーローブースー。竹かんし割いんでいねー、ブスブ
スブス割りーんよー。あんさーにメーローブースー
ちやたんでー。竹の割いぬ音から名前がちちよーん。
青い竹の節のところはブスブスするよ。



* 10トーンチューム屋敷 トーの人が住んでいたと思われる屋敷のこと。

あたい丁度、うぬ見て一所、なまぬあまやるばーて
一。なまに家や家け一建へいらつとーんよー。上元

小ぬ屋敷ぬ前。家の廻りにウーが植えられていて、ウ

一ヌナーカーつて言つて、屋号はウーヌナーカー。あ

んさーにうまうとーい武芸、武士習らりーるばーて

一、棒お持つちウー切し。(しぐぬーひちんよ、しぐ

手ひちんうぬウーぬ首んたつ切めあたいやたんでい)

あんさーにうぬウーやよ、すぐ立つちよーたんでい切

りとーい。

「うつたー、んだ、いつたー駄ぐわーかちみていんーだ
いちさくとう、かちみてーきさぐどう、ぬーんあらん。

われる祭り。踊り、狂言、組踊と演目が多
彩で、村人の楽しみのひとつである。

* 12 譲谷 譲谷の西海岸に位置する字。現

在の集落は戦後できたもので、戦前は東方

のトリイ通信機地内にあった。

* 13 譲谷山裏名 譲谷は沖縄本島中部の西

海岸に面し、国道五八号線沿いに位置。

間切時代には「諂谷山村」の名があった

が、一九四五年に「山」を削って「諂谷」

となつた。書名は諂谷の字のひとつ。国道

五八号線が南北に走り、沖縄本島南部と北

部を結ぶ要衝の地にある。

* 14 武士 武芸、空手などに優れた者、大力

のある者などをいう。

「いつたーちゅ村しんくたー三人んかいかなーんく
とう、今度おわびさわ、うとういむちさー、でーい踊
いしみていんだ」

「どーかー口ーベンサから出じりー
でいやーによ。くれーうふい若かさたんでいよ。出じ
ていい手い使かやーにうぬ、うわーびぬ天井蹴ていよ、
やぐらかちえーし、天井蹴てーしーしーしこぎさぐ
とう、うま、しんかぬちやー、けー驚どーるちよ、詫
びし、家までいあまから送りむちしおーたんでい池原
までー。うにーからなー、じこー、うといむちさつた
んでい。あぬ役場ぬ前うでいやたんでいしが喜名ぬ。
うり伝てー話どうやくどう。

(共通語訳)

昔、トーンチューがね、錢作りをしていた。今まで

もそのトース山はあるさあねえ。そこで錢作りをして
いたんだつて。その錢作りに関わっている石は今の池
原の石碑になつていてるという話だよ。そこに建てられ

た石碑は錢作りをしていた人に由来するものであるら
しい。これは こういうことらしい。池原の美しい人
にそのトーンチューが悪ふざけをしていた。すると、

「ソシエターえ、いつたー三人んかい
でいちさくとう、タンメーがる、あぬあん武士やみ
しえーたんでい。メースチナーぬタンメーんでいしん。
あぬ、平田んでいしが、うりが呼だぐどう、

そのことを知った池原の青年たちが怒つて、メーロー

ブースー、ウーンナーカーウスマー、カーローベンサーの三人がトーンチューを追い払つた。トーンチューは「このまま追い払われただけではまらん」と言つて、碑文に字を書いて建てたという話を伝え話として聞いているわけ。

また、この二人は魔法を使える人たちでね、魔法。その魔法というのも、ほら、あそこにグシクがあるでしょ、スクブ御嶽という。そこに行つて武勇の精古をしていたわけさあねえ。それに昔は煮た物はお召し上がりにならなかつたんだつて、その方たちは。もつぱらその栗か麦、またそれから米などをしごいてね、福の穂を小瓶に入れて搗き、こんなふうに搗いてそろして穂は飛はして。スクブといものわかるでしょ、穀よ、朝穀のこと。それのことをスクブと言うわけ。みんなそうして搗いたその残りカスをそこに捨ててね、あのスクブ御嶽と呼ばれているところに。

そうして、そこで武勇の練習をしていた。それから、どこに出掛けるときもこの三人は一緒であつたらしいがね。メーローブースーとウーンナーカーウスマー、カーローベンサーの二人。それで、そこでその搗いて飲んで残つたものをこぼした朝穀があるのでしょ、飛び散る。わかるかなあ。それをスクブという意味さあねえ。方言ではスクブという。そのスクブがたくさん積もつたもんだからそこにその名前がついたわけさあねえ、登川にある御嶽に。だけど「どうしてあそこには田んぼもないのにそこにスクブと呼ぶのかねえ」と不思議がる人たちもいらっしゃったというが。このよう

な小瓶に入れて搗いては朝穀は捨てて、それが幾度となく繰り返されたものだから、そこに積もつたものが、「チリも積もれば山となる」のごとくなつたので、それであ、そのことをスクブ御嶽と呼ぶようになつたということであるらしいが。

この三人が銭作りをしている人を追い払つたつもりらしいんだが。トーンチューは「こんなことでは合点いかない」と今残つてある碑文に、「石ね、あの石は銭作りが使用した石だそうだ」字を書き記したものを見てたので、その時から池原には美人も、武士も出なくなつたということである。

本当のトーンチューの屋敷は、家のあつたという場所は、現在の屋号新屋敷で、私の息子が住んでいる所で、そこがトーンチューが住んでいた家、屋敷があつたと伝え話がある。私の子供がそこに養子で入つているのだが、そこは私たちの一門にもなつてゐる。いろんなことを考え合はずと、なんやかんやみんな私たちに関わりがあるような気がするね。

カーローベンサーというのはね、意味はカーローベンサーの人は、あの技をしながら天井を蹴つたりするのヘンサといつてゐる。ヘンサというと應と同じようなもので、ヘンサという鳥がいるでしょ。連く飛ぶという意味合いのカーローベンサー。ウーンナーカーウスマーというのはね、あれは武勇は芭蕉の中で習つてね、芭蕉、芭蕉。それを、棒で切られたらしく名前をウーンナーカーウスマー。メーローブースーというのはね、あれは竹を切つてきてから上から指で

バチバチバチバチと葉っぱを落としていくわけ。そのときにブスブスと音するので、メーローブース。

竹を削るところのようにするとブスブスブスと削ることができよ。それでメーローブースと呼ばれていたんだって。竹を削る音から名前がついたということらしい。青竹の節のところはブスブスするよ。

カーロー（川当）というのは屋号で、メーロー（前當）も屋号。ウーンナーカーウスマーレ이라는 사람은、その人は一人者で、たぶん体格も芭蕉のようだ大きい人であられたはず。丁度、その武芸を習われた所は、今は家が建っているんだが、上元小の屋敷の前になつてゐる。家の廻りには芭蕉が植えられていて、ウースナーカーって言う屋号、ウースナーカー。そして、そこで棒持つて芭蕉の切りかた武芸を学ぶわけ。（すぐさま、なんでも手で芭蕉の首を切ることのできるくらいすごい人であつたんだって）だけど切られた芭蕉は、切れているんだが、倒れることなく立っていたんだって。

それから喜名にアシビを見に出掛けたらしいさあね三人で。アシビは楚辺から来ていたんだって。楚辺から読谷山喜名にアシビが入つてゐたので、この三人は「からかいに行つてみようか」といつてシマから出掛け行つた。アシビを邪魔しに行き、三本の杖を立てて相撲をとらせ戦わせたらしいんだよね、杖を人間のようだ変えて。この三人は術を使えるもんだから。すると、アシビをしていた所の青年たちが、この二人をこらしめでやろうとしたらしいさあ。すると、そこに屋号アガリヌチナースタンマー

という方で頼丈そな人がいらつしやつたらしい。その方が、

「ねえニンシエーター二人ここに来て『らん』

と声をかけた。そのメースチナーのタンメーも武士であられたそうだ。平田という人が呼ぶと、

「どれ、あなたたちの脈を取らせて下さい」

といつて脈をとつてみたらこれは普通の人たちではない。村の青年たちに、「あなたたち青年全員でかかつても、この三人に勝つことはできないから、あいさつをしてから彼らをもてなしなさい。それよりも、踊りをさせてみようではないか」

と言つた。そうして三人をアシビをする舞台の前に座らせ御馳走も差し上げ、「人すつかわるがわる技の披露をさせたらしいさあ。

「さあ、カーローベンサーから出なさい」

といつてさ。彼が三人の中では少し若かつたらしい。

舞台に出て行き技を使つて、舞台の天井を蹴り、やぐらの天井を幾度となく蹴つたりしたら、そこの青年たちはとても驚いて、さつきの無礼を詫びて、帰る時には喜名から池原の家まで送り届けて下さったそうだ。技を披露した後からも、たいそうなおもてなしをうけたそうだ。このアシビは喜名の昔の役場の前でやつていたということなんだが。これも伝え話として聞いたものである。

ら二十歳のころ、お正月でみんなが集まつたときに聞いた話を次のように語つた。

② 三人の力持ち

盛島五郎（明治三十九年十二月一日生）

（方言原話）

で一習ちくみーそりーでいち、ちやーうぬ二カ所、で一ゆーよ、手うさぎてあつきみそーちやくとうで一じな、で一ゆーならつていや、まーぬん勝なーんたんで、うつたー二人入んけー。だー術んやい、武士んやる。あんさーに、あまー本當や、スクブ御嶽んで。うつたーがうさがてーる樹齋よ、山まじめむんねーし、

まじりさくとうや、スクブ御嶽んでる名やるばー。うりんねーし二カ所お良い武士やりーたらりばー。池原、あれ、本當や池原ぬ区域んけーめんそーやーに、池原ぬ人ぬ、だー、うれーぬーとーるばー。スクブ御嶽たん。あんさーくぬ登川前んけーある御嶽や、スクブ御嶽んでいし、あれー、あつた二カ所あまうてい神ぬ手習つていよー、昔え。なー、あれ一千坪余いんよー御願の一。戦ない、アメリカーが敷きくるさーにどうあんなどーるばーどうやどう。また、あるちじひぢゅるうつさーる体痛でいよーアメリカーいや、むるかからんたんで。車さーすぐ、戦車んちんけーらさーに、ちゆまーるむるしらくらちよー、しちやんでいちよん。

* 15 庵 沖縄では中国のことを時代が変わつても庵と呼んだ。

* 16 支那 外国人の中國に対する呼称。

* 17 武士 武芸・空手などに優れた者。大力のある者などをいう。

* 18 御嶽 神を祀つてある所。

* 19 神の手 「手」は武器を使わずに裸身をはかる武道空手のこと。聖地で武芸の稽古をしていることから、神様からの力を授かっているということの意味と思われる。

* 20 200kg がし 水につけておいた米をすりつぶし、水にといたもの。

* 21 読谷山 沖縄本島中部の西海岸に面し、国頭五八号線沿いに位置。間切時代には「読谷山村」の名があったが、一九四五年に「山」を削って「読谷」となった。

* 22 座喜味 読谷村の字の一つ。

* 23 芝居 アシビのこと。一年の豊作を感謝し、来年の豊作を予祝する祭。祭りを行つてアシビナーに舞台を作り、踊りや、相撲などが上演される。

* 24 棒 備は厄を払うといわれ、アシビの最初に演じられる。棒は集团でいろんな隊形をつくり満じるもので、特別なときに行われた。

* 25 シク 鹿喜味城のこと。

* 26 沖縄相撲 沖縄相撲は四つに組んだところから始まり、相手の背中を土俵についたら勝ちとなる。

ぬーがんーあれー、昔えなー精米でいねーんしえーやー、チヨーカサーけー、米え刈つてめーるんさーやー、うりかい初入つちあらしーとい入つてい、撃ちついてよー、米くがしうさがでいやー二カ所、メーローウスメーから、カーローベンサー、ウースナーー二カ所。あんさーに、米くがしうさがでいやー、ちやー手うさーい、儀軸術、術でー、術ま

んかいむる寄でい來やー、さくどう、うつた一やグ
シクうてい手たちよーぎさん。あんさーにまた、読

【中踊いやいったーしちどうらさんな】
谷山楚辺迎んけー八十餘いみしえーるサー・ダカはるい
一年寄めんしえーたんでい。【くれーむんやつさー】

* 27 楊辺 談谷村の字の一つ。
* 28 サー・ダカはる 電力の強い人

* 29 中踊 豊年村芝居のプログラムのなか
で、中盤に行われる芸能。

* 30 手や使かやーに 空手演武をみせるこ
と。

でいち、なーうつたーんかい手(てい)たたちえー
んでい。【えー青年たー下りていちんでい】
でいち下りてーるぐどーん。

【だーいつたー心臓触ていんだ】
かんし心臓触てーみしえん。なー、よんなーよんなー
どうかんし、うちめたんでいや、
【どーわつたー楚辺しんかぬんやー、いつたー二カ所
んけたーならんくどう、どーりんいったーや武士やくと
うや、今日やアシベーくじらはんよーい、いつたーや
うとういむちすくどう、あー一番前んかいなち見しー
くどうや】
重箱すがい出じやち、二カ所んけーうさぎていやー、
あんさーに、
【どーりん、くぬ相撲あ止みらちアシビからしみてい
とうらし】
んでいちさくどう、
【おー】

* 31 青年頭 現在の青年会長に相当する。

【中踊えーわつたーさびらい】
でいち。あぬ始めー、カーローベンサーが出してい
よ、手や使かやーにやー、うつとうんじ天井んじた

づくわーいていやー、だー術やくとう、
【エイ】
みかさーに術ちかてい、上んかいたづくわーしさくと
う、

* 27 楊辺 談谷村の字の一つ。
* 28 サー・ダカはる 電力の強い人
* 29 中踊 豊年村芝居のプログラムのなか
で、中盤に行われる芸能。
* 30 手や使かやーに 空手演武をみせるこ
と。

【中踊えーわつたーさびらい】
でいち、あぬ始めー、カーローベンサーが出してい
よ、手や使かやーにやー、うつとうんじ天井んじた

づくわーいていやー、だー術やくとう、
【わんねーくまどうやんどー】
でいたんでい。だ、上どうやくとう。あんさーに、ま
た、下りていつちや、

* 27 楊辺 談谷村の字の一つ。
* 28 サー・ダカはる 電力の強い人
* 29 中踊 豊年村芝居のプログラムのなか
で、中盤に行われる芸能。
* 30 手や使かやーに 空手演武をみせるこ
と。

【私手並みねーなーあんすしが、わつたー二三人兄弟や
な、なーめーめーしめるふあるやくとうや、私手並
えうつさやいびんどー】
でいわ、ぐりーしょーるぐどーん。また、ウーヌナー
カウスマードがや、

【んだ、あんしえーまた、なま私出じらひー】
でいち、あんしえーまた、なま私出じらひー

【青年頭 あ誰やが】
んさーに、中踊いぬあてーくどうや、うぬおじー、
越邊おじーぬサーダカはぬ人ぬ
でい、なー人ぬ頑丈やるばーゆばげてい

「と、いややや、芭蕉ウーや根から壊ちくよやー」

んでい言ちや、

「うさん立派切つち立ていりんでい。倒りらんぐとう
し立てりんでい」

言ちよ、だ、うにまでぬ芭蕉や、いや、バサナイ本(ぎ
ー)、うぬ、くりびかーあたん、立派ん切やーに立つ
たくどうや、動かんばー。

「だー、私棒使かて見しらー」

でい言やーに、棒使やーに、

「エーニンセーゲワー」

でい言ちやぐどう、うーうれー立派ん切りとーるばー。

うーなれーおーかんし、倒りらん立つちよーてーんば
ーでー。棒さーい切つちえーあしが、なー、切り口ん
なー、かんし立つち、まーがらーわからんてーるばー

術かきらつとーしえーやー、武士どうやくどう、

「いつたーや、くれー切りとーんなー、切りてーねー
んなー」

ちやくどう、
「切りてーねーびらん」

言たんでー、
「とー一人さーにいーかし相ちみていひつたいでー」

いーぬ青年ぬ二人し掴みていひつたてーくどう、だ、
切りてーるしえーやー、

「不思議しーむん」

でいたんでー、
「とー私手並えーうつさやんどー」

でー、私ねーまた、ゆつくら、ゆくとーるばー、二人

やなーゆくらつとーる。また、メーローウスメーおじ
ん、またうりやんたんでー。

「とーいつたーマータク切つち来ー」

でいぢやー、マータク。あんさーに手や使んなまた

「マータクよ、葉むる落どうふなよー」

でい。あんさーに葉しーてい持つちえーるぐとー
ん。な、くまんカンスイでいやくどう、よー手さーに

かんし、葉むる落どうちや、かんし、バチバチし割て
一ぎささん。

「私達手やイランやかん強はんどー」

あん言たん。かんし、バチバチし割たぐどうや、

「不思議むん」

でいぢなし。三カ所なー強さるあしえーや、ひさまん
ちゅうーかきていよー、うつたー前んけー。あんさー

に、
「うんじゅなー手ふどうん立派に拌でいにふえーえい
びん」

でいち、一番前んじいしららーに、御馳走んじゅみて
いはつたでいめんしょーちよーたんでー。うぬ、ウー

ヌナーカーから、カーローベンサー、メーローウスメー
二三人。あんすかぬちゅうばーやたんでー、武士

あんすくどう、術かきーる人およー、あんすかー
長命えんーだん。あらん、まーぬ因んあんやん。う
れーよー、いーむのーあらん。人騙すしえーやー、悪
い、術かきやー、あんやんでー。

(共通語訳)

ウースナーカーとね、メーローウスメー、カーロー

* 32 芭蕉 芭蕉科の多年草木。沖縄には繊維
をとるリュウキユウバシヨウ、糸芭蕉があ
り、ウーとも言う。

* 33 マータク 竹の一種。

ベンサ一の三人はね、昔の池原の、現在呼ばれている
唐というのは支那ね、そこからいらっしゃった頃から
(トージークラマーによ) いそな武士であられた
そうだ。それで、その登川の前にある御嶽ね「スクタブ
御嶽」と呼ばれているもの。あの御嶽は三人の人達が
あそこで神様から手ほどきをうけた所でね。昔、それ
に、その広さは千坪余りあるんじやないかなあ御嶽
は。戦争の時にアメリカ人が敷きならしたので今はあ
んなふうになつてゐるのだが。また、あの御嶽の頂
を敷きならす者はみんなことごとく貝合が悪くなつて
ねアメリカ人は、それで、全部敷きならすことはでき
なかつたんだつて。車や、戦車などすぐ、ひっくり返
されたりして、一度で全部壊されたということらしい
んだが。

術も使うし、そのうえ武士でもあられるから。それに本當は「スクブ御嶽」という。その三人がお召し上がりになられた朝ガラがね、山のようすに積まわされたことから「スクブ御嶽」という名前がついたんだと。このように三人は良い武士であられたということらしいんだが。池原、あれは本當は池原の区域に属していって、池原の人達との間わりがあるわけ。スクブ御嶽にいらっしゃる神様あれは、すごい武士であった。

詫谷山陣営で足利が行なわれた時ね、その二人が多居を見に出掛けられてね。昔はアシビする時に催されわる棒巻というものがあつたわけさあ。棒の演技をする人達が、棒巻を終えてから棒を括り立てて置いてあるものに、その三人がグシクに登られて

どうしてかというと、あの御獄は、昔は精米という

どうしてかというと、あの御嶽は、昔は精米というのはないさねえ。お椀に、米を刈り取つていらっしゃったものはね、そのお椀に水を入れてね、穀物の中にまじっているのも全部入れたまま揚がれてね、水につけておいた米をすりつぶし水にといたものお召し上がりになられたね、三人とも。メーラーウスマーカーから、カーローベンサー、ウースナーカーの三人。そうやって、クミクガシをお召しあがりになられたね。もう、いつもその時には御嶽に手を合わせて催眠術、術ね、「術を教えて下さい」とたいそう武土の二人は手を合わせて折つてから始められていらっしゃったので、たいへん力持ちになられて、その三人に勝つことの出来る者はいなかつたんだと。なぜかというと、

「今日はアシビよりも、この棒に術をかけて相撲をと
らせてみようではないか」

棒に術をかけてね。すると、アシビを見る人より相撲を見る人が多くなり、相撲をしているところに見物人がみんな寄つて来てね。その三人はグシクの上から手をたたいて楽しんでいたらしい。その様子を見ていたら、諏訪山辺の方で八十才余のセジ高いお年寄がいたらしく、その人が「この人たちはただ者ではない」と思った様子。そして、

「ねえそこの青年たち下りてきてください。

と声をかけたらしいさ。三人はグシクから、

「はい」
と返事をして下りてきたり。

「どれ、あなたたちの心臓を触らせて下さい」

と心をおちつけ、そろそろと心臓に手をやつたそうだ。

私たち楚辺のみんなでかかっても、あなたたち三人の武士には勝ち目はない。どうか今日のアシビがどこ

こおりなくすむように、一番前に座をもうけもてなし

ますので」

と重箱のご馳走を三人に差し上げた。そうして、

「どうか、この相撲は止めさせてアシビを続けさせて下さい」

とお願いすると、三人は、

「いいですよ」
と快く引き受けました。その三人にとつても喜ばしい

ことなので。

中躍りになると、さきほどセジ高い楚辺のおじいさんが三人に向かって

「中躍りはあなたたちにやつてもらえませんか」

と声をかけられた様子。三人は、

「はい、いいですよ私たちがしましよう」

と答えました。ほら、この三人は術が使えるので何でも出来るでしょう。それで、

「それなら中躍りは私たちがいたしまようねえ」

と言つて。始めはカーローベンサーが出てね、技を使い、すぐさま天井に飛び上りはりついた。

「エイ」

と掛け声をかけて術を使い上に張り付いたので、

「あれ、どこだ。そこで技を使っていた人は何處にい

かれただろう」

と目をキヨロキヨロしていると、

「私はここにいます」

と答えた様子。ほら上にいるから姿が見えなくなつていたわけさあねえ。そこから下りてきて、

「私の手並みはこれで終わりです。私たち三人兄弟、

それぞれの技を見せたいので、私の手並みはこれで終わらせていたときます」

と言つてお辞儀をしたらしい。今度はウーヌナーカウスメーが、

「それでは私がやりましよう」と

と言うやいなや、

「青年頭は誰ですか」

と一人の頑丈そうな青年を呼んで、

「さあ、あなたは芭蕉を根こそぎここに持つてきて下さい」

と言つて持つてこさせた。そうして、

「倒れないようにちゃんと立てて下さい」

とお願いした。その当時の芭蕉というものは、バナナの木はこんなに太かった。ちゃんと立つようにと立派に切つたものだから、びくともしないわけ。

「それでは私の棒使いを見せよう」と

と言つて、棒を使って掛け声もいさましく、

「ハイ、ニンシェー」

と言うと同時に棒を振ると、芭蕉が立派に切れていった

んだと。芭蕉はなることもなく、ちゃんと倒れない

で立つたままであつたんだと。棒でもつて切つてあるのだが、もう切り口もわからないほど、もの今までちゃんと立つていた。術をかけられているのでわからぬわけさあ、武士もあるし。

「あなた方はこれ切れていると思うかどうか」

と青年たちに聞くと、彼らは、

「切れていません」

と答えたそうです。

『それでは、一人で上の方を持ち上げてごらん』

と言われるので、その青年一人が言われた通りに持ち上げてみると、切り口もあざやかに切られていたので、

『不思議なことだ』

と言っていたそ�だ。

『私の手並みはこれだけです』

といふ休まれた。先に技を見せた一人カーローベンサードウースナーかウスマーメーは休まれていた。最後のメーローウスマーメーもまた青年に、

『マータク取つて来い』

と言いつけたそ�だ、マータクを持つてこいと。そう

してその竹に手をつけないで、

『マータクは枝をつけたまま葉を落とさずに持つてきなさい』

と言われたので青年らはその通りに葉つぱごとそのままで持つてきたそ�だ。メーローウスマーメーの指先はカミソリのようにならかだったので、指で竹をしごくように葉を落

とし、バチバチと枝を落としていったそ�だ。

「私の手は鎌よりもすごいんだよ」

と言つておられたそ�だ。バチバチと竹を削つたので、

「不思議なものだなあ」

と感心した。三人ともそれぞれに強いで、楚辺の人たちはその三人の前に正座をして、そうして、

「あなたたちの手並みを十分に見せていただきまして有り難う御座いました。」

とお礼を言い、一番前に座らせ、御馳走も十分に出して差し上げられたんだと、そのウーヌナーカー、カーローベンサードウースナー三人に。こんなにもなしをうけられるくらいのすごい技を持っていた人たちであられたんだって、すごい武士。

だけど、術を使える人はね、そんなに長生きはしないんだってよ。それは、どの国においても同じことがいえるわけさあ。ようするに術を使うということは、けつして良いことではない、人を騙すさあねえ、悪い。術を使える人はそららしい。

③ 三人の力持ち

島袋新栄（明治三十二年七月十四日生）

（方言原話）

ウーヌナーカウスマーメーとう、カーローベンサーグワ

一みちきしがうやーに、読谷楚辺に村芝居ぬあやーに、

村芝居見じーが行じよーたんでいしが。うつたーが、

なし、手使かていぬーきいすんでいやーに、見しらら

んな、うつたーむんどう見じめる アシビ見じめる

人おうらんでいやーに、

「はーつ。あつたーとうとうぬきらんあねー、くぬ、
芝居あならんぐどう」

んでいち、楚辺ぬ部落民ぬちやーやか、皆協議さーに。
でーじなまぎ部落やんよーまた、楚辺んでいしょー。

あんいち、そーんでいしが。あんさーに、
「待つちょーきよー、あんすらー、だー、
あまぬ年寄ぬ出じやーに、

「だー二歳たーまじ、胸うすていんだいー」
でいち、あんし、胸うしたくどう、胸動かんぐどう、
「なつたー一部落さーに、あん一人んでーならんぐと
う、あつたー、取り持ちやーに、あんし、あつたーん、
立派に芝居見しーるぐどう、取り持ちゆるましや
る。自分な、一部落さーに、あつたー二人んでーなら
んどーやー」

でいいぬ話ぬあやーに、あんさーに取り持たつて、
楚辺ぬ部落ぬ芝居立派にどうじゅみたんでいぬ。

うぬ話ぬ分どう聞ちよーるばーやんなー。

（共通語訳）
ウーヌナーカウスマード、カーローベンサーグワード
という目付け役がいた。誠谷楚辺で村芝居があり、村
芝居を行っていたらしい。その一人が空手の術
を披露していると見物人はこの二人のほうに目が行き
アシビを見る人がいなくなつた。

「はーつ。彼らをなんとかないと村芝居ができなく
なる」
と、楚辺の区民の人たちは皆集まり協議した。楚辺と

いうところは、たいそう大きな部落なんだ。そこで、

「待つてよ、もしかしたらー、
と楚辺の年寄が出てきて、

「どれ、青年たちよ胸にふれてみてもいいか」

と断り胸をさわってみると、胸の鼓動がないので、

「私たち楚辺の一部落で一人と戦つても勝ち目はない
から、あの方達に芝居を見せて、もてなしたほうがい
いよ。私達の一部落でかかつても、一人には勝つこと
ができるないよ。」

とお年よりがいうので、二人はそのように丁寧にもて
なされ、楚辺の部落の芝居もちゃんと終わることがで
きたんだ。

そんな聞いた話の分だけがわかるんだよ。

④ 三人の力持ち

仲里マスイ（明治二十五年三月十日生）

（方言原話）

話やかんしやたるばー。池原ぬ村あ、ウーマクがや
たらー、うぬ、

「カーローベンサーグワード、ウーンナーカーウスマード、シ
リーランカジヤーんでいちめーてーちんどーやー」
でいちぬ話や聞ちやるばーてー。うれー、ぬーがやみ
しえーたらー、わからんばーてー、わつたーがー。た
だ、うぬ話やあたるばー。

（共通語訳）
こんな話だったんだよ。池原の村の人は負けず嫌い

者だったのか、驚きもしないからね、「カーロー・ヘンサグワ、ウーンナーカーウスマーリー、シリーランカジヤー」と言う方々がいらっしゃったよ」という話は聞いているが、その方々がどういうことをなさり、何であったかと言うことはわからない。ただ、そういう人たちがいたことは聞いたことがある。

(5) 三人の力持ち

玉元栄松（明治四十一年一月十日生）

私もこれはもう、若いときにおじい達から聞いたんですけど。そのカーロンベンサンというのと、若いあの、もう一人の武士が二人おつたらしいよ。その一人がね、あ、読谷の方とか、あつち行つて向こうの方ではある、踊りねー、舞踊つていうものがあるでしよう。いや、昔の組踊とかなんとか。そういう踊りのときに、その二人が行つてね邪魔したらしくよ。そこで青年達がね、こいつらはもう、部落の舞踊邪魔してやつとるんだから、もう絶対許していけない。」

と。そして青年達が怒つてね、一人を問い合わせて殺すと言つてね、やつておつたらしいけども。そこがまたあの、むこうの年寄りの人がね、その二人の若い男ですね、「ちょっと、胸触らしてくれ。」

と言つてね、それでやっぱり年寄りのね人が、この胸をあてて、手えあててみたら、何とも、もー怖いよう

なこともね、驚きもしないからね、「これ達はね、部落中かかつてもこの二人にはかなわないから是非乱暴していいない。」

と、そのおじいがね乱暴させないように。やめたならね、最後にね、

「そうかね！、そんなに強よいかね！」

と言ってね。

それで、最後にその二人の舞踊ね、皆に踊らして後から、

「とー、あんた方が出来るだけの舞踊やつてくれ。」

つてつてね。んで、最後にね、その一人がね、踊つてさー。あのう、サヤとかまたあれ、あるでしよう。

そういうものを踊つて、そんで最後にね、まあ槍さー、その槍を取つて二人こう突き合つてやつておるけど、誰も怪我する人もいないもんだから、もうこれらにはもう、部落中かかつてもかなわないから、やめてくれつて。

して、そこでまあ、その踊りを見て後、非常に御馳走になつたという話。はい、

「カーローベンサー」とウーンナーカーウスマーリーは今から四代くらいの前の人たちで、一人のことについては、池原の老人の方々は今でも良く話をすると、ほんどの人がしつているよ。」と樅下さんは次のように話してくださいました。

* 34 読谷 桃谷村のこと。本島中部。
35 組踊 音楽と舞踊、台詞で構成された沖縄独特の伝統演劇。

(6) 三人の力持ち

松下栄吉（明治三十五年一月十五日生）

芭蕉の中に家があったんだよ、小屋を造ってね。だから、ウースナーカーという。芭蕉が茂っているところに家があったからウースナーカーと言われた。また、

もう一人は、カーローベンサーという、ヘンサというのは、今、鷺、鷺に似たものでヘンサという鳥あれ何ていうかな。芭蕉より少し小さめで、あの鳥のように身が軽いということでその名がついている、カーローベンサー。

その一人が出てくると、村中の人でかかっても勝つことができる。どここの部落へ行つても、二人にかなう者はいなかった。ウースナーカーはね棒を使い、芭蕉があると、その芭蕉を打ち倒すが、「見た目には」芭蕉はそのまま立っているんだ。そこで、「さあ、若者たちよ。私が打ち倒した芭蕉はどうか探してこらん」

と言われて探しても、どの芭蕉なのかわからない。それで

「それなら私が棒で打つたものを手で押してみてこらん」

と言うので、その通りにしたら、芭蕉はみごとに倒れた。それくらい棒術に優れた人であった。

今のバナナの本ね、それも棒で打ち倒すが、それも倒れることなくそのまま立っていた。

「なんということだこの人は。芭蕉を棒で打つていた

はずだが……倒れない」

それくらいの勇武に優れていた。ウースナーカー、カーローベンサーというの。今の棒を使う人が、彼らと同じように芭蕉を打つても、芭蕉の表の皮をかするだけだよね。

(7) ナカグラニーヘンサ小

仲宗根盛雄（明治四十三年九月十五日生）登川

（方言原話）

ナカグラニーヘンサ小。すぐ、人ぬ前から飛び立つ
ちんよ一人のわからんたでいる。あんし、うりが、
あんまり、早業なやーに、隼んでい、ヘンサ小んでい
ちちきどうーたんでい言いや。

あんし、綱引きどうか色んな行事ぬあいねー、飛で
い行じやーに、旗頭ぬ上んじ登いたんでい。飛でい行
じろー、旗ぬ。うんぐどう、かねーんでいしが、また、
「盗人どうーい。」しーねー、盗人ぬ其處うてい、ふる
ふるしーねー、きつき、飛でい行じい、門んでい待ち、
あんし、かちみでーる話やあしがろー。

くりが、だ一家や、家ん名や、何処がやら、わから
んしが、あんしる、うまんかい問ういるばーるやんで
し。ナーケークニーどうやんない、ヘンサグワーンでい名
やあんよー。ナカグラニーヘンサグワー。

（共通語訳）

ナカグラニーヘンサ小は、すぐ人の前から飛び立つ
でもよ、あまりすばしつこいでいいなくなつたか

分からぬほどであったそうだ。それで、これがんまり、早業なので隼、ヘンサ小つて呼ばれていたんだつて。

がそのウガンジュの石に座った。生徒が、「あ、校長先生、その石は神様だよ」

そして網引きとかいろんな行事があると、飛んで行つて。

そして綱引きとかいろんな行事があると、飛んで行って旗頭の上に登りよつたそうだよ、飛んで行って

と言つて、その神石に小便をしてしまつた。

また「盗人だー。」と声がすると、ヘンサ小はすでに

飛んで行って、門のところで待ち構えていて捕まえた

という話もあるんだが。

この方の屋号はなんていうのかわからないが、それで、なんという屋号なのが聞いてるんだよ。ナーウク

で、なんという屋号なのか聞いてるんだよ。ナーケーというんですか。ハンサグワーという名前はある

二一といふんですか。ヘンサグワードという名前はあるんだが。ナカグラニーヘンサグワードという。

3 スクブ御嶽と野村校長

①スクブ御嶽と野村校長

松下栄吉（明治三十五年一月十五日生）

ここは元は美里尋常高等小学校とあつたんだよ。しかし、校長の始まりは、野^の村校長と言つて鹿児島の人だつた。僕らが二、三年まではいらつしやつたんですよ。

「ああ、そうだ」
と答えたそうだ。ユタは、

「これは神様に無礼になつてゐるから、手を後ろにまわし縛りあそこであやまりの祈をささげないといけな

四三

と、おじいさんがそう言い簡単に手を後ろに縛った。そして押収に行き宿泊の所でござる。するべく、だら

まちのうちに腹の痛みは治つたそうだ。



野村校長と妻

* 36 野村校長 明治十五年に美里小学校創立。創立当時の校長先生の名前は野村成泰といふ。

そのときから校長先生とそのおじいさんは仲の良い

「沖縄の石は全部神だから、座つてもならない、小便してもならない」
と、生徒達にも毎日そう教えるようになつた。

② スクブ御嶽と野村校長

鳥袋新榮(明治三十二年七月十四日生)

明治十五年美里小学校創立當時、内地から野村春養という校長先生がいらっしゃり、その校長先生がスクープ御獄のウガンジユに小便をして腹を痛められた。近

「あなたたは御洋様に小便をやつたね。その罰で腹痛を起さしているんだよ」
といわれた。校長先生はさつそくスクブ御嬢に行き謝る腹痛が治った。校長先生は
「沖縄の米は物を言うねえ」
という話がありました。

③ スクープ御殿と野村校長

平田嗣光（大正六年五月五日生）登川

美里小学校が出来たときに、そのときの校長は野村

茂っていたんでしようねえ。で、鳥たちが自然に集まるもんだからそこを獵場としていた。ある時、小用をもよおしたときには、拌みの香が石が三、四個あつたんですが、それに向かって小用をたした。そうすると、もう、あつという間に睾丸が腫れ上がつていたくて止まらない。とりあえず家に帰り「アキサミヨ」（誰か助けてくれー！）

して痛がっていた。タタリではないかと思い、隣に住んでいる物知りを尋ねると、

「あなたはスクブ御嶽に行きましたね。そこで、どこか、聖城に行きませんでしたか？」

「スクブ御嶽に行きましたよ」

卷之三

「そこに、石があつたからいい

「そこに、石があつたからいいところだと思い小用した。すると、たちまちのうちに痛くてどうやつて帰つた。

たがれからな
と、うと、

「早速行つてウグワンしないと大変なことになる」

ということで大騒ぎになり、その人と一緒になつてウグワンをした。すると、痛みもなくなつた。その時から

と言って、石があるたびに手を合わすようになった。

[3] 池原祝女

①ノロと島袋一門

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

トーヌ山というのが最初出来た意味は、こつちは松下でしよう。マチサだーるわけ。そしてね、こつちに

スルの十三代の立ち口の神様ヌル勤めている人がいらっしゃるわけね。この人からの私達は子や孫になつてゐるわけね。して、この人が、この部落作るために島袋さんという人が最初いらつしやるわけですね。

その人と相手して作つたのが根屋だーるわけ。その根屋がこの前のお家なんですけどね、神屋という。こつちより一番古いカミヤーつてないわけなんですよ、池原の場合でですよ。

そして、このヌールが池原の係りとして、シーシャ

1には一番上の御香炉はね、南山に拝みするウコール、また、二番目のコールは北山、して、三番目がこの部落を創つたというふうにシーシャと、ガンといつて、戦前のコー、あれどあてられて作つたのが、この三つ仕立てた人が、このヌールと島袋さんという方と。で、この島袋香炉が四番目。あと三つ香炉があるんですが、全部で七つあるんですが。あと三つの香炉はね、この部落でね、この香炉を供養する人がいないもんだから、ウマリングワが救い上げてこっちに預けたつて。三つは、そういうふうなものがあるわけですよ。全部拝むわけではないですがね。サンミンを取り

切れない人はみんな拝むわけよ。この三つは本当は拝んではいけないわけよ。このノロの名前がカマド名だよ。男の名前が島袋。そして、二人で、雨が降らない場合にお祈りする所がトーヌ山って作つたんです（トーヌ山に唐人のジンチュカヤーが（錢作り）が住んでいたといわれる。今の北美小の所に碑が立つてある。伝えなしで本当かウソかわからない）。

こつちは御嶽なんですけどね。最初の御嶽はス

クブ御嶽つてあるんですよ。この、登川の部落の前に

部隊があつたんですけどね、そこにスクブ御嶽つて

あつたんですけどね。こつちに神様が下りていらっし

やる場合は、この人がカマドー、ノロをした方がね話

は聞いて拝むところだつたんですつて。それで、昔、

ウマチーなんか、兵隊に行く時なんか、こつち拝んで

しかできなかつたつて。そしてね人が多くなるでしょ

う。最初、島袋一門しかいないさあね。その島袋一門

が造つた最初の泉がメースカーの一番地。一門があつ

て始めて造つたカーが一番地とかあるわけですよね。

そして、この部落に水あつてしか頼つてこないさあね、

人間は。そいで、この川がね、ウフガートて言つてみ

ラガー。ウフガートだーるし、ムラガートだーるし、

これがカニムトウの下にあるわけですよ。最初、人々

が、水を頼つてここに来ますよね、そして、子供が生

まれると、また、別にウブガートナラビあるんですよ。

こつちがウブガートというふうに造られているんですけどね。そして、こつちに神アザギツと言つてあるんですけどね、こつちは、また、村火ぬ神がある。

* 38ヌール（ヌール） 王府が、各村に任命して村落の祭祀を司らせた神女。

* 39ウマリングワ 霊力高い生まれをしている人で、神役の役目を果たす。

* 40サンミン 計算する事の意味だが、民間信仰語では、神の教えを開くこと。

* 41部隊 沖縄市登川にあった海兵隊基地キャンプヘーネのこと。一九七七年に返還された。

トーヌ山というのが最初出来た意味は、こつちは松下でしよう。マチサだーるわけ。そしてね、こつちにスルの十三代の立ち口の神様ヌル勤めている人がいらっしゃるわけね。この人からの私達は子や孫になつてゐるわけね。して、この人が、この部落作るために島袋さんという人が最初いらつしやるわけですね。その人と相手して作つたのが根屋だーるわけ。その根屋がこの前のお家なんですけどね、神屋という。こつちより一番古いカミヤーつてないわけなんですよ、池原の場合でですよ。

そして、このヌールが池原の係りとして、シーシャ1には一番上の御香炉はね、南山に拝みするウコール、また、二番目のコールは北山、して、三番目がこの部落を創つたというふうにシーシャと、ガンといつて、戦前のコー、あれどあてられて作つたのが、この三つ仕立てた人が、このヌールと島袋さんという方と。で、この島袋香炉が四番目。あと三つ香炉があるんですが、全部で七つあるんですが。あと三つの香炉はね、この部落でね、この香炉を供養する人がいないもんだから、ウマリングワが救い上げてこっちに預けたつて。三つは、そういうふうなものがあるわけですよ。全部拝むわけではないですがね。サンミンを取り

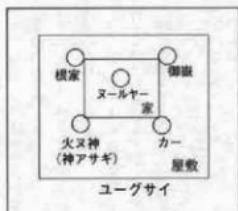
例えればよ、こつちがヌールヤーでしよう、ニーヤでしよう。御嶽、火ぬ神、カー、この五つあるさーね。この五つに例えればさ、真ん中に柱があつて、四柱建つでしよう。これは家に例えられているわけさ。最初は家に例えられて、そして、屋敷は四つの角から出来ているでしよう。これはまた、屋敷にはめられているわけ。最初は屋敷は村、国、ユーグサイといつて三つしかないわけ。あてるのが、その三つ当てるために、香炉も三つ必要なわけさ。御天、ジーチ、童宮神、三つはそういうふうになつてゐるわけ。人の家というのを考えると、四つ、主でも四つ柱を建てないと建たないというでしよう。「ごめん下さい」というと、ヌールが「はい」というでしよう。ヌールにあてられているわけ。火ぬ神、御嶽、ンブガーつて、こんなして、この五つあてられているわけ。これが一鎖（一組、一つながり）。一鎖というのは、家の四つの角に中軸あつて、ようするに、家は四つの柱と、真ん中に中柱がないと建つことができないでしよう。香炉もなににあて拌むということがならないといけないわけさ。こ、順番に。これがわからないと。拌みができるよ。いつでも、自分の家があつて、屋敷があつて、部落あるというのは、この、四つと五つはなにあてられているかーと言つたら、ヌールヤーさあね、村根屋、神サギヌ火ヌ神（村火ぬ神）、御嶽、カー（ウフガー・ウブガー）、この五つは一鎖といつて、頑に入れておくわけさ（下図参照）。自分の家を拌み、村を拌み、国拌みという二つ覚えておいたら大丈夫。

② ノロの繼承と役割

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

ノロの最初は按司の娘で越前間切に生まれた。そして、次の部落が出来て二番目に生まれたのが知花だと思います。また、池原が大きくなつて池原のノロは三番目に生まれたんだって。主に大体中部代表としてこの三名しかでなかつたんだって昔はよ。人口が増え、このカマドウノロが生まれたのが「あなたは子ぬ方ぬ係りしなさね」と言ってまた、ヌールが生まれたそうです。そこで、また、次も卯ぬ方の御廟所建てでです。そのまた、係りを生まれさせたのが、このカマドウなんですよ。そして、次にできたのが、牛ぬ方の係りが三番できるわけですね。次、四番が西ぬ方これだけは、どうしても池原ではヌールが出来るみたいよ。そのまた、係りを生まれさせたのが、このカマドウなんですよ。そして、次にできたのが、牛ぬ方これだけは、どうしても池原ではヌールが出来るみたい感じです。

*42ニーヤ 根屋。地域の始祖となる家。
*43御嶽 神を祭った聖地。



[3] 池原祝女

①ノロと島袋一門

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

トース山というのが最初出来た意味は、こつちは松下でしょう。マチサだーるわけ。そしてね、こつちにヌルの十三代の立ち口の神様ヌル勤めている人がいらっしゃるわけね。この人からの私達は子や孫になつてゐるわけね。して、この人が、この部落作るために島袋さんという人が最初いらつしやるわけですよ。その人と相手して作ったのが根屋だーるわけ。その根屋がこの前のお家なんですけどね、神屋といふ。こつちより一番古いカミヤーつてないわけなんですよ、池原の場合はですよ。

そして、このヌールが池原の係りとして、シーシャ

1には、一番上の御香炉はね、南山に拝みするウコール、また、一番目のコールは北山。して、三番目がこの部落を創ったというふうにシーシと、ガンといつて、戦前のコー、あれとあてられて作ったのが、この三つ立てた人が、このヌールと島袋さんという方と。で、この島袋香炉が四番目。あと三つ香炉があるんですが、全部で七つあるんですが。あと三つの香炉はね、この部落でね、この香炉を供養する人がいないもんだから、ウマリンガワが救い上げてこつちに預けたつて。三つは、そういうふうなものがあるわけですよ。全部拝むわけではないんですがね。サンミンを取り

切れない人はみんな拝むわけよ。この三つは本当は拝んではいけないわけよ。このノロの名前がカマド名だよ。男の名前が島袋。そして、二人で、雨が降らないよ。場合にお祈りする所がトース山って作つたんです。（トース山に唐人のジンチユカヤーが（錢作り）が住んでいたといわれる。今の北美小の所に碑が立つてある。）

こつちは御嶽なんですけどね。最初の御嶽はスク

ブ御嶽つてあるんですよ。この、登川の部落の前に部隊があつたんですけどね、そこにスクブ御嶽つてあつたんですけどね。こつちに神様が下りていらつし

やる場合は、この人がカマドー、ノロをした方がね話は聞いて拝むところだつたんですつて。それで、昔、ウマチーなんか、兵隊に行く時なんか、こつち拝んでしかできなかつたつて。そしてね人が多くなるでしょ

う。最初、島袋一門しかいないさあね。その島袋一門が造つた最初の泉がメーヌカーの一番地。一門があつて始めて造つたカーが一番地とかあるわけですよ。そして、この部落に水あつてしか頼つてこないさあね、人間は。そいで、この川がね、ウフガーフて言つてムラガー。ウフガーモだーるし、ムラガーモだーるし、これがカニムトウの下にあるわけですよ。最初、人々が、水を頼つてここに来ますよね、そして、子供が生まれると、また、別にウブガーフてナラビーあるんですよ。こつちがウブガーフていうふうに造られてるんですけどね。そして、こつちに神アサギつと言つてあるんですけどね、こつちには、また、村火の神がある。

*38ヌル（ヌール） 王府が、各村に任命して村落の祭祀を司らせた神女。

*39ウマリングワ 電力高い生まれをしている人で、神役の役目を果たす。

*40サンミン 計算する事の意味だが、民間信仰では、神の教えを開くこと。

*41源隊 沖縄市登川にあった海兵隊基地キャンプヘーラーのこと。一九七七年に返還された。

例えれば、こつちがヌールヤーでしよう、二ーヤで
しよう。御嶽、火ぬ神、カー、この五つあるさーね。

この五つに例えれば、真ん中に柱があつて、四柱建
つでしよう、これは家に例えられているわけさ。最初
は家に例えられて、そして、屋敷は四つの角から出来
ているでしょう。これはまた、屋敷にはめられている
わけ。最初は屋敷は村、国、ユーグサイといつて三つ
しかないわけ。あてるのが、その三つ当てるために、

香炉も三つ必要なわけさ。御天、ジーチ、童宮神、三

つはそういうふうになつてゐるわけ。人の家というの
は、考えると、四つ、主でも四つ柱を建てないと建た
ないというでしよう。「ごめん下さい」というと、ヌ
ールが「はい」というでしよう。ヌールにあてられて
いるわけ。火ぬ神、御嶽、ンブガーつて、こんなして、
この五つあてられているわけ。これが一鎖（一組、一
つなぎり）。一鎖というのは、家の四つの角に中軸あ
つて、ようするに、家は四つの柱と、真ん中に中柱が
ないと建つことができないでしよう。香炉もなににあ
て拌むといつことがならないといけないわけさ。こ
う、順番に、これがわからないと。拌みができないよ
ね。いつでも、自分の家があつて、屋敷があつて、部
落あるというのは、この、四つと五つはなにあてら
れているかと言つたら、ヌールヤーさあね、村根
屋、神サギヌ火ヌ神（村火ぬ神）、御嶽、カー（ウフ
ガー・ウブガー）、この五つは一鎖といつて、頭に入
れておくわけさ（下図参照）。自分の家を拌み、村を
拌み、国拌みといつて覚えておいたら大丈夫。

なんで、この五つは一鎖というかといふと、花活け
は一番上にあるでしよう、あれは、御嶽とあてられて
いるわけ。ウグワーンスは墓とあてられているさあね。

それで、お茶をあげるわけですよ。火ぬ神というの
は、お墓にあてないもんだから、神様にあてているも
んだからね、水しかあげないわけなんですよ。そ
ういうふうに教えられているんですけど。

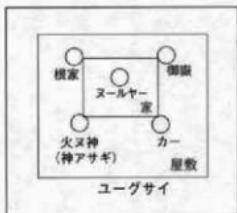
② ノロの繼承と役割

喜友名美咲子（昭和十年六月二十四日生）

ノロの最初は按司の娘で越前間切に生まれた。そし
て、次の部落が出来て二番目に生まれたのが知花だと
思います。また、池原が大きくなつて池原のノロは三
番目に生まれたんだつて。主に大体中部代表としてこ
の三名しかでなかつたんだつて昔はよ。人口が増え、
このカマドウノロが生まれたのが「あなたは子ぬ方
ぬ係りしなさね」と言ってまた、ヌールが生まれたそ
うです。そこで、また、次も朝ぬ方の御廟所建てるで
すよね、そのまた、係りを生まれさせたのが、この
カマドウなんですよ。そして、次にできたのが、午ぬ
方の係りが三番できるわけですね。次、四番が西ぬ
方これだけは、どうしても池原ではヌールが出来るみた
いな感じです。

そして、この、カマドウ一名が、一番大ヌールとい
う風でね、お墓とウグワーンスと全部あてられているわ
けです。だけど、一番目まで生まることはこの人が

*42 二ーヤ 根屋。地域の始祖となる家。
*43 御嶽 神を祭った聖地。



しかできないというふうに言われていますけどね、まだ、誰とはつきり出てないんですよ。今、一人しかいませんんですよ。

その身代わりがね、今、自分が出ているんですけど、そこまで、仕事があるのが、まだ、自身ないけど、今、自分勉強中なんです。

『だいたい、あの人人が二番ヌールに出るは』と思うけど、自信がもてないもんだから言えないんですけどね。ノロは自分たちの祖先にこういう人たちがいらっしゃるもんだから、自分がやるんですってね。この、ヌールというのは、部落は一月は池原の場合は何の行事がある、二月は何の行事があると言つて、毎月の行事をこの人たちがやつていたんだって。だけど、もう、戦後にになつたらなくなつてゐるさあねえ。とっても困つてゐるわけなんですよ。村ヌール。個人の家にクディングワといつていらっしゃるわけですよ。クディングワにも、ウミキ、ウミナイがあるわけなんですよ。クディングワとはノロの手伝いをする人のこと。人より先に来てお手伝いをするのがクディングワ、ウミキ、ウミナイで、また、ノロというのは、こっちが殿になつてゐるんでよ、神アヤギガ。そこで、皆が拝みに来る場合は、村のお祈りする場所があるのよ。自分の門中のもの持つて行つて、部落のお祈りするのがこっちであるわけなんですね。個人の家でお祈りする方はクディングワといつていらっしゃるわけです。そういうふうに、前の方から教えられているもんだから、自分はそういうふうにやつてゐるんだけど。その場合はこつちは、明日は旧

の五月十五日さあね。そして、池原がありますでしょ、登川あつて、知花あつて、松本があるんですけどね、向こうから議員と区長さん、今度の役員の方々が全部いらっしゃるわけですね、四箇所の部落の方が。その場所で神酒が出て、ヌールはその衣装を着て、お折りがあるんです。知花の場合はヌールが前にいらつしやるんですけども、「くなられて、代理としてお供の方だけしかいらっしゃらないわけですよ。戦前は馬乗つてとか、籠乗つてとかいらっしゃるんですけども、もう、亡くなられて、代わりはまだ出ないみたい。

③ カマドウーノロの歌

松下盛一（明治四十五年五月十日生）

池原ぬ
松下
黒瀬のカマドウ

（池原松下の学問を習つてゐるカマドウは）

親ぬ倉開きてい、
船に乗りさ

（親の倉開けて船に乗るよ）

（盛一さんの）おじいさんから伝えればなしとして聞いたものだが、私達のずっと上の神様だから、この話はしない方がいいよといわれていた。歌の意味はよくわからない。

* 44代わりはまだ出ないみたい 村の神事では、司るノロは、生まれながらにして高い靈力を持つ人物である。ノロの後継者は世襲制により選定されているが、その時期は「神のお告げ」を待たなければならぬ。

話者名

(3) 倉のあつた家

(4) カニムトウの屋敷

(5) ヤマニ

(6) 屋敷林

(7) カマ一楚南小の屋号由来

(8) 屋号の報告

3. 池原屋号の変遷

4. 池原の一門

5. 戦後改姓された池原の苗字

6. 後原の屋取星号

7. 池原の建造物

1. 池原の家の造り

2. 新築祝いの歌

3. 門入り唱え

4. 倉

5. 倉

6. 倉

7. 倉

8. 倉

9. 倉

10. 倉

11. 倉

12. 倉

13. 倉

14. 倉

15. 倉

16. 倉

17. 倉

18. 倉

19. 倉

20. 倉

21. 倉

22. 倉

23. 倉

島村善幸 35

① ワタジガ一橋
② ワタジガ一橋
③ ティーチ橋
④ ウチ一橋 (復興橋)

6. その他の橋

7. 石橋

8. 佐渡山安光

9. 佐渡山安光

10. 佐渡山安光

11. 佐渡山安光

12. 佐渡山安光

13. 佐渡山安光

14. 佐渡山安光

15. 佐渡山安光

16. 佐渡山安光

17. 佐渡山安光

18. 佐渡山安光

19. 佐渡山安光

20. 佐渡山安光

21. 佐渡山安光

22. 佐渡山安光

23. 佐渡山安光

24. 佐渡山安光

25. 佐渡山安光

26. 佐渡山安光

27. 佐渡山安光

28. 佐渡山安光

29. 佐渡山安光

30. 佐渡山安光

31. 佐渡山安光

32. 佐渡山安光

33. 佐渡山安光

34. 佐渡山安光

35. 佐渡山安光

36. 佐渡山安光

37. 佐渡山安光

38. 佐渡山安光

39. 佐渡山安光

島袋新栄 44

40. 島袋新栄

41. 島袋新栄

42. 島袋新栄

43. 島袋新栄

44. 島袋新栄

45. 島袋新栄

46. 島袋新栄

47. 島袋新栄

48. 島袋新栄

49. 島袋新栄

50. 島袋新栄

51. 島袋新栄

52. 島袋新栄

53. 島袋新栄

54. 島袋新栄

55. 島袋新栄

56. 島袋新栄

57. 島袋新栄

58. 島袋新栄

59. 島袋新栄

60. 島袋新栄

61. 島袋新栄

62. 島袋新栄

63. 島袋新栄

64. 島袋新栄

65. 島袋新栄

66. 島袋新栄

67. 島袋新栄

68. 島袋新栄

69. 島袋新栄

70. 島袋新栄

71. 島袋新栄

72. 島袋新栄

73. 島袋新栄

74. 島袋新栄

島袋新栄 44

75. 島袋新栄

76. 島袋新栄

77. 島袋新栄

78. 島袋新栄

79. 島袋新栄

80. 島袋新栄

81. 島袋新栄

82. 島袋新栄

83. 島袋新栄

84. 島袋新栄

85. 島袋新栄

86. 島袋新栄

87. 島袋新栄

88. 島袋新栄

89. 島袋新栄

90. 島袋新栄

91. 島袋新栄

92. 島袋新栄

93. 島袋新栄

94. 島袋新栄

95. 島袋新栄

96. 島袋新栄

97. 島袋新栄

98. 島袋新栄

99. 島袋新栄

100. 島袋新栄

101. 島袋新栄

102. 島袋新栄

103. 島袋新栄

104. 島袋新栄

105. 島袋新栄

106. 島袋新栄

107. 島袋新栄

108. 島袋新栄

109. 島袋新栄

島袋新栄 44

110. 島袋新栄

111. 島袋新栄

112. 島袋新栄

113. 島袋新栄

114. 島袋新栄

115. 島袋新栄

116. 島袋新栄

117. 島袋新栄

118. 島袋新栄

119. 島袋新栄

120. 島袋新栄

121. 島袋新栄

122. 島袋新栄

123. 島袋新栄

124. 島袋新栄

125. 島袋新栄

126. 島袋新栄

127. 島袋新栄

128. 島袋新栄

129. 島袋新栄

130. 島袋新栄

131. 島袋新栄

132. 島袋新栄

133. 島袋新栄

134. 島袋新栄

135. 島袋新栄

136. 島袋新栄

137. 島袋新栄

138. 島袋新栄

139. 島袋新栄

140. 島袋新栄

141. 島袋新栄

142. 島袋新栄

143. 島袋新栄

144. 島袋新栄

(1) ユッカジール・産後の栄養

(5) 産後六日目

(1) ジール・シンキ
(2) 六日マンサン(6) 命名
(7) 出産祝歌(8) ムラへの子供が生まれた報告
(9) ンバギー¹
(10) 土の神
2、婚姻
3、米寿(1) ンバギー¹
(2) 火の神
(3) 土の神
2、婚姻
3、米寿

75

又吉松八

1、年中行事
2、池原で行われていた行事(1) 旧正月
正月二日
一月七日
一月十四日(1) 若水汲み
チータチベー(1) 正月四日
一月七日
一月十四日(1) 正月二日
一月七日
一月十四日

(1) ユッカジール・産後の栄養

(2) 六日マンサン

(3) 命名

(4) 出産祝歌

(5) ムラへの子供が生まれた報告

(6) ンバギー¹(7) ンバギー¹(8) ンバギー¹(9) ンバギー¹(10) ンバギー¹(1) ンバギー¹(2) ンバギー¹(3) ンバギー¹(4) ンバギー¹(5) ンバギー¹(6) ンバギー¹(7) ンバギー¹(8) ンバギー¹(9) ンバギー¹(10) ンバギー¹(1) ンバギー¹(2) ンバギー¹(3) ンバギー¹(4) ンバギー¹

島村善幸

松下盛一

平安善徳

松下盛一

島袋新栄

島袋新栄

佐渡山安光

佐渡山安光

松下盛一

松下盛一

島袋新栄

島袋新栄

佐渡山安光

又吉松八

84

83

調査日誌と調査協力者

昭和五十五年

五月十八日

沖縄国際大学口承文化芸術調査団による沖縄市字池原・登川の調査

【調査団長】

沖縄国際大学文学部教授 遠藤庄治

【口承文化芸術研究会】

大城直樹・花城洋子・小橋川生枝・喜納弘子・岡田浩・新城悦子・島袋美奈子

奈子・大熊享・西銘千恵美・大本敬子・西江美智・池原弘子・玉城弘美

仲宗根フキエ・仲松庸尚・安里和子・渡慶次歎・仲宗根悦子・与那原早苗

佐渡山美智子・桔崎一郎・酒川紀子・比嘉和男・崎原有美恵・辺士名美智代

富村朝夫・仲原敦子・山岸信浩・川上

【美里中学校】

金城あつ子・上江洲リカ・緑間直美・安田啓子・幸喜愛

昭和六十年

七月一日……金城茂雄・辺士名初美

七月二日……宮城利旭・廣山寒・翁長雅代・辺士名初美

七月八日……辺士名初美

七月十八日……辺士名初美

七月二十三日……宮城利旭・金城茂雄・川崎義隆・辺士名初美

七月二十九日……仲松庸尚・宮城利旭・辺士名初美

八月九日……辺士名初美

八月十二日……辺士名初美・仲松庸尚

八月二十六日……辺士名初美・仲松庸尚

八月二十七日……辺士名初美・宮城昭美

九月三十日……辺士名初美・宮城昭美・仲松庸尚・真栄城栄子

十月一日……辺士名初美(宮城昭美)

昭和六一年

七月十日……宮里信勇・宮城昭美

七月十一日……宮里信勇・宮城昭美

七月十四日……宮城昭美

七月三十日……比嘉悦子・宮里実雄・宮城昭美

(喜納弘子・岡田浩・新城悦子・島袋美奈子)

二月二十八日……比嘉悦子

平成二年

三月十四日……平敷美恵子

【諸喜田綾子・上門千智子・大黄慈子・平良真也】

平成三年

十一月十一日……宮城昭美

平成七年

二月十七日……宮城昭美

平成九年

十一月十九日……玉代勢豊子・宮城昭美

○編集協力者
〔資料提供〕桜井清・佐渡山安光・大瀬トヨ

(写真提供)島崎雅之・佐次田幸栄(石川市)

(挿絵作成) 長浜益美

○資料整理

山城綾子・上門博之・宜保勝・山内智子・辺土名初美

○原稿作成及び編集

宮城昭美・比嘉清和・屋良奈那子

○参考文献及び資料

- 「沖縄文化史辞典」 真栄田義見・三隈治雄・源武雄編 東京堂出版発行 一九八二年
- 「沖縄大百科事典上・中・下」 沖縄タイムス社発行 一九八三年
- 「角川日本地名大辞典47沖縄県」 角川日本地名大辞典編纂委員会編 角川書店発行 一九八六年
- 「沖縄語辞典」 国立国語研究所編集 大蔵省印刷局発行 一九八十年
- 「沖縄の御頼ことば辞典」 高橋恵子著 ポーダーインク発行 一九九八年
- 「沖縄の信仰用語」 比嘉朝進著 風土記社発行 一九九一年
- 「伝承のコスマロジ」 高橋一郎著 第一書房発行 一九九四年
- 「私たちの沖縄市—ミニミニ事典」 島原恒新著 一九九一年
- 「私が推察する池原村及び當村」 桜井清著 一九七八年
- 「石川の民話 下巻・伝説編」 石川市教育委員会発行 一九八五年
- 「中城の民話」 中城村教育委員会発行 一九九九年
- 「伊江島の民話」 伊江村教育委員会発行
- 「具志川市史 第三巻 民話編上・伝説」 具志川市教育委員会発行 一九九七年
- 「沖縄市の遺跡」 沖縄市教育委員会発行 一二〇〇一年

池原の伝承をたずねて

沖縄市文化財調査報告書第31集

平成17年3月25日 発行

発 行 沖縄市教育委員会
編 集 沖縄市立郷土博物館
〒904-0031 沖縄県沖縄市字上地2-19-6
☎ (098)932-6882
印 刷 株式会社 沖産業
〒901-2221 宜野湾市伊佐2-1-1
☎ (098)898-2191

